







14章 金属 工事	① アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	処理の種類 (14.2.1)(表14.2.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	2 鉄鋼の垂鉛めっき	垂鉛めっきの種類 (14.2.2)(表14.2.2)	種別	施工箇所	
		表面処理方法	種別	施工箇所	
		溶融垂鉛めっき	種別	施工箇所	
		電気垂鉛めっき	種別	施工箇所	
	③ 軽量鉄骨天井下地材料	屋内 ※19形 (14.4.2)(表14.4.1)	種別	施工箇所	
		屋外 ※25形 (14.4.2)(表14.4.1)	種別	施工箇所	
	④ 軽量鉄骨壁下地材料	スタッド、ランナなどの種類 (14.5.3)(表14.5.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	5 金属成形板張り	形状、製法、材種、寸法(mm)、厚さ(mm) (14.6.2)(表14.2.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	6 アルミニウム製支木	伸縮継手 ※設けない ・ 設ける(施工箇所は図示) (14.6.3)	種別	施工箇所	
		取付下地 ※屋内19形 ※屋外25形 野縁間隔 ・ 300mm ・ 360mm (14.6.3)	種別	施工箇所	
15章 左官 工事	① モルタル塗り	防水モルタル 防水剤は下記製造所の製品とする。 (15.3.2)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	2 セルフレベリング材	種類、品質 ※標仕表15.5.1による。 (15.5.2)(表15.5.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	③ 仕上塗材仕上げ	種類、呼び名、仕上の形状 (15.6.2)(表15.6.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	1 防火戸	防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・ 有り ・ 無し (16.1.3)	種別	施工箇所	
		防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示 (16.1.3)	種別	施工箇所	
	2 見本の製作等	特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)	種別	施工箇所	
		外部に面する建具(フロントサッシは除く) (16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)	種別	施工箇所	
	① アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシは除く) (16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
	16章 建具 工事	17 オーバーヘッドドア	セクション材料 ※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ (16.13.2)	種別	施工箇所
			種別	種別	施工箇所
④ 網戸	5 樹脂製建具	外部に面する建具 (16.3.2)(16.3.4)(表16.3.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑥ 鋼製建具	6 鋼製建具	簡易気密型ドアセット 適用箇所: (16.4.2)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑦ 鋼製軽量建具	7 鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセット 適用箇所: (16.5.2)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑧ 標準型鋼製軽量建具	8 標準型鋼製軽量建具	製造所の仕様による (16.5.6)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑨ ステンレス製建具	9 ステンレス製建具	ステンレス鋼板 ※SUS304 ・ SUS430J1L ・ SUS443J1 (16.6.3)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑩ 木製建具	10 木製建具	建具材の含水率による種別 (16.7.2)(表16.7.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑪ 建具用金物	12 自動ドア開閉装置	金物の見掛かり部材 (16.8.2)(表16.8.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑫ 重量シャッター	14 重量シャッター	形式 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑬ 軽量シャッター	15 軽量シャッター	開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ・ 手動式 (16.12.2)(表16.12.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑭ その他のシャッター	16 その他のシャッター	リンググリルシャッター (16.12.2)(表16.12.1)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
⑮ ガラス	19 ガラス用フィルム	ガラス材料 建具表による (16.14.2)	種別	施工箇所	
		種別	種別	施工箇所	
17章 カーテン ウオール 工事	18章 塗装 工事	② 各面の素地ごしらえ	19章 カーテン ウオール 工事	1 性能 (17.1.1)(表17.1.1)	
					種別
18章 塗装 工事	② 各面の素地ごしらえ	木部 (18.2.2)	2 材料、形状及び仕上げ (17.2.3)(17.3.3)	3 取付 (17.2.5)(17.3.5)	
		種別			種別
19章 内装 工事	① ビニル床シート、ビニル床タイル張り	・ ビニル床シート (19.2.2)	② 接着剤	3 カーベツト敷き (19.3.2)(19.3.3)(表19.3.1~2)	
					種別
③ タイルカーベツト (19.3.2)(19.3.3)(表19.3.2)	④ 合成樹脂塗り床 (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1~19.4.7)	種別	種別	種別	
					種別
⑤ フローリング張り (19.5.2~19.5.6)(表19.5.1~19.5.6)	⑥ 畳敷き材料 (19.6.2)(表19.6.1)	種別	種別	種別	
					種別
⑦ 石こうボードその他のボード張り (19.7.2)(表19.7.1)	⑧ 化粧石膏ボード (19.7.3)(表19.7.2)(表19.7.3)(表19.7.4)(表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
⑨ 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 (19.7.3)(表19.7.2)(表19.7.3)(表19.7.4)(表19.7.5)	⑩ 合板類の張り付け ・ A種 ※B種 (表19.7.3)	種別	種別	種別	
					種別
⑪ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	⑫ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
⑬ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	⑭ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
⑮ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	⑯ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
⑰ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	⑱ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
⑲ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	⑳ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
⑳ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉑ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉒ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉓ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉔ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉕ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉖ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉗ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉘ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉙ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉚ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉛ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉜ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉝ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㉞ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㉟ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊱ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊲ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊳ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊴ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊵ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊶ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊷ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊸ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊹ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊺ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊻ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊼ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊽ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊾ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別
㊿ 目地処理工法(ビニルクロス下地) ・ 目地工法(石こうボードの目地工法) (表19.7.5)	㊿ 石こうボードの目地工法 (表19.7.5)	種別	種別	種別	
					種別

19章 内装工事	⑧ 壁紙張り (19.8.2)(19.8.3)	<table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>品質</th><th>防火性能</th></tr> <tr><td>便所壁</td><td>※量産φ10</td><td>・不燃◎準不燃・難燃</td></tr> <tr><td>待機室</td><td>※量産φ10</td><td>・不燃◎準不燃・難燃</td></tr> <tr><td>和室</td><td>ジュラク調 木目調</td><td>・不燃◎準不燃・難燃</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>・不燃・準不燃・難燃</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>・不燃・準不燃・難燃</td></tr> </table> <p>モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ ・ A種 ※B種 (表19.8.1)  コンクリート面の素地ごしらえ ・ A種 ※B種 (表19.8.2)  せっこうボード面及びけい酸カルシウム表面の素地ごしらえ ・ A種 ※B種 (表19.8.3)  壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種</p>	施工箇所	品質	防火性能	便所壁	※量産φ10	・不燃◎準不燃・難燃	待機室	※量産φ10	・不燃◎準不燃・難燃	和室	ジュラク調 木目調	・不燃◎準不燃・難燃			・不燃・準不燃・難燃			・不燃・準不燃・難燃	⑭ 点検口 天井点検口 ※アルミニウム製 (※額縁タイプ ・ 目地タイプ) 床点検口 ※アルミニウム製 ・ ステンレス製 受け枠(・)	① アスファルト舗装 構成及び厚さ ◎車道部の基層なし 基層 — 表層 50mm (22.4.2) ・ 車道部の基層有り 基層 50mm 表層 30mm ・ 歩道部 基層 — 表層 30mm 配合その他 (22.4.4) 加熱アスファルト混合物等の種類 (表22.4.5~6) 表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13) 又は密粒度アスファルト混合物 (13F) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13) 試験練り ・ 行う ※行わない 切取り試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6) 平坦性 ※通行に支障となる水たまりを生じない程度 アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ◎行わない	(収集の制限) 第5 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。 (再提供の禁止) 第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報第三者に再提供してはならない。 2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。 3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。 (複写、複製の禁止) 第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報記録された資料等(以下「資料等」という。)を複写し、又は複製してはならない。 (持ち出しの禁止) 第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。 2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。 3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等をして関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びびき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。 (資料等の返還) 第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄し、又は消去する場合を除く。 2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。 (1) 紙媒体 シュレッダーによる裁断 (2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕 3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。 4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合には、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。 (研修の実施) 第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約における個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。 (苦情の処理) 第11 乙は、この契約による工事に施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。 (定期報告及び事故発生時における報告) 第12 乙は、甲から個人情報の取扱の状況について報告を求められた場合は、直ちに報告しなければならない。 2 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。 (監査及び検査) 第13 甲は、この契約による業務に係る個人情報の取り扱いについて、この契約の規定に基づき必要な措置が講じられていることを検証および確認するため、乙及び第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による業務を受託し、又は請け負った第三者に対して、監査又は検査を行うことができる。 2 甲は、前項の目的を達するため、乙に対して必要な情報を求め、又はこの契約による業務の処理に関して必要な指示をすることができる。 (契約解除及び損害賠償) 第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認められたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。																					
	施工箇所	品質	防火性能																																									
	便所壁	※量産φ10	・不燃◎準不燃・難燃																																									
	待機室	※量産φ10	・不燃◎準不燃・難燃																																									
	和室	ジュラク調 木目調	・不燃◎準不燃・難燃																																									
			・不燃・準不燃・難燃																																									
			・不燃・準不燃・難燃																																									
	⑨ 断熱材 (19.9.2)(19.9.3)	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>施工箇所</th><th>厚さ(mm)</th><th>品質等</th></tr> <tr><td>・ 押出法 ※2種b</td><td>※一般部</td><td>※25</td><td>・ ノンフロンのもの ・ 特定フロンを使用しないもの</td></tr> <tr><td>ポリスチレンフォーム</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>保温板</td><td>※3種b</td><td>・ 接地部分 ※25</td><td></td></tr> <tr><td>・ 現場発泡断熱材 ※A種1又はA種1H</td><td>※断熱材補修部分</td><td></td><td>・ ノンフロンのもの ・ 特定フロンを使用しないもの 難燃性・3級・2級</td></tr> <tr><td></td><td>・ 一般部</td><td>※15</td><td></td></tr> <tr><td>・ 断熱材兼用型枠</td><td>・ 木質系 ・ コクリト系 ・ フアラック系</td><td>※壁(図示の範囲) ※40以下</td><td></td></tr> </table> <p>ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種</p>	種類	施工箇所	厚さ(mm)	品質等	・ 押出法 ※2種b	※一般部	※25	・ ノンフロンのもの ・ 特定フロンを使用しないもの	ポリスチレンフォーム				保温板	※3種b	・ 接地部分 ※25		・ 現場発泡断熱材 ※A種1又はA種1H	※断熱材補修部分		・ ノンフロンのもの ・ 特定フロンを使用しないもの 難燃性・3級・2級			・ 一般部	※15		・ 断熱材兼用型枠	・ 木質系 ・ コクリト系 ・ フアラック系	※壁(図示の範囲) ※40以下		⑮ 流し合ユニット 種類 寸法 適用内容 規格・品質等 流し合 ※1200・1500・1800 トラップ付 ・ 優良住宅部品 コンロ台 ※600・700 ・ バックガード付 ・ つり戸棚 ※1200・900 ◎600 水切棚 ※1200・900 SUS製一段式 ※市販品	8 コンクリート舗装 (22.5.2)	9 カラー舗装 (22.6.2)(表22.6.1)	10 透水性アスファルト舗装 (22.7.2)	11 ブロック舗装 (22.8.2)	12 砂利敷き (22.9.2)	23 植栽工事	20 表示	21 排水工事	22 舗装工事	23 埋戻し土 (21.2.1)(表3.2.1)	24 路盤材料 (22.3.2~5)	⑯ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)
	種類	施工箇所	厚さ(mm)	品質等																																								
	・ 押出法 ※2種b	※一般部	※25	・ ノンフロンのもの ・ 特定フロンを使用しないもの																																								
ポリスチレンフォーム																																												
保温板	※3種b	・ 接地部分 ※25																																										
・ 現場発泡断熱材 ※A種1又はA種1H	※断熱材補修部分		・ ノンフロンのもの ・ 特定フロンを使用しないもの 難燃性・3級・2級																																									
	・ 一般部	※15																																										
・ 断熱材兼用型枠	・ 木質系 ・ コクリト系 ・ フアラック系	※壁(図示の範囲) ※40以下																																										
10 ポリカーボネート樹脂板	<table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>厚さ</th><th>色</th><th>耐候性</th><th>防火性能</th></tr> <tr><td></td><td>・ 3 ・ 5</td><td>・ 着色 ・ 無色 ・ ブロンズ</td><td>※一般型 ・ 超耐候性</td><td>※有り(大臣認定) ・ 無し</td></tr> <tr><td colspan="5">・ 大臣認定 (・ DW ・ UW )</td></tr> </table>	施工箇所	厚さ	色	耐候性	防火性能		・ 3 ・ 5	・ 着色 ・ 無色 ・ ブロンズ	※一般型 ・ 超耐候性	※有り(大臣認定) ・ 無し	・ 大臣認定 (・ DW ・ UW )					17 くつふきマット	18 フェンス	19 旗ざお受金物	20 旗ざお	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)															
施工箇所	厚さ	色	耐候性	防火性能																																								
	・ 3 ・ 5	・ 着色 ・ 無色 ・ ブロンズ	※一般型 ・ 超耐候性	※有り(大臣認定) ・ 無し																																								
・ 大臣認定 (・ DW ・ UW )																																												
1 フリーアクセスフロア (20.2.2)	<table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>仕上り高(mm)</th><th>耐震性能</th><th>耐荷重性能</th><th>表面仕上げ材</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・ 3000N ・ 5000N</td><td>・ メラミン樹脂又は ・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット</td></tr> </table>	施工箇所	仕上り高(mm)	耐震性能	耐荷重性能	表面仕上げ材				・ 3000N ・ 5000N	・ メラミン樹脂又は ・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット	18 旗ざお	19 旗ざお受金物	20 旗ざお	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																					
施工箇所	仕上り高(mm)	耐震性能	耐荷重性能	表面仕上げ材																																								
			・ 3000N ・ 5000N	・ メラミン樹脂又は ・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット																																								
2 可動間仕切り (20.2.3)	<table border="1"> <tr><th>構造形式</th><th>h<sup>1</sup> 柱部の総厚さ(mm)</th><th>表面材種 厚さ(mm)</th><th>表面仕上げ</th></tr> <tr><td>※パネル式 ・ スタッド式 ・ スタッドパネル式</td><td></td><td>※鋼板 (※0.6 ・ 0.8)</td><td>※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け</td></tr> </table> <p>遮音性 ・ あり ( ) ・ なし  操作方法 ・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式 (20.2.4)  パネル表面材 (・ )  パネル装着装置の操作方法 (・ ) (20.2.5)  パネル表面材 ※高圧メラミン樹脂系化粧板(アルミ製コーナーエッジ付き)  ・ ポリエステル樹脂系化粧板(アルミ製コーナーエッジ付き)  脚部 (アクリル製) ※幅木タイプ ・ 脚金物タイプ</p>	構造形式	h <sup>1</sup> 柱部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	表面仕上げ	※パネル式 ・ スタッド式 ・ スタッドパネル式		※鋼板 (※0.6 ・ 0.8)	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																								
構造形式	h <sup>1</sup> 柱部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	表面仕上げ																																									
※パネル式 ・ スタッド式 ・ スタッドパネル式		※鋼板 (※0.6 ・ 0.8)	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け																																									
3 移動間仕切り	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>材料の種類</th><th>表面処理</th></tr> <tr><td>手すり</td><td>※ステンレス (SUS 304) ・ 鉄</td><td>※H.L程度 ・ 鏡面程度 溶融亜鉛めっき 外部 ※C種 電気亜鉛めっき 内部 ※E種</td></tr> </table>	種類	材料の種類	表面処理	手すり	※ステンレス (SUS 304) ・ 鉄	※H.L程度 ・ 鏡面程度 溶融亜鉛めっき 外部 ※C種 電気亜鉛めっき 内部 ※E種	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																										
種類	材料の種類	表面処理																																										
手すり	※ステンレス (SUS 304) ・ 鉄	※H.L程度 ・ 鏡面程度 溶融亜鉛めっき 外部 ※C種 電気亜鉛めっき 内部 ※E種																																										
4 トイレブース	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>色彩</th><th>備考</th></tr> <tr><td>・ 黒板</td><td>※ホロー</td><td>※緑 ・ 黒</td><td>※平面 ・ 曲面</td></tr> <tr><td></td><td>※焼付け</td><td>※緑 ・ 黒</td><td></td></tr> <tr><td>◎ホワイトボード</td><td>※ホロー W900×H600</td><td>※白</td><td></td></tr> </table>	種類	寸法(mm)	色彩	備考	・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面		※焼付け	※緑 ・ 黒		◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白		21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																
種類	寸法(mm)	色彩	備考																																									
・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面																																									
	※焼付け	※緑 ・ 黒																																										
◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白																																										
5 手すり	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>色彩</th><th>備考</th></tr> <tr><td>・ 黒板</td><td>※ホロー</td><td>※緑 ・ 黒</td><td>※平面 ・ 曲面</td></tr> <tr><td></td><td>※焼付け</td><td>※緑 ・ 黒</td><td></td></tr> <tr><td>◎ホワイトボード</td><td>※ホロー W900×H600</td><td>※白</td><td></td></tr> </table>	種類	寸法(mm)	色彩	備考	・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面		※焼付け	※緑 ・ 黒		◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白		21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																
種類	寸法(mm)	色彩	備考																																									
・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面																																									
	※焼付け	※緑 ・ 黒																																										
◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白																																										
6 階段滑り止め (20.2.7)	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>色彩</th><th>備考</th></tr> <tr><td>・ 黒板</td><td>※ホロー</td><td>※緑 ・ 黒</td><td>※平面 ・ 曲面</td></tr> <tr><td></td><td>※焼付け</td><td>※緑 ・ 黒</td><td></td></tr> <tr><td>◎ホワイトボード</td><td>※ホロー W900×H600</td><td>※白</td><td></td></tr> </table>	種類	寸法(mm)	色彩	備考	・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面		※焼付け	※緑 ・ 黒		◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白		21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																
種類	寸法(mm)	色彩	備考																																									
・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面																																									
	※焼付け	※緑 ・ 黒																																										
◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白																																										
⑦ 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>色彩</th><th>備考</th></tr> <tr><td>・ 黒板</td><td>※ホロー</td><td>※緑 ・ 黒</td><td>※平面 ・ 曲面</td></tr> <tr><td></td><td>※焼付け</td><td>※緑 ・ 黒</td><td></td></tr> <tr><td>◎ホワイトボード</td><td>※ホロー W900×H600</td><td>※白</td><td></td></tr> </table>	種類	寸法(mm)	色彩	備考	・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面		※焼付け	※緑 ・ 黒		◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白		21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																
種類	寸法(mm)	色彩	備考																																									
・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面																																									
	※焼付け	※緑 ・ 黒																																										
◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白																																										
8 表示 (20.2.11)	衝突防止表示 ※図示 (市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・ ) ・ なし	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																																
9 タラップ (20.2.12)	誘導標識、非常用進入表示等は市販品とし、その他は図示とする。 ※ステンレス (SUS 304) ※研磨無し 溶融亜鉛めっき 内外部 ※C種	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																																
⑩ ブラインド (20.2.14)	<table border="1"> <tr><th>形式</th><th>種類</th><th>スラットの材質・幅(mm)</th><th>施工箇所</th></tr> <tr><td>※横型</td><td>※ギヤ式 ・ コード式 ・ 操作棒式</td><td>※アルミニウム合金 ※25</td><td>図示による</td></tr> <tr><td>・ 縦型</td><td>・ 1本操作コード ※2本操作コード</td><td>・ アルミスラット ・ 80 ・ クロススラット ・ 100</td><td></td></tr> </table>	形式	種類	スラットの材質・幅(mm)	施工箇所	※横型	※ギヤ式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※アルミニウム合金 ※25	図示による	・ 縦型	・ 1本操作コード ※2本操作コード	・ アルミスラット ・ 80 ・ クロススラット ・ 100		21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																				
形式	種類	スラットの材質・幅(mm)	施工箇所																																									
※横型	※ギヤ式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※アルミニウム合金 ※25	図示による																																									
・ 縦型	・ 1本操作コード ※2本操作コード	・ アルミスラット ・ 80 ・ クロススラット ・ 100																																										
11 ロールスクリーン (20.2.15)	<table border="1"> <tr><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>色彩</th><th>備考</th></tr> <tr><td>・ 黒板</td><td>※ホロー</td><td>※緑 ・ 黒</td><td>※平面 ・ 曲面</td></tr> <tr><td></td><td>※焼付け</td><td>※緑 ・ 黒</td><td></td></tr> <tr><td>◎ホワイトボード</td><td>※ホロー W900×H600</td><td>※白</td><td></td></tr> </table>	種類	寸法(mm)	色彩	備考	・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面		※焼付け	※緑 ・ 黒		◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白		21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																
種類	寸法(mm)	色彩	備考																																									
・ 黒板	※ホロー	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面																																									
	※焼付け	※緑 ・ 黒																																										
◎ホワイトボード	※ホロー W900×H600	※白																																										
12 カーテン (20.2.16)	<table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>名称・品質</th><th>ひだの種類</th><th>形式</th></tr> <tr><td></td><td></td><td>・ 箱ひだ等 ・ 片ひだ</td><td>・ 片引 ・ 引分</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>・ 箱ひだ等 ・ 片ひだ</td><td>・ 片引 ・ 引分</td></tr> </table> <p>防火加工 消防庁認定の ④ とする  ・ カーテンレール ・ アルミニウム製 ※ステンレス製 ◎型又はD型  カーテン生地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・ 一幅未満は使用しない  暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。  ・ 両端 ・ 上部 ※召合わせ  表面材 ※ビニルレザー張り(防火加工) ・</p>	施工箇所	名称・品質	ひだの種類	形式			・ 箱ひだ等 ・ 片ひだ	・ 片引 ・ 引分			・ 箱ひだ等 ・ 片ひだ	・ 片引 ・ 引分	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																				
施工箇所	名称・品質	ひだの種類	形式																																									
		・ 箱ひだ等 ・ 片ひだ	・ 片引 ・ 引分																																									
		・ 箱ひだ等 ・ 片ひだ	・ 片引 ・ 引分																																									
13 アコーディオンドア	<table border="1"> <tr><th>形式</th><th>間開き</th><th>片開き</th></tr> <tr><td>折りたたみ幅(mm)</td><td>※約 230</td><td>・ 約 120</td></tr> </table>	形式	間開き	片開き	折りたたみ幅(mm)	※約 230	・ 約 120	21 丸環	22 救助袋	23 屋根根ホール	24 視覚障害者用誘導床材	25 車止め支柱	26 エキスパンションジョイント金物	27 耐震スリット	28 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)	29 路盤材料 (22.3.2~5)	⑰ 路盤の構成及び仕上がり (22.3.2)																										
形式	間開き	片開き																																										
折りたたみ幅(mm)	※約 230	・ 約 120																																										

四日市市都市整備部営繕工務課		工事名	
		大矢知分団車庫改築工事	
一級建築士 登録 第 号	目付	図面番号	縮尺
	令和8年4月	特記仕様書(4)	—
四日市市議訪1番5号		図面番号	A-04
			7
		令和8年3月版	

設計概要		敷地求積図		求積図(申請建物)	
建築主	四日市市長				
建築主住所	四日市市諏訪町1番5号				
工事場所	住居表示:四日市市下さざらい町1-3 地名地番:四日市市下さざらい町187-1の一部				
敷地面積	172.60 m <sup>2</sup>				
用途地域	第二種住居地域 (建ぺい率:60%、容積率:200%)				
床面積	申請部分:96.48 m <sup>2</sup> 申請以外の部分:- m <sup>2</sup> 合計:96.48 m <sup>2</sup> (自動車車庫等の部分:39.63 m <sup>2</sup> > 延べ床面積の1/5:19.29 m <sup>2</sup> ) 容積率算定用床面積:96.48-19.29=77.19 m <sup>2</sup> 容積率:44.73%<200%				
建築面積	申請部分:50.29 m <sup>2</sup> 申請以外の部分:- m <sup>2</sup> 合計:50.29 m <sup>2</sup> 建ぺい率29.14%<60%				
最高軒高	7.149 m (設計GLより 7.120 m)				
最高高さ	7.319 m (設計GLより 7.290 m)				
構造	車庫建物部分 鉄骨造2階建て ホース乾燥塔: コンクリート製既製品 プレハブ物置: スチール製				
設備	機械設備・電気設備				
工事範囲	分団車庫新築				

外部仕上表					
屋根	ルーフデッキ カラーガルバリウム鋼板 t=0.8 H=85 (告示1400号 不燃材料) 不燃断熱材 t=5裏打ち (屋内)	樋	軒樋: 硬質塩ビ製 W=130 縦樋: 硬質塩ビ製 カラーVP 100φ	その他	プレハブ物置 榊福葉製作所 フォルタ FS-2609S 榊ヨドコウ エルモ LMD-2908 各社同等品
外壁	角波カラーガルバリウム鋼板 t=0.5 透湿防水シート ケイカル板 t=6 下地 水切金物: カラーガルバリウム鋼板 t=0.5	断熱材	屋根: グラスウール t=50 24kg/m <sup>3</sup> 外壁・内壁: グラスウール t=50 24kg/m <sup>3</sup> 範囲は平面詳細図による		
外部巾木	モルタル金ゴテ仕上げ GL+490	庇	ルーフデッキ カラーガルバリウム鋼板 t=0.8 H=85 (告示1400号 不燃材料)		
外部階段	踏板: CHPL-6 DP 手摺: アルミシルバー				
建具	アルミサッシ鉄骨用サッシ 軽量バランスシャッター				

内部仕上表						
室名	床	巾木	壁	天井	廻縁	備考
1階 車庫	コンクリート金ゴテ仕上げ	コンクリート打放し	鉄骨鋼縁表のまま SOP 一部ケイカル板 t=6.0素地 (縦方向のみアルミジョイナー押え)	デッキプレート表し (垂鉛メッキ) CH=3640 ~ 3800		鉄骨見え掛かり 全てSOP ホース棚、コート・ヘルメット掛け (22ヶ x 4段) ・車止め
1階 便所	50角モザイクタイル	タイル巾木	LGS W 50下地 + 耐水PB t=12.5下地 クロス貼り FL+1100まで 100角タイル貼り	軽量鉄骨天井下地 化粧PB t=9.5 CH=2350	塩ビ製	棚板・ビクトサイン、腰壁: 7mm製見切り
2階 待機室	コンクリート金ゴテ仕上げ 一部 乾式二重床下地構造用合板 t=12+複合フロリング 貼り t=12 (塗装品)	塩ビ製巾木 H=100 一部 木製巾木 H=60	LGS W 65 (一部LGS W 90) +耐水PB t=12.5下地 クロス貼り (準不燃) 流し前: LGS W 65+耐水PB t=12.5下地 化粧ケイカル板 t=6貼り (7mmジョイナー使用)	軽量鉄骨天井下地 化粧PB t=9.5 CH=2600	塩ビ製	ピクチャーレール (7ヶ所程度)、アルミ枠ホワイトボード 750 x 900 (後付け) 流し台 L=1200程度及びIHコンロ台 L=600 (レンジフードと吊戸棚付き)
2階 和室14帖	乾式二重床下地構造用合板 t=12+タタミ敷き 一部 乾式二重床下地構造用合板 t=12+複合フロリング 貼り t=12 (塗装品)	タタミ敷き タタミ寄せ	LGS W 65+PB t=12.5下地 ジュラク調クロス貼り	軽量鉄骨天井下地 PB t=9.5+木目調クロス貼り CH=2400	木製	ピクチャーレール (7ヶ所合計12ヶ所程度) 横型ブラインド (正面付け)
2階 押入1、2	乾式二重床下地構造用合板 t=12+シナ合板 t=5.5 素地	雑巾ズリ 素地	LGS W 65+PB t=12.5下地 シナ合板 t=4 素地	軽量鉄骨天井下地 PB t=9.5+シナ合板 t=4 素地 CH=2400	木製 素地	中段・枕棚付き、押入2のみ:ハンガーパイプ (SUS製34φHL)
2階 便所	乾式二重床下地構造用合板 t=12+9、t=12床シート t=2.0 (防汚防滑仕様)	塩ビ製巾木 H=100	LGS W 65の上 PB t=12.5下地 クロス貼り	軽量鉄骨天井下地 化粧PB t=9.5 CH=2300	塩ビ製	ビクトサイン、面台 (ポリ合板フロツク)
共通事項	2階スラブ: デッキプレート H=50の上コンクリート t=60金ゴテ仕上げ 木材: 見え隠れ、車庫棚-杉特1等、見え掛かり-上がり框・棚框・その他: 杉上小		クロス: 準不燃 防火2級 (QM-0803 同等品) 化粧ケイカル板 t=6: 不燃 (NM-8579) ケイカル板 t=6: 不燃 (NM-9029) SOP: 準不燃 (QM-9816)	特記なき限り、次の木部はUC塗装・上がり框、建具枠及び額縁(数居部分は除く)、壁見切、床見切、巾木、廻り縁 内部 塗装: 鉄部見え掛かり部 SOP塗装、その他錆止め塗装		

特記事項

壁: PB t=12.5・耐水PB t=12.5: 不燃【NM-8619】

壁: PB t=9.5: 準不燃【QM-9828】

天井: 化粧石膏ボード t=9.5: 不燃【NM-1864】

・吹き付け石綿及び吹き付けロックウール等の建築材料は使用しないこと。

・建材全て【F☆☆☆☆】とする。石綿及びクロルビリホスが含まれる材料は使用しないこと。

・ビニル床シート: ロンシル サニタリウム、タロンマックス 材コーン、東リ 消臭NS17L 各社同等以上

・乾式二重床耐荷重: 1800N/m<sup>2</sup>以上



アイ・エス建築企画

三重県知事登録(1)第1384号 一級建築士事務所 一級建築士 第227535号 生川 昌毅

Project

大矢知分団車庫改築工事

Date

2025.10.24

Scale

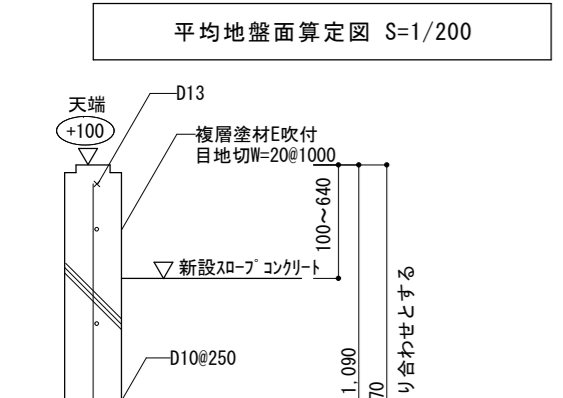
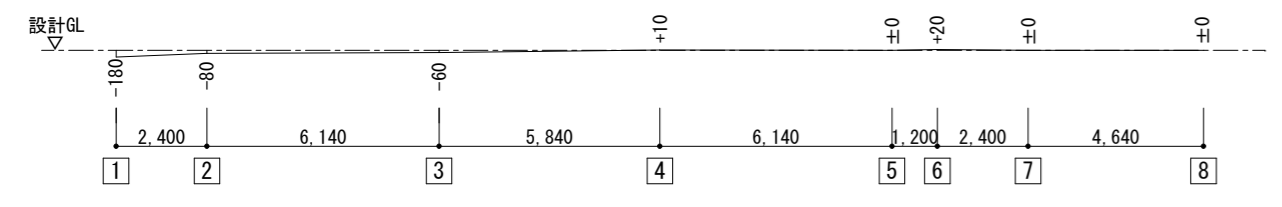
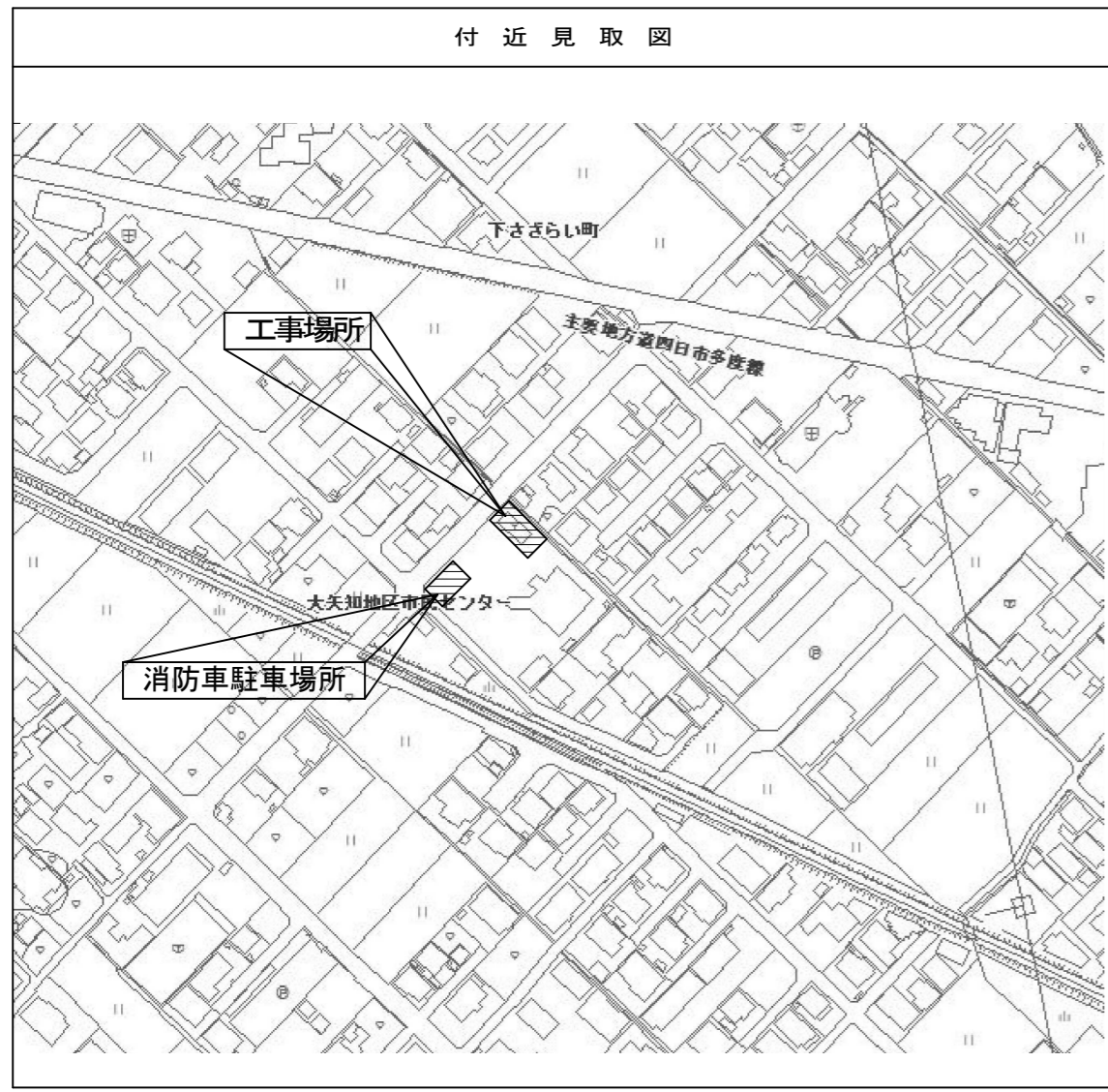
A2:1/200, A3:1/282

Title

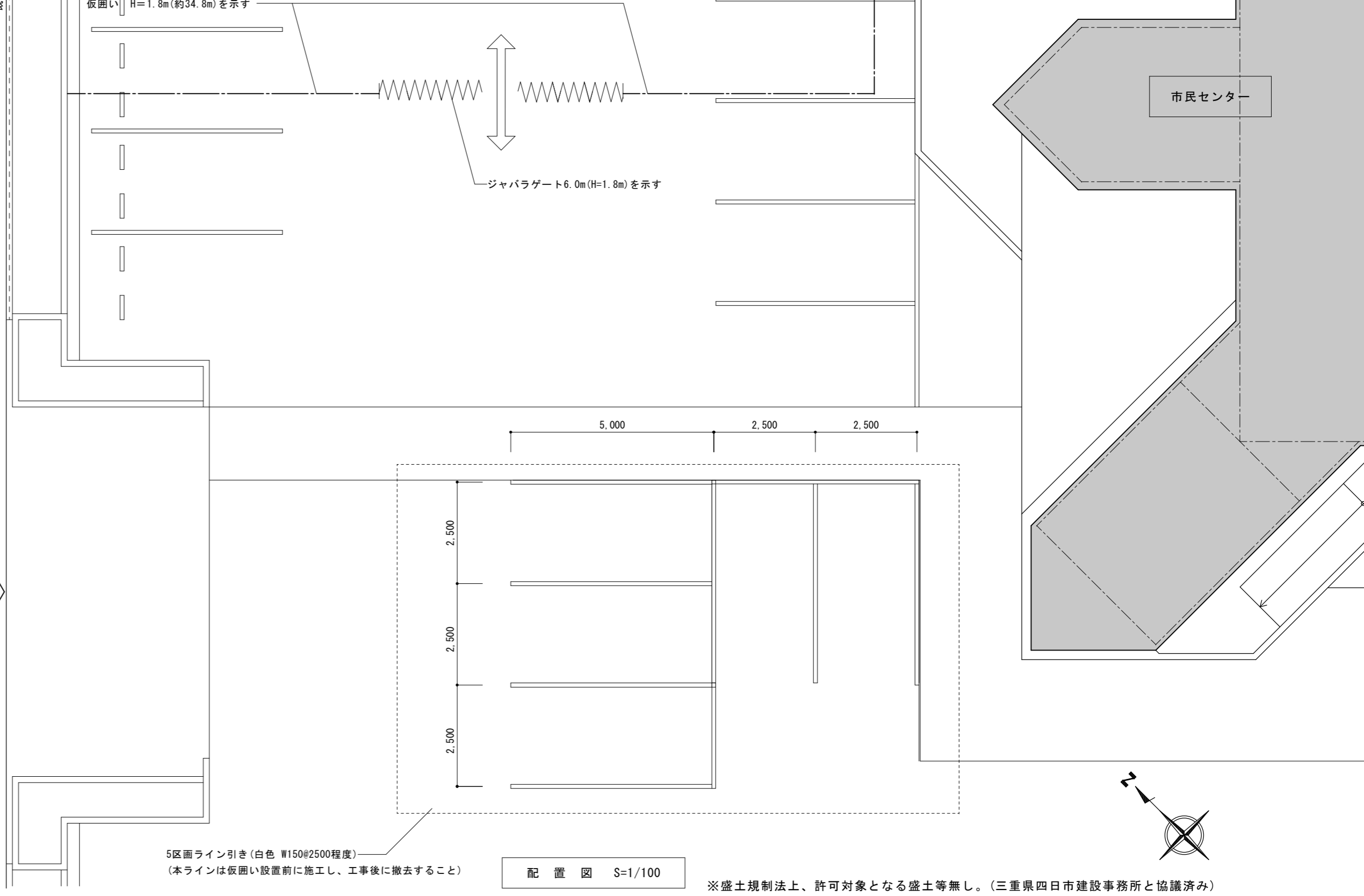
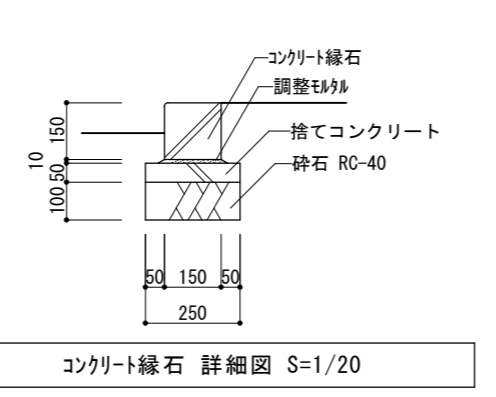
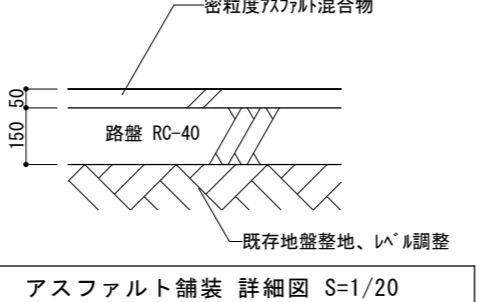
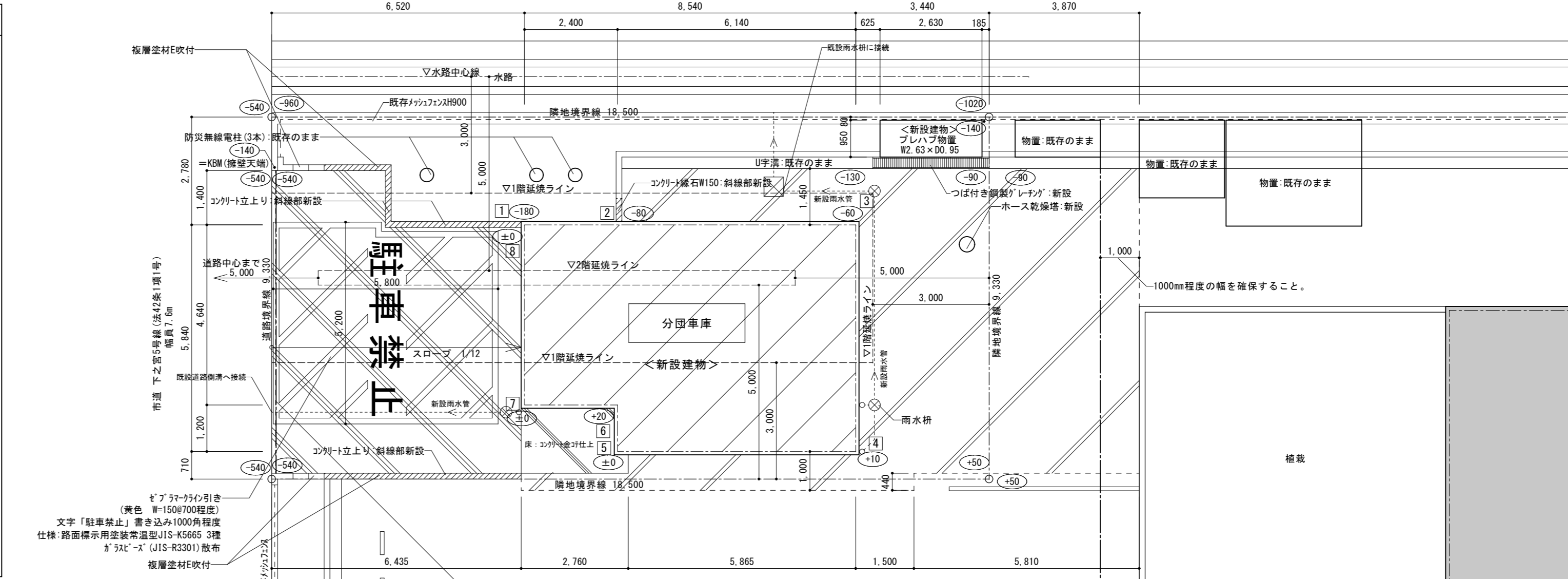
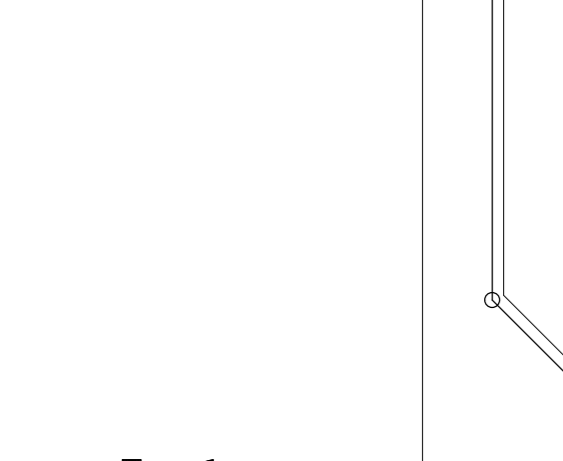
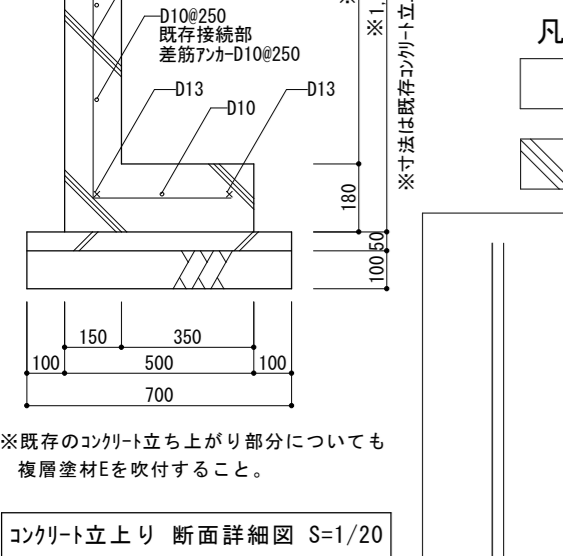
概要書、求積図、仕上表

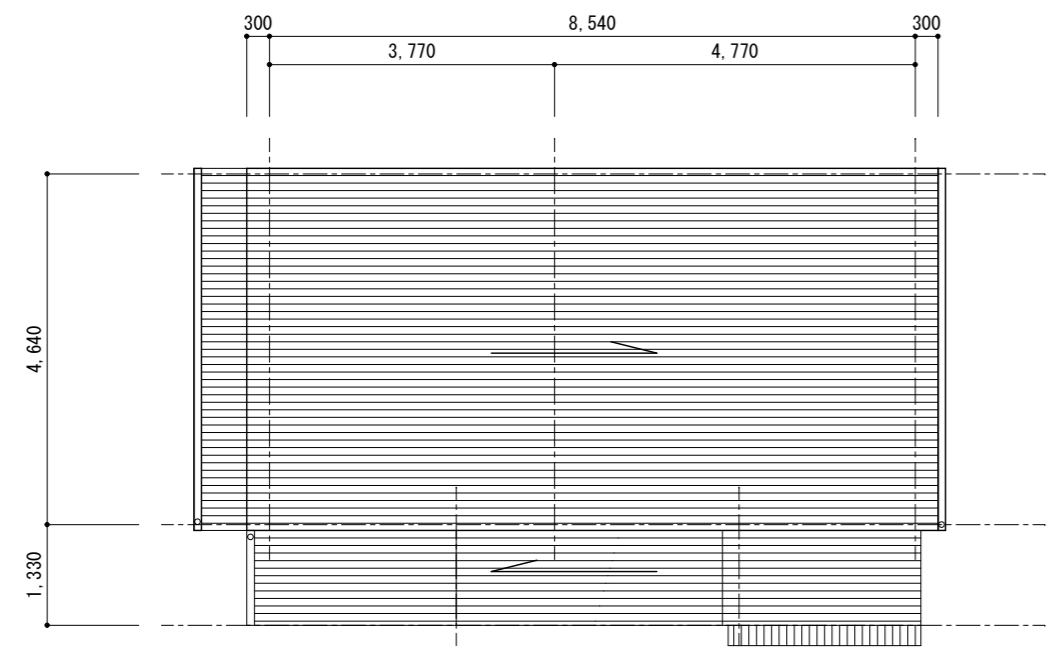
No.

A-05



区間	区間長さ (m)	面積 (区間長さ×平均高さ) (㎡)
1-2	2.400	2.400 × (-0.180 - 0.080) ÷ 2 = -0.312
2-3	6.140	6.140 × (-0.080 - 0.060) ÷ 2 = -0.430
3-4	5.840	5.840 × (-0.060 + 0.010) ÷ 2 = -0.146
4-5	6.140	6.140 × (0.010 + 0.000) ÷ 2 = 0.031
5-6	1.200	1.200 × (0.000 + 0.020) ÷ 2 = 0.012
6-7	2.400	2.400 × (0.020 + 0.000) ÷ 2 = 0.024
7-8	4.640	4.640 × (0.000 + 0.000) ÷ 2 = 0.000
合計	28.760	-0.821
平均地盤面高さ		-0.821 ÷ 28.760 = -0.0286 → -0.029 m (設計GLより)



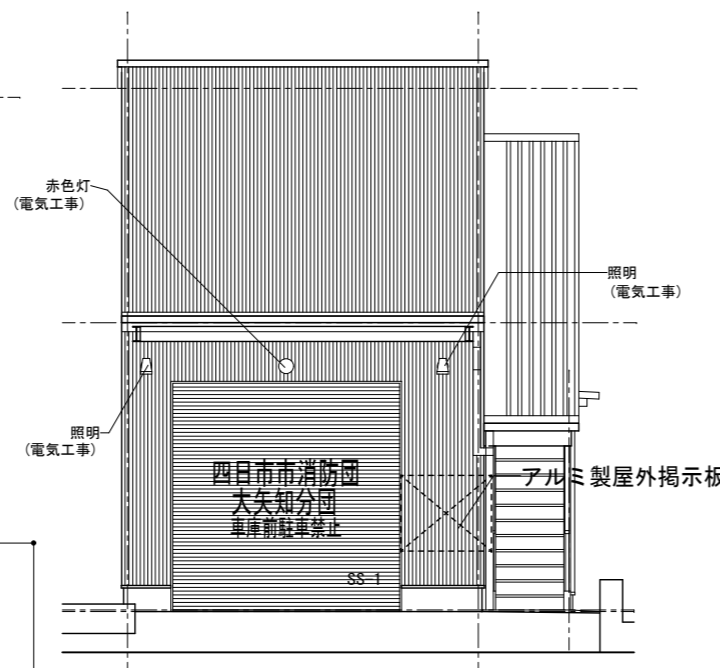


屋根伏図 S=1:100

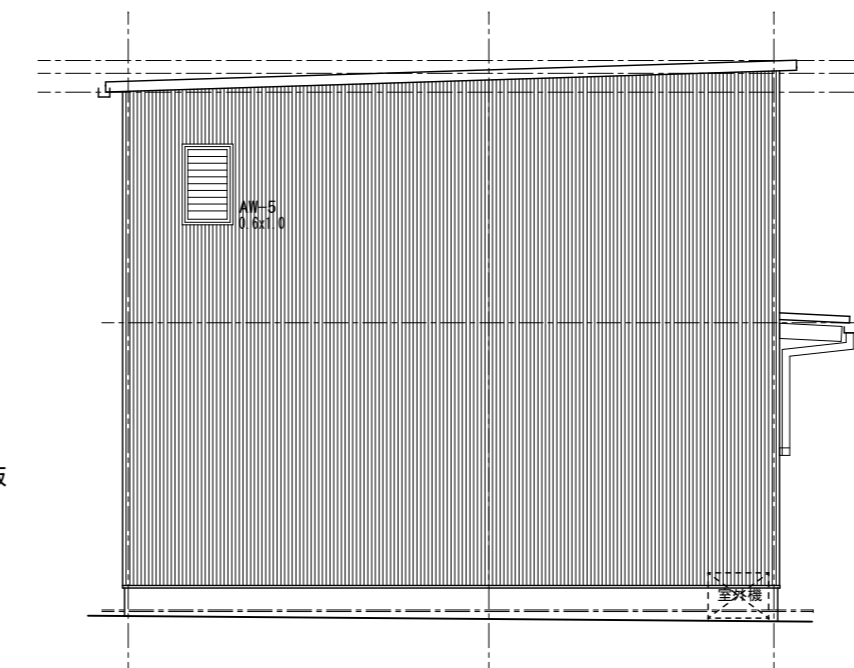
階	面積 (A)	消防法有窓無窓チェック	A/30
1階	1階床面積 8.54×4.64+1.2×2.4 =42.51	西側 SS-1 3.0×3.0=9.0 南側 AD-1 0.9×2.0=1.8 10.8	> 1.417
2階	2階床面積 8.54×4.64 =39.63	南側 AW-3 1.7×1.2/2=1.02 南側 AD-3 0.8×2.0 =1.6 2.62	> 1.321

室名	面積 (A)	採光計算	A/20	排煙計算	A/50	換気計算	A/20
2階 和室14帖	6.330×4.640 -2.785×0.900 =26.86	南側 AW-3 1.7×1.4= 2.38	> 1.343	南側 AW-3 1.7×0.6/2= 0.510 AW-6 0.5×0.6 = 0.300 = 0.810	> 0.537	南側 AW-3 1.7×1.4/2= 1.190 AW-6 0.5×0.9 = 0.450 = 1.640	> 1.343
2階 待機室	3.740×2.210 =8.27	東側 AW-4 1.02×0.7= 0.714	> 0.413	南、東側 AD-3 0.9×0.2= 0.180 AW-4 1.02×0.05/2= 0.025 = 0.205	> 0.165	南、東側 AD-3 0.9×2.0= 1.8 AW-4 1.02×0.7/2= 0.357 = 2.157	> 0.413

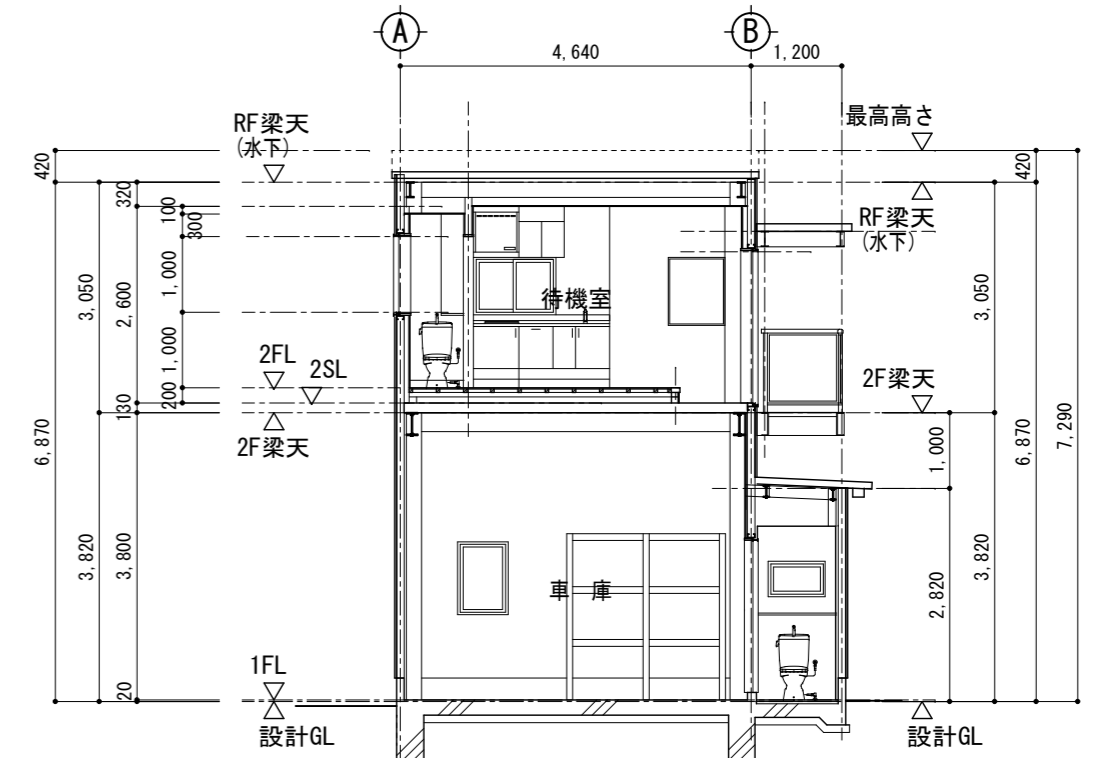
アルミ製屋外掲示板仕様  
引き違い扉、鍵付き、金具ビス固定 サイズ W1200×H1000程度  
かみ ネジ等、SUGITA ACE PKAH-1210-K、サンワ SE45-B 同等品程度  
※施工に先立ち施工図を提出し、監督職員の承認を得ること



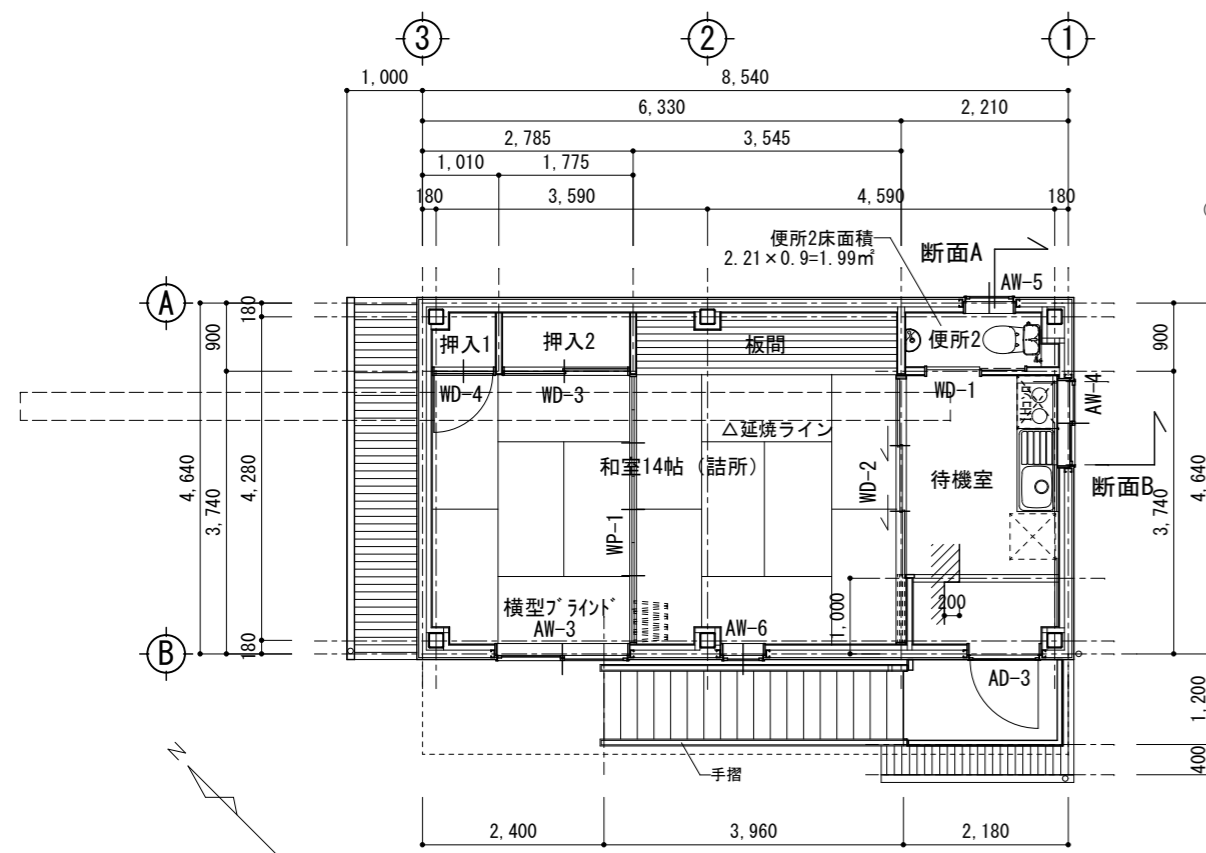
西立面図 S=1:100



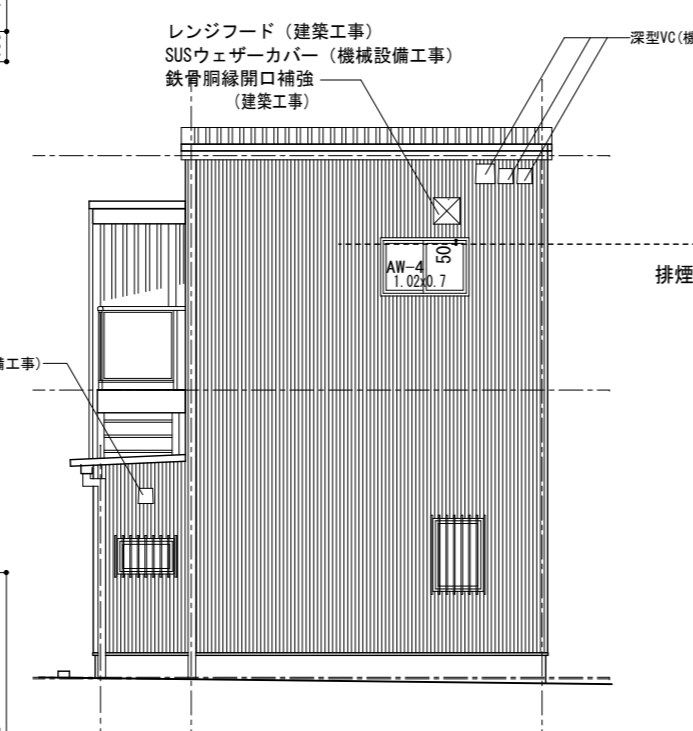
北立面図 S=1:100



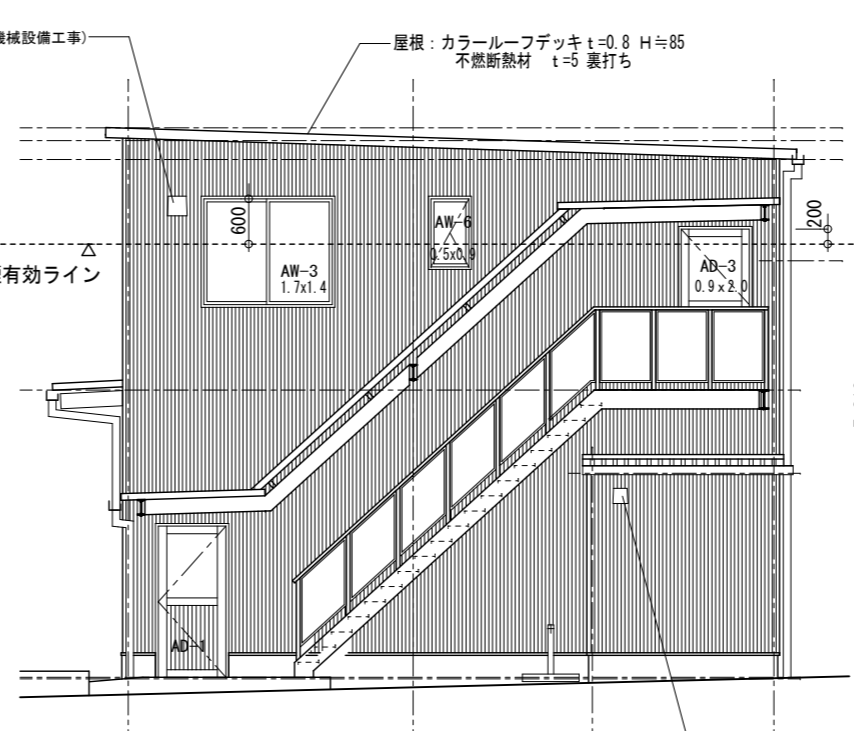
断面図A S=1:100



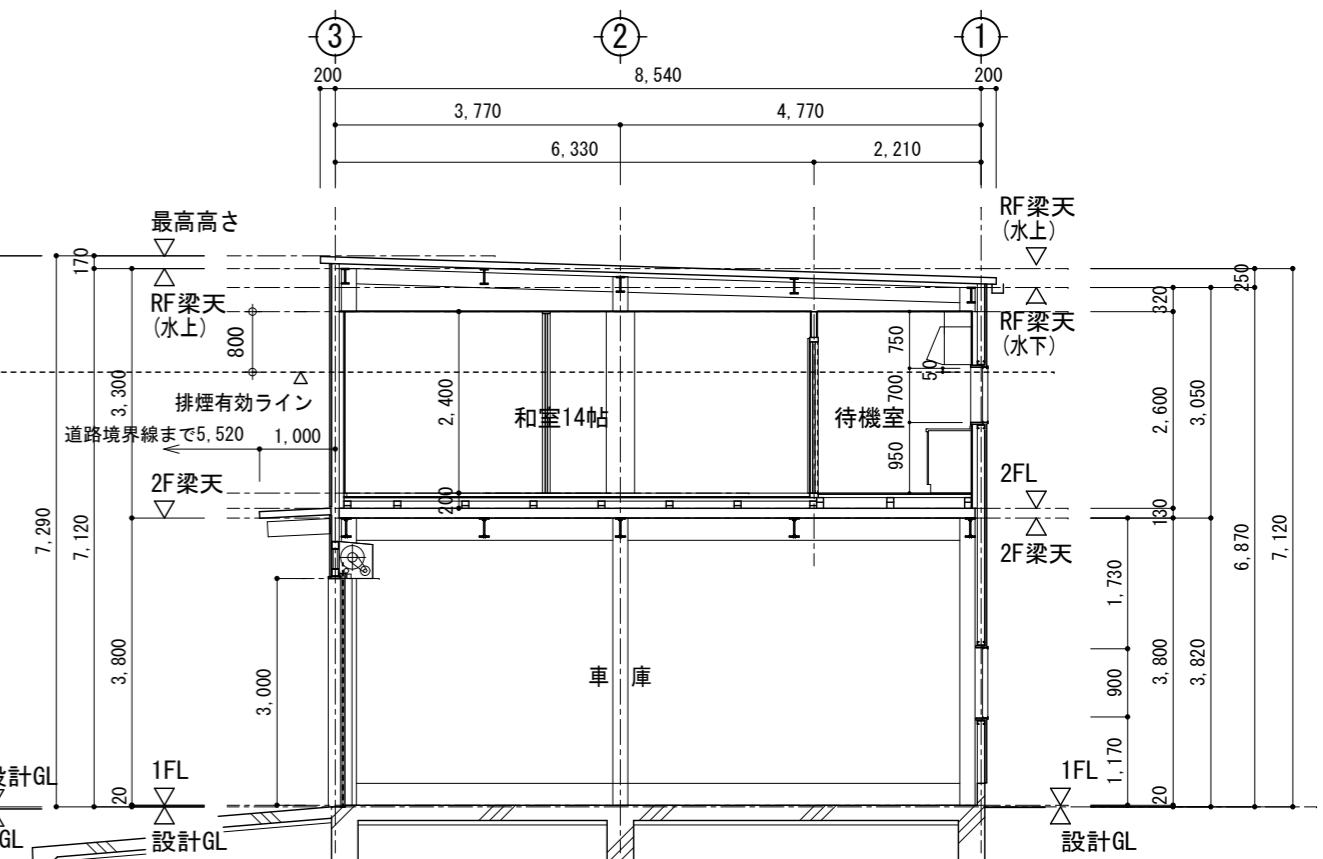
2階平面図 S=1:100



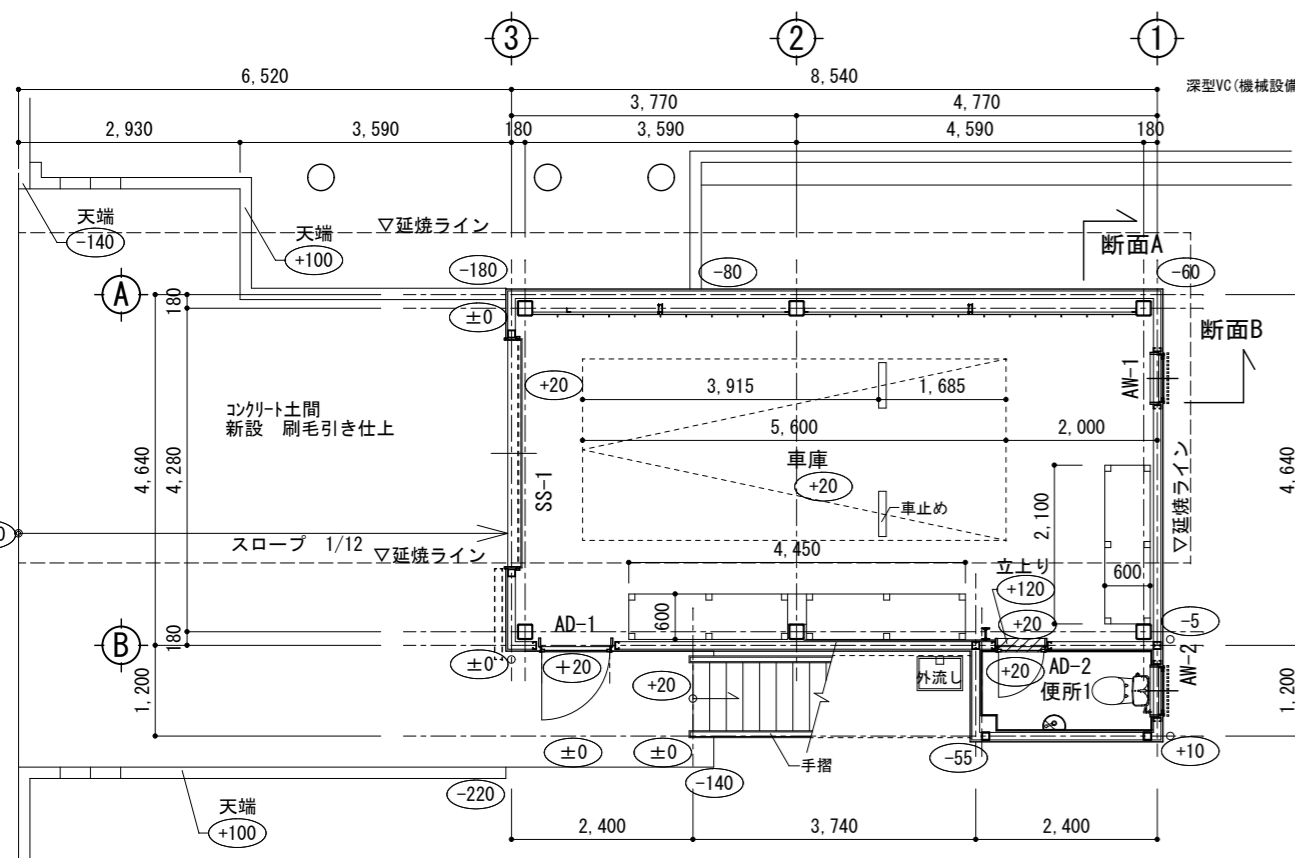
東立面図 S=1:100



南立面図 S=1:100



断面図B S=1:100



1階平面図 S=1:100

1階車庫部分面積  
8.54×4.64=39.63m<sup>2</sup>

数値：地盤高低差を示す(設計GL=±0)

道路斜線高さ制限:道路幅員7.60m、最小後退距離5.52m  
(7.60+5.52×2)×1.25=23.30m > 7.83m(前面道路からの建物高さ) .:OK  
隣地斜線高さ制限:建物最高高さ<20mなので、OK



アイ・エス建築企画

三重県知事登録(1)第1384号 一級建築士事務所 一級建築士 第227535号 生川 昌毅

Project

大矢知分団車庫改築工事

Date

2025.10.24

Title

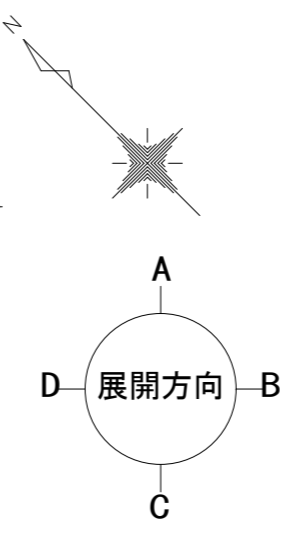
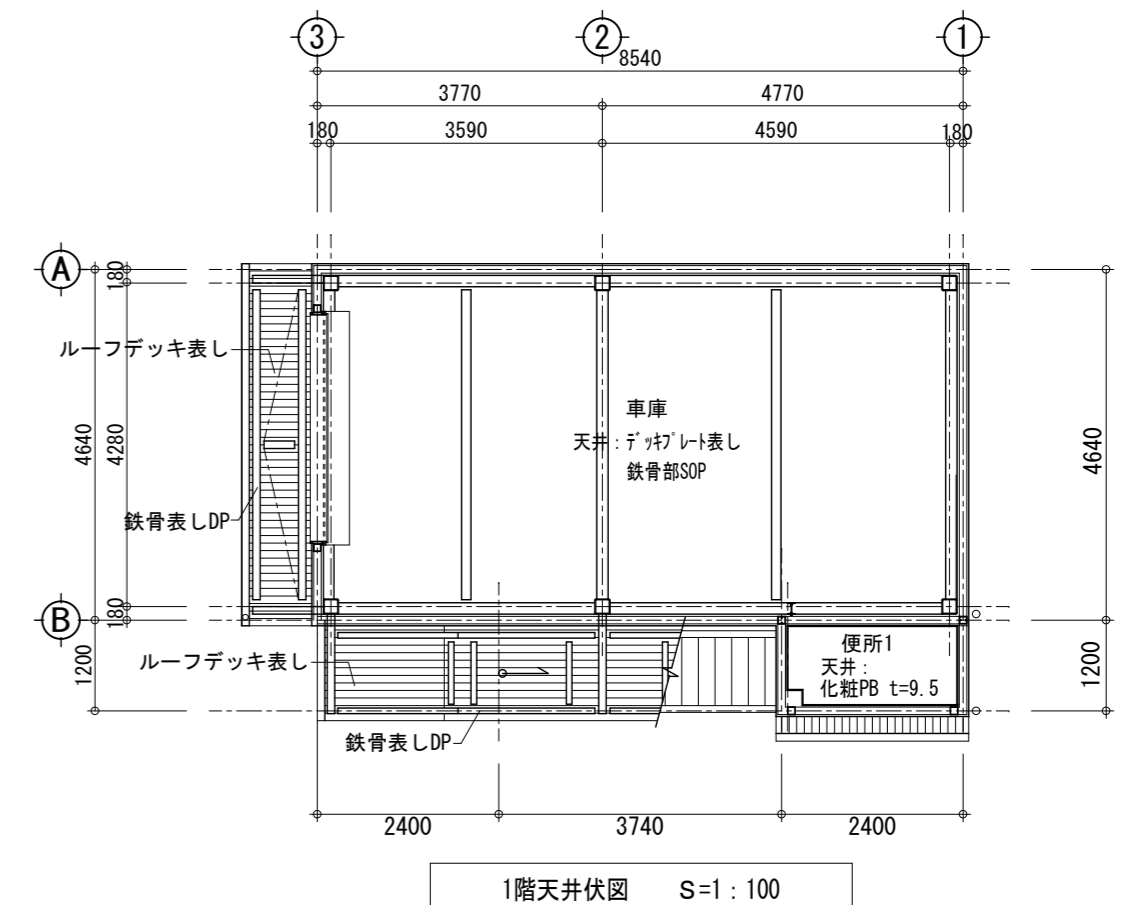
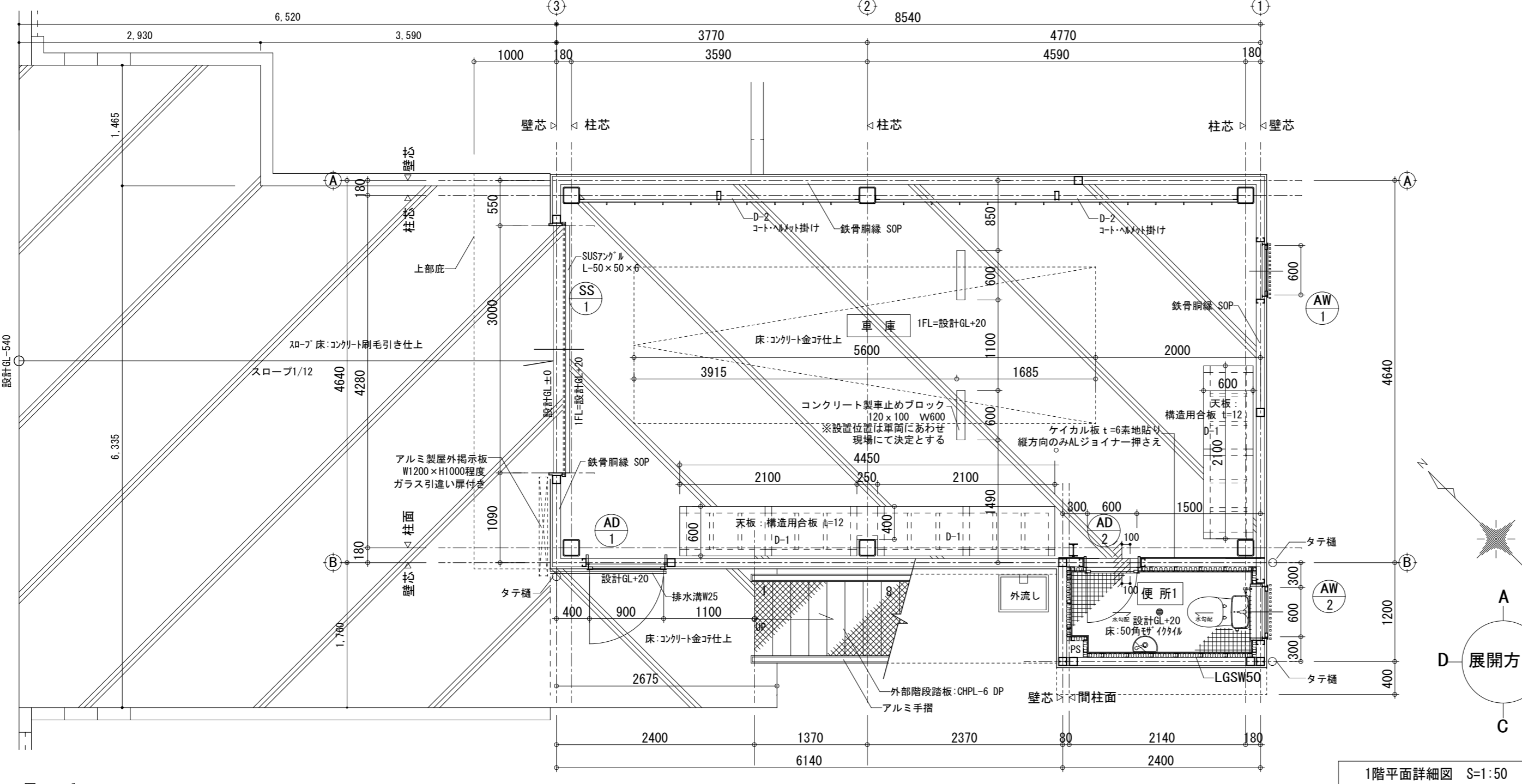
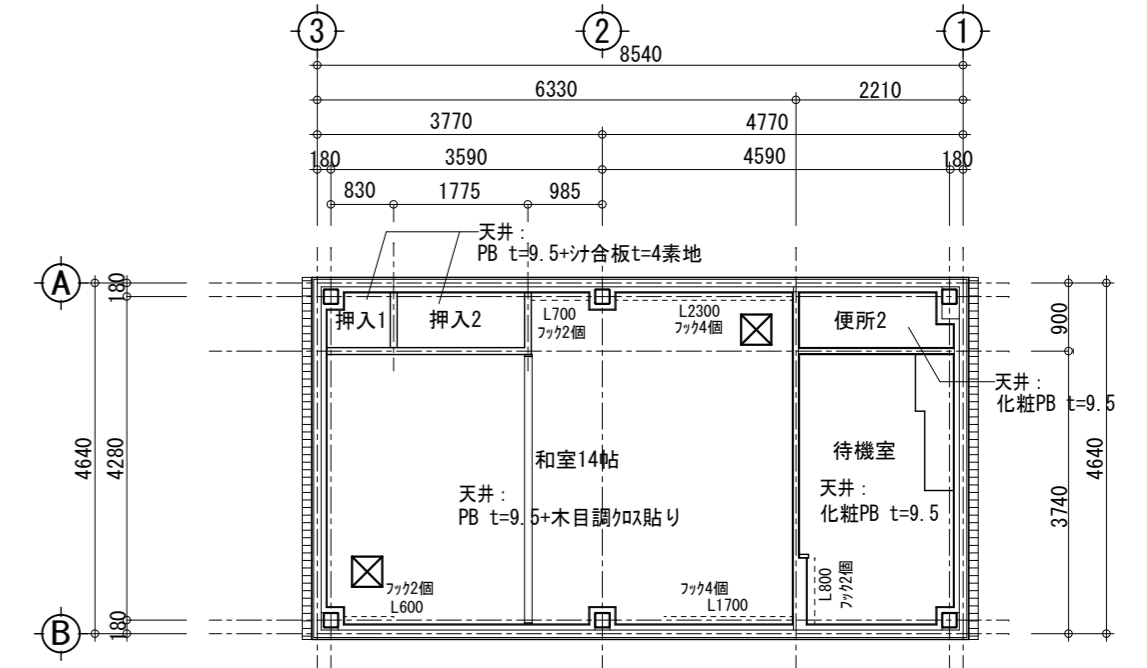
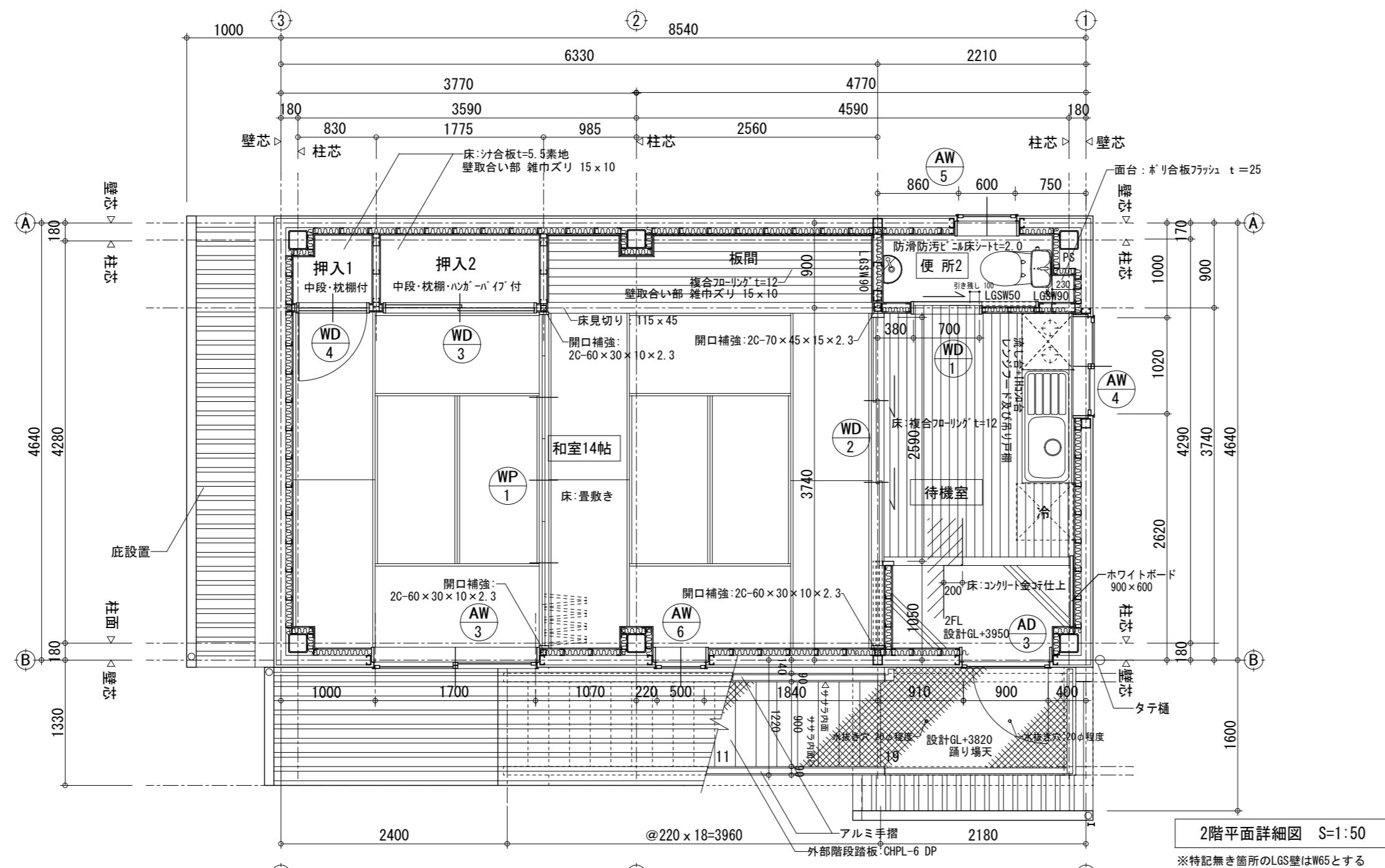
平面図・立面図・断面図

No.

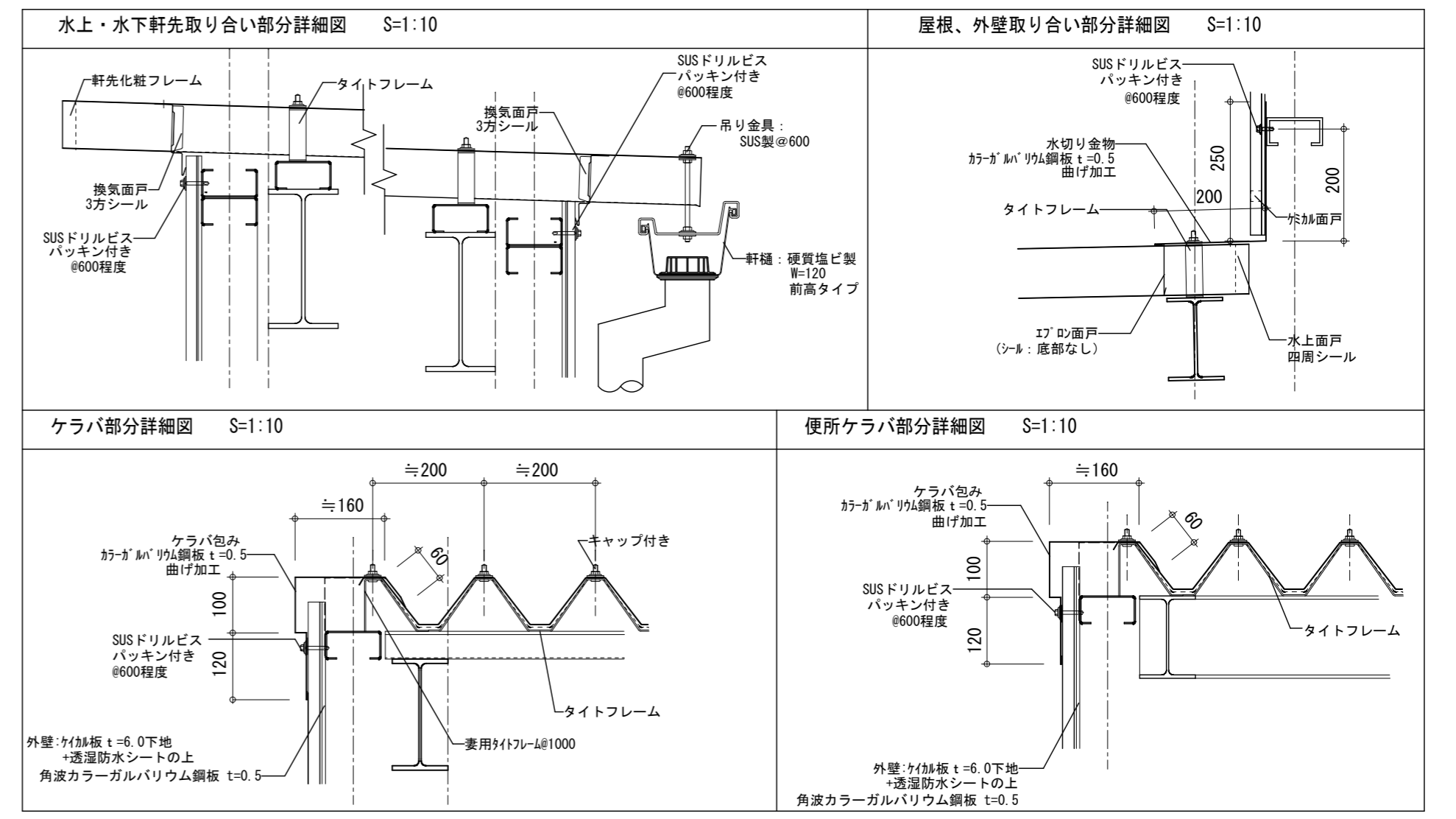
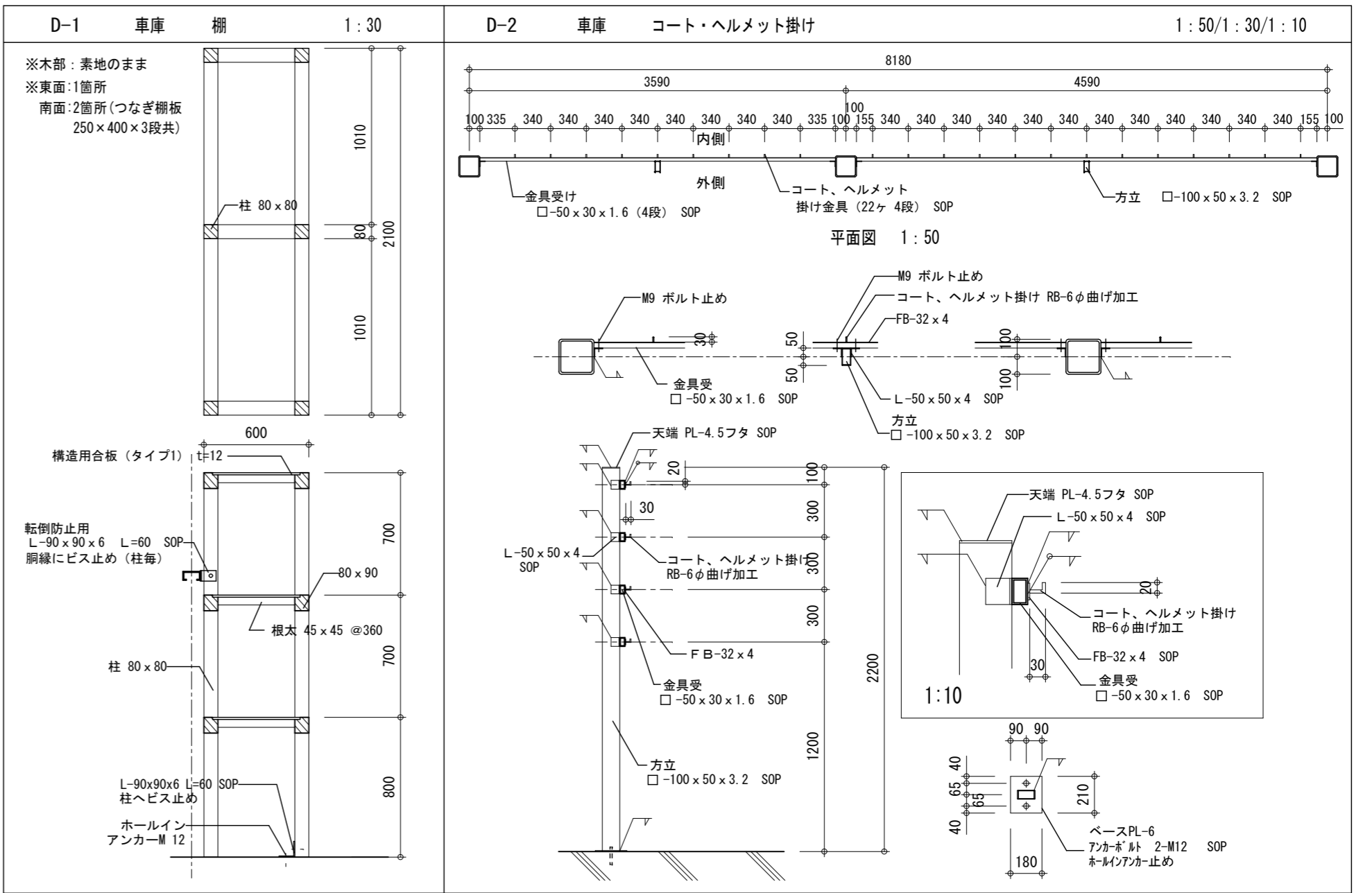
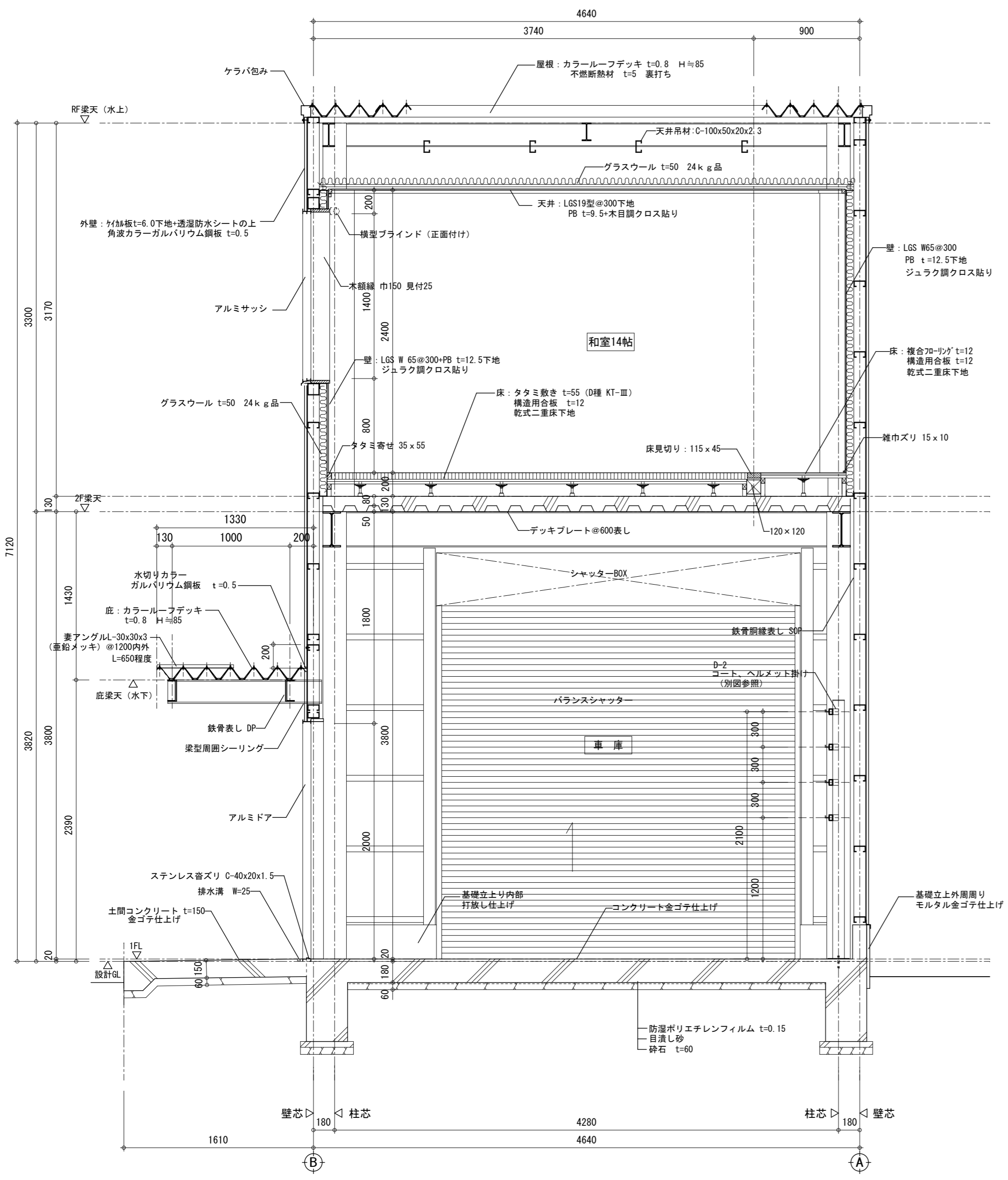
A-07

Scale

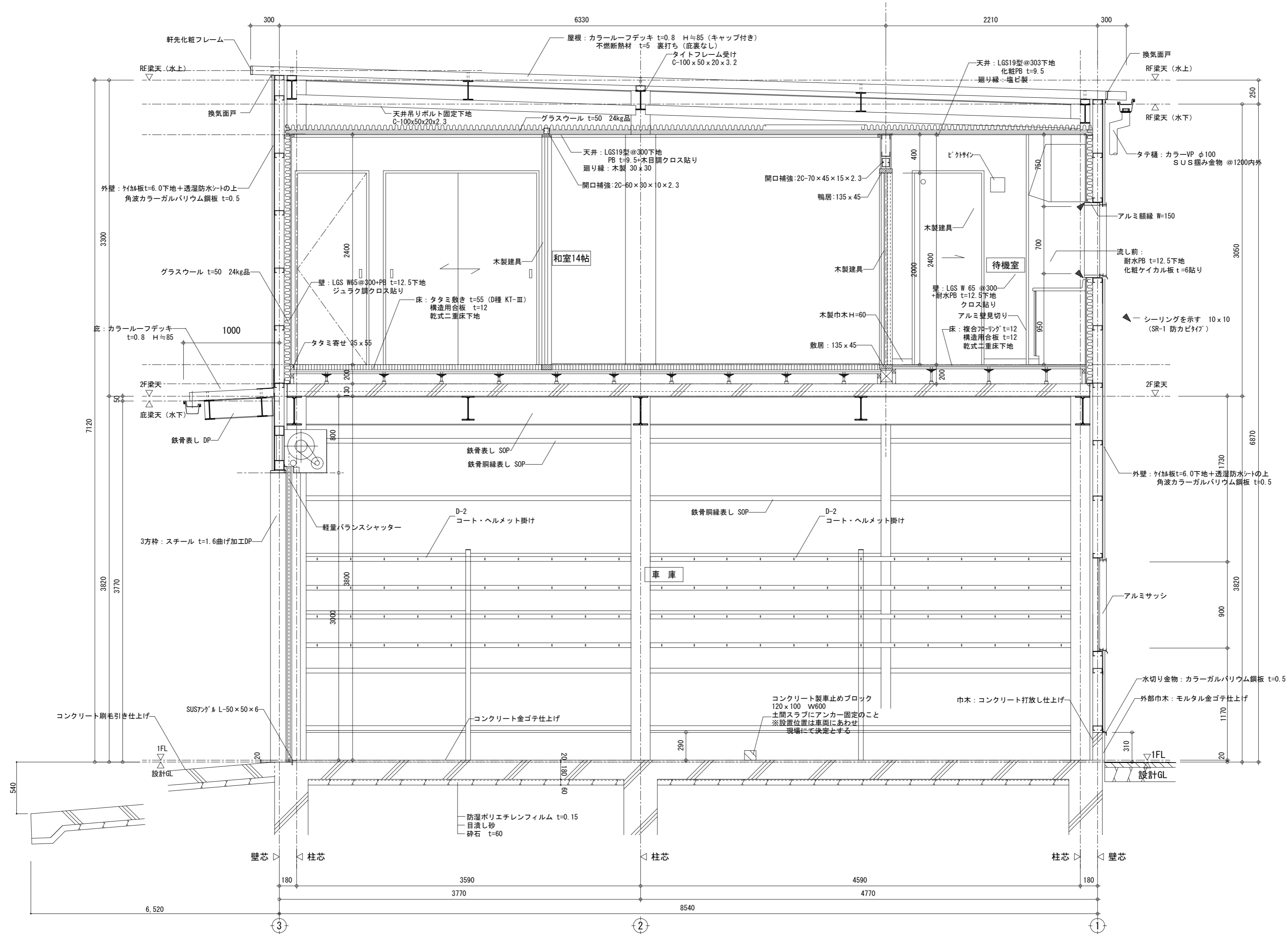
A2:1/100, A3:1/141

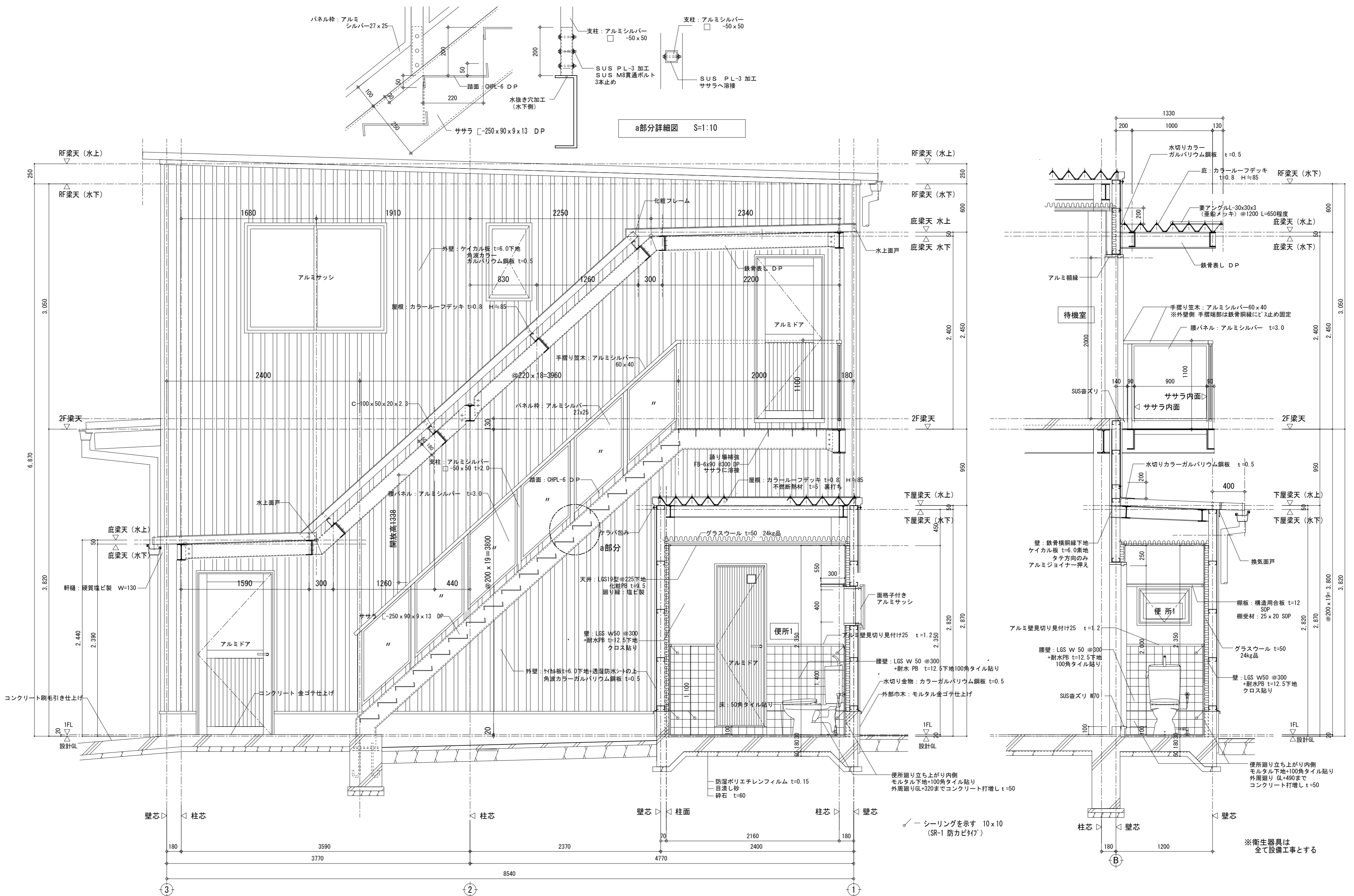


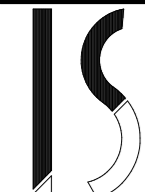
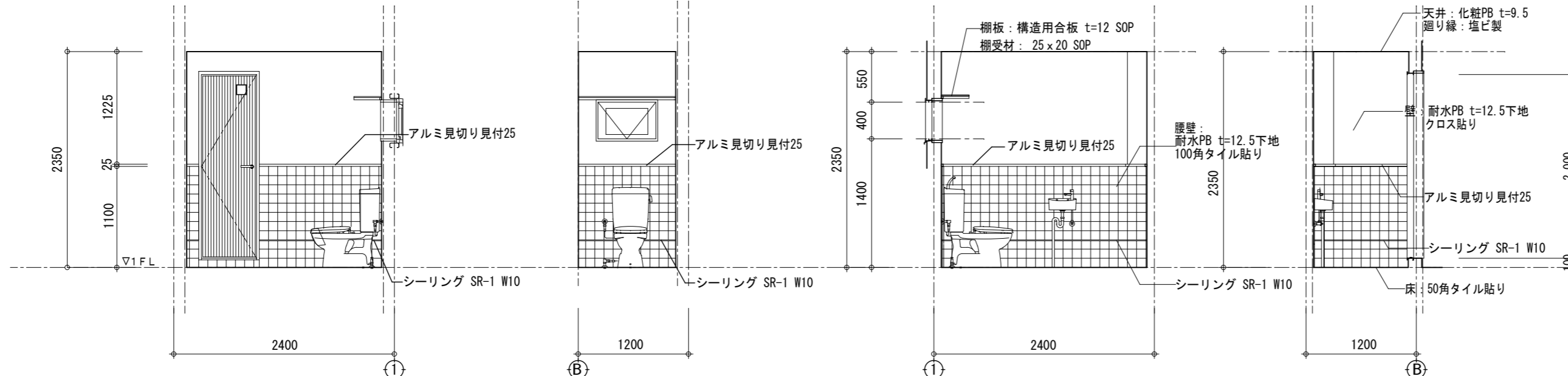
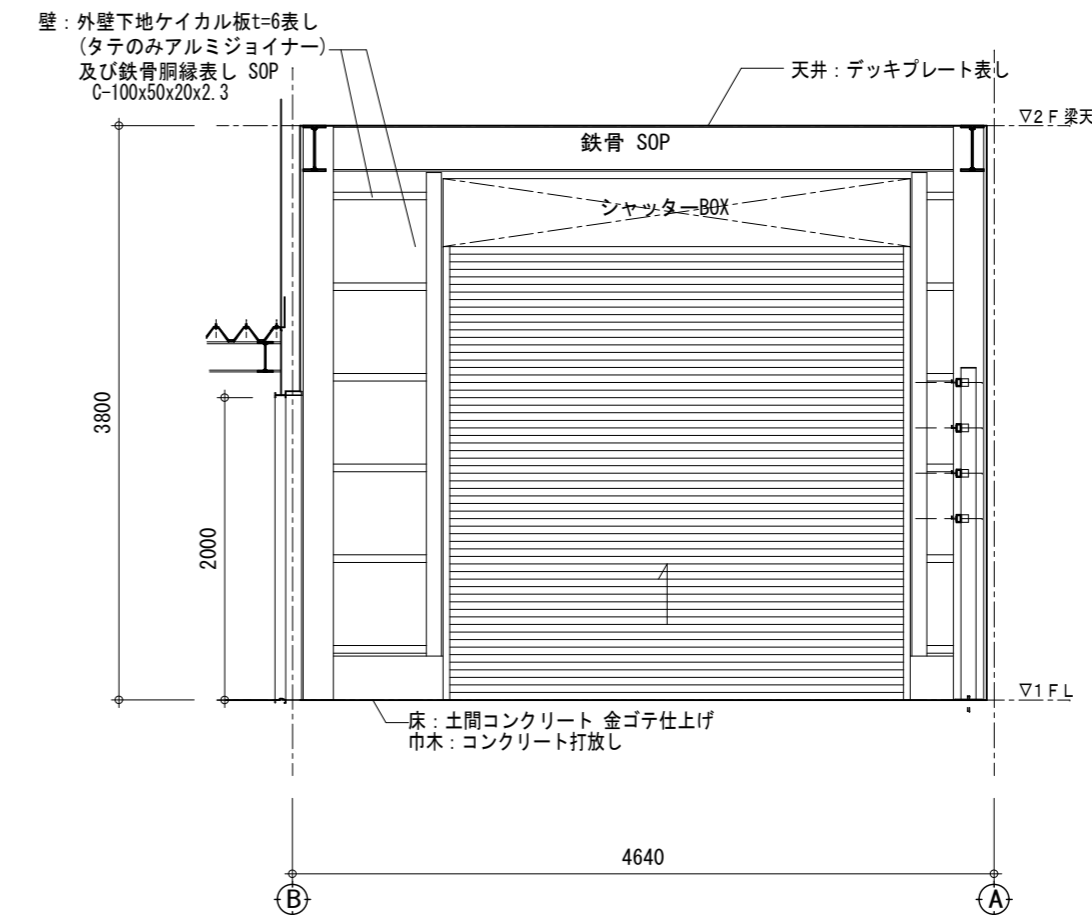
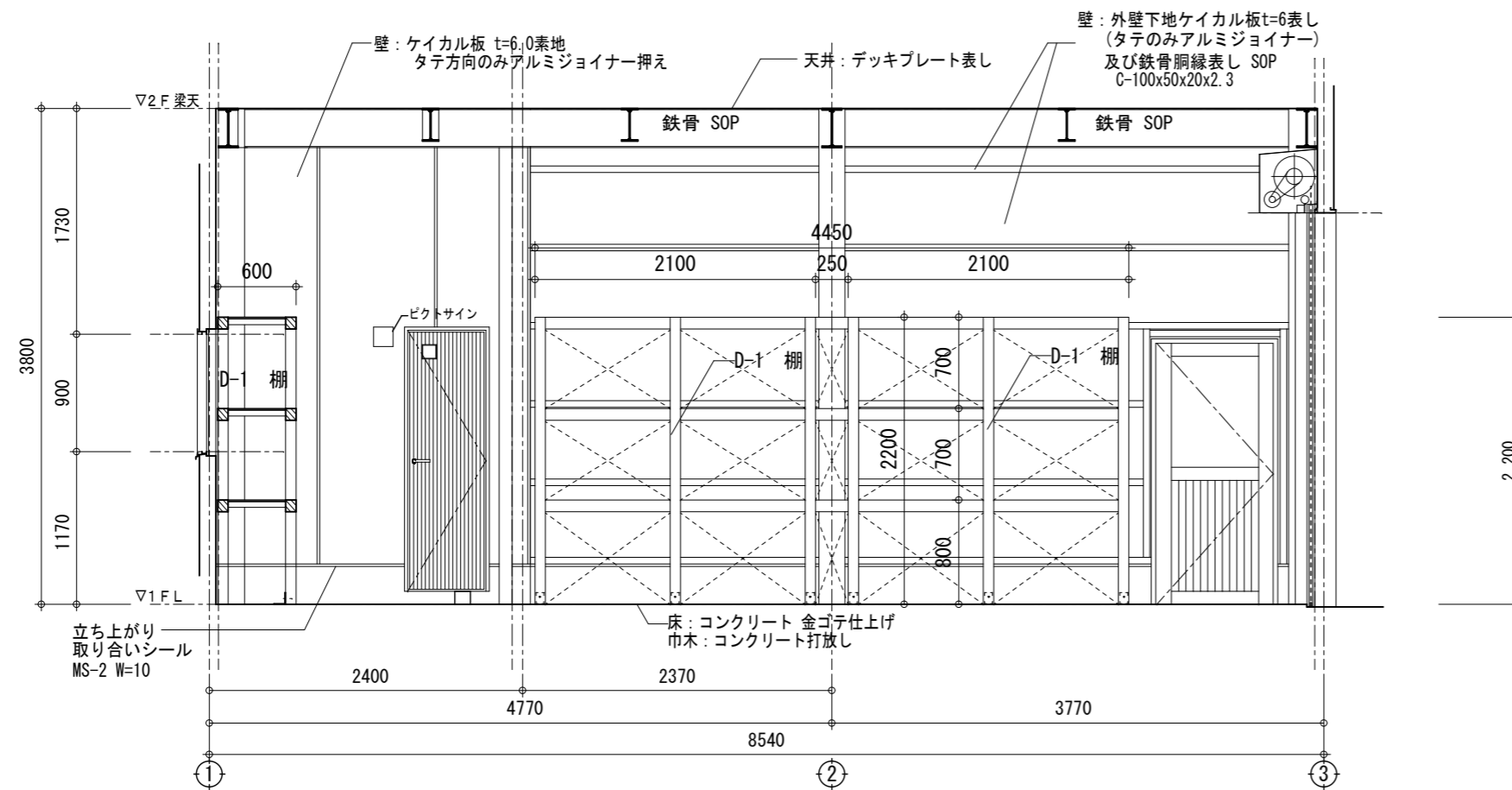
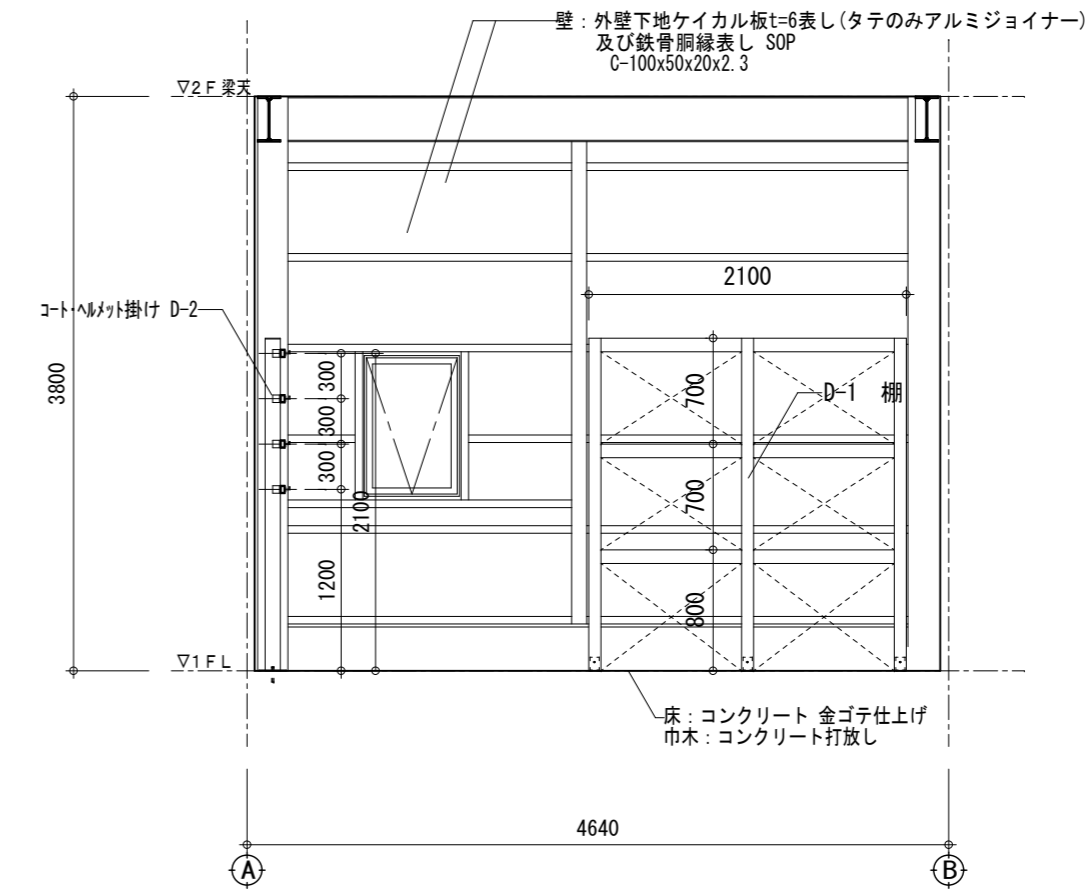
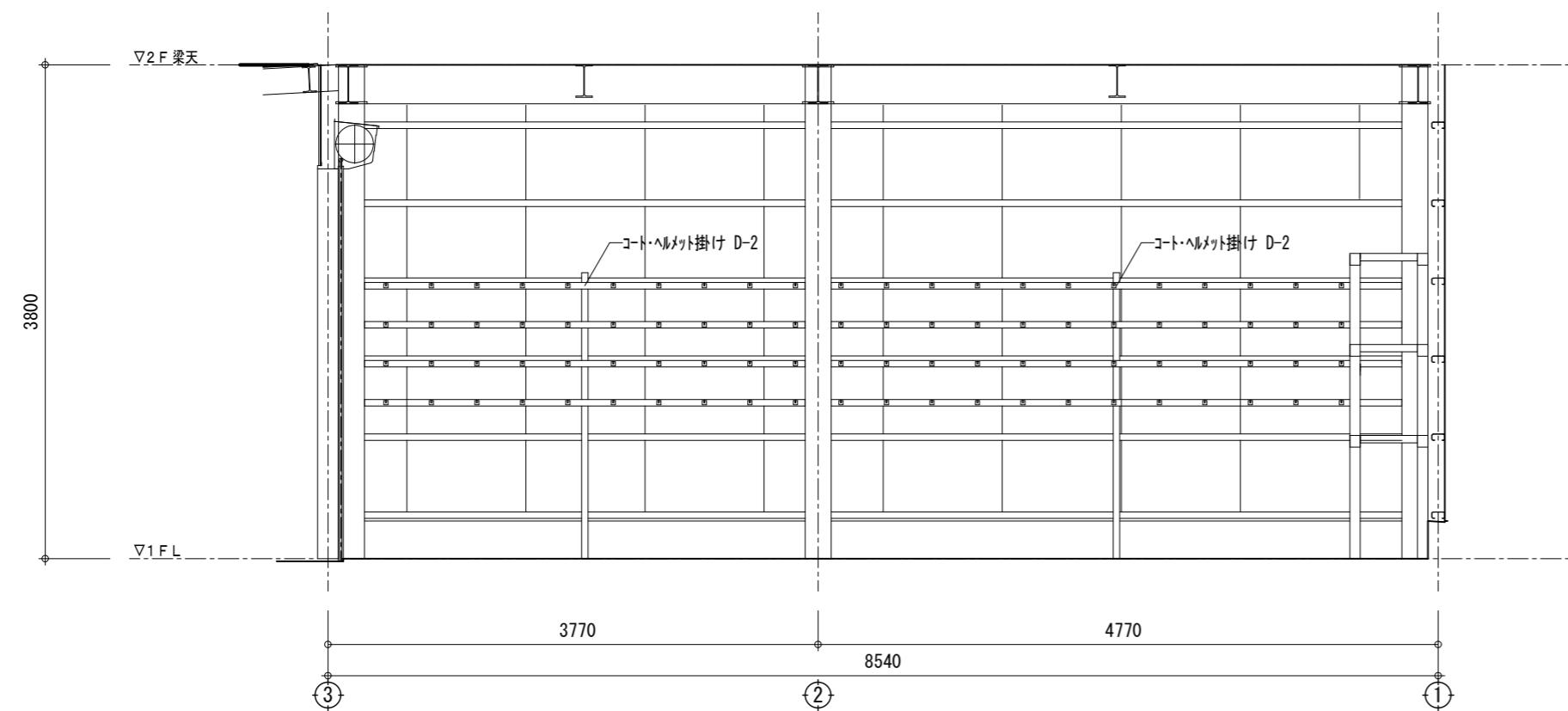
特記事項  
 クロス貼り部分端部取り合いは  
 アクリル樹脂系シール押さえとする  
 ※ジュラク調クロス部分は除く

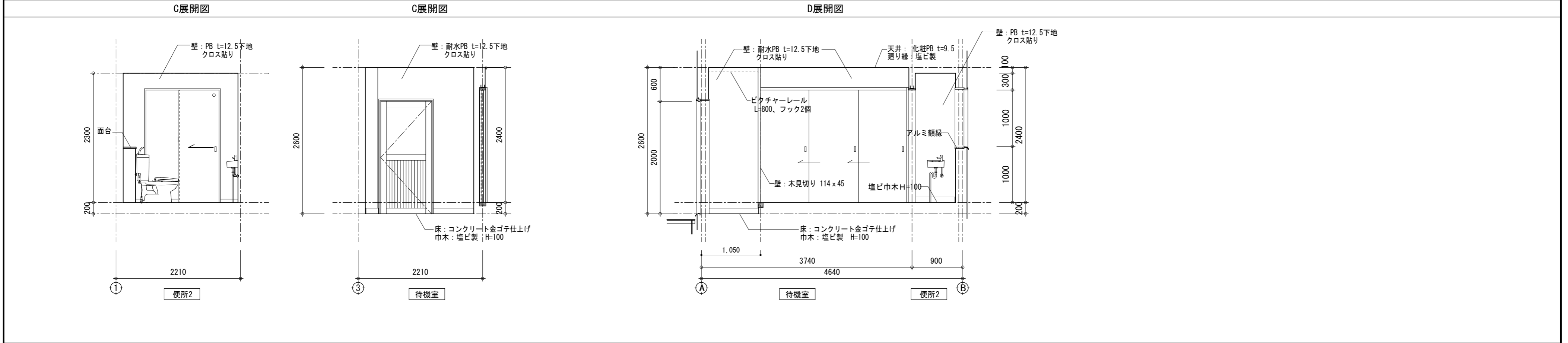
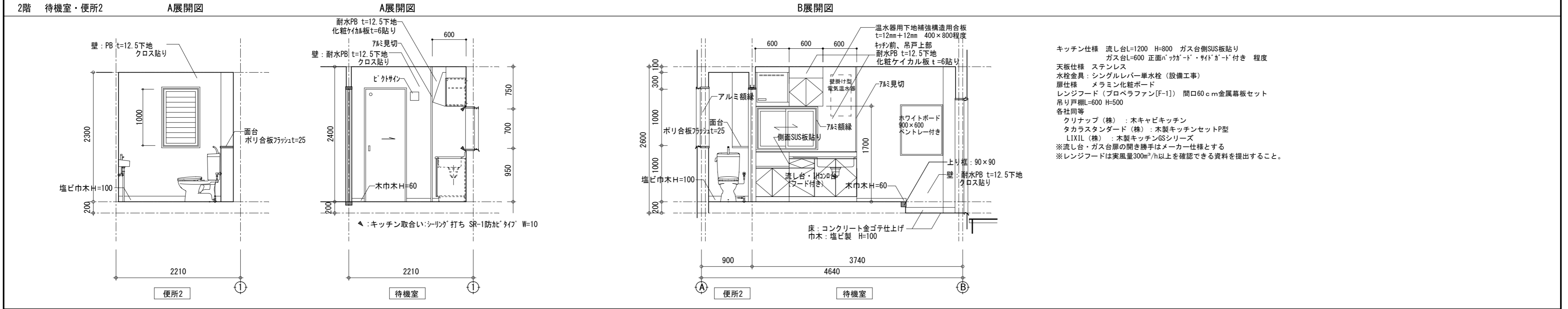
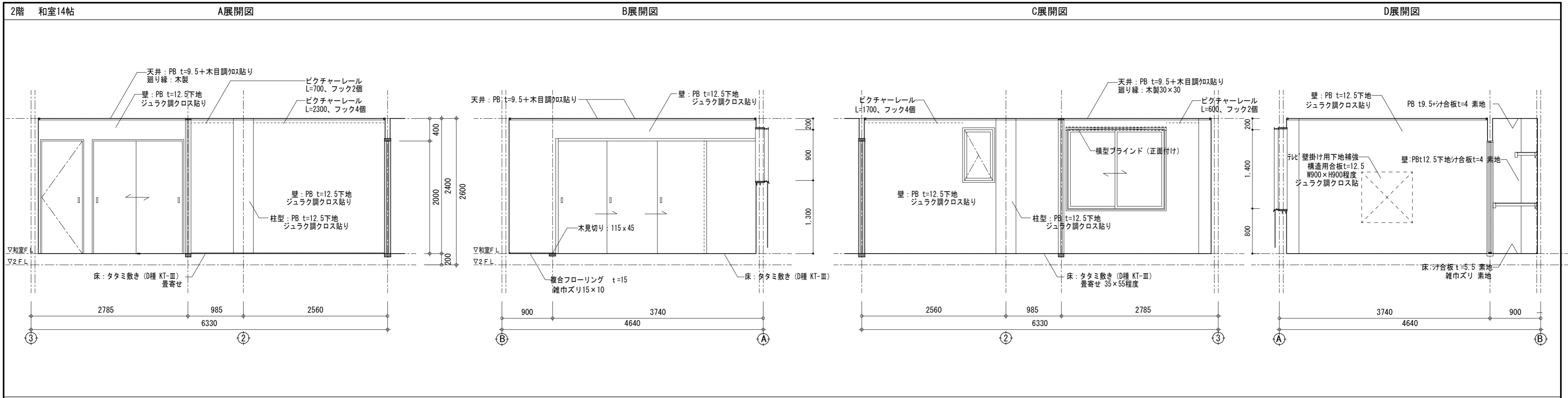


特記事項  
 クロス貼り部分端部取り合いは  
 アクリル樹脂系シール押さえとする  
 ※ジュラック風クロス部分は除く





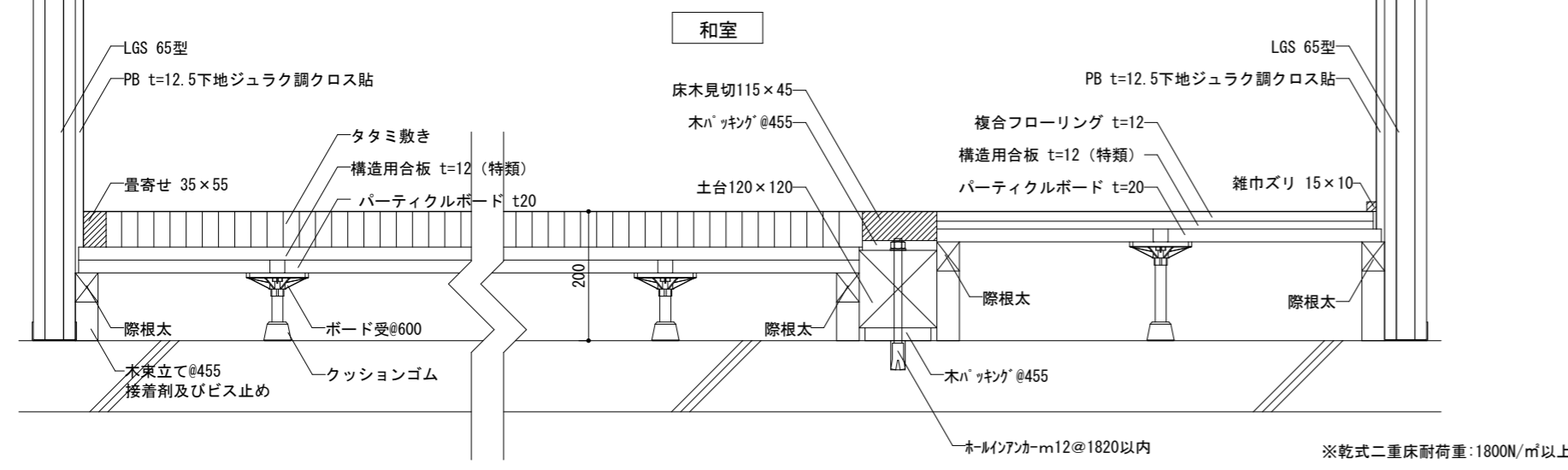




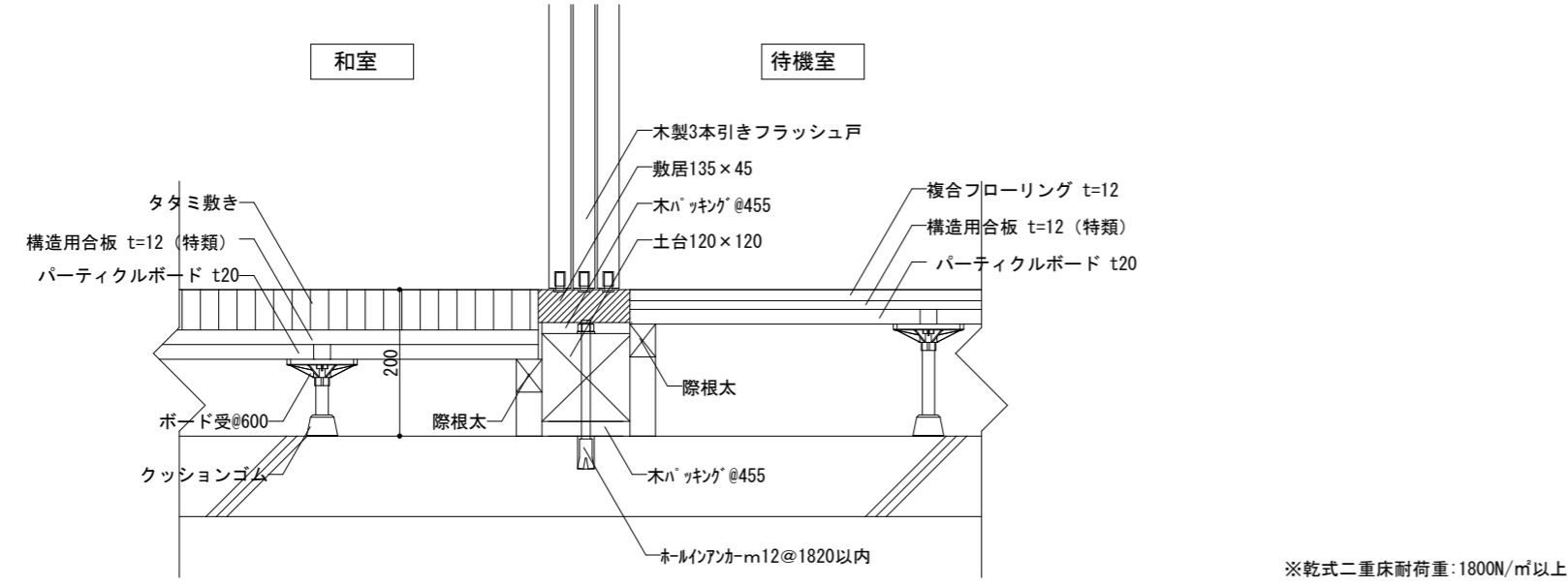
記号/数量	AD-1	1箇所	AD-2	1箇所	AD-3	1箇所	AW-1	1箇所	AW-2	1箇所	AW-3	1箇所
場所	1階 車庫		1階 便所1		2階 待機室		1階 車庫		1階 便所1		2階 和室	
形式	片開きドア		片開きドア		片開きドア		内倒し窓		内倒し窓		引き違い窓	
姿 図												
寸法・見込	W900 x H2000 見込み70		W600 x H2000 見込み70		W900 x H2000 見込み70		W600 x H900 見込み70		W600 x H400 見込み70		W1700 x H1400 見込み70	
材質/仕上	アルミシルバー		アルミシルバー		アルミシルバー		アルミシルバー		アルミシルバー		アルミシルバー	
ガラス	網入り型板ガラス t=6.8		強化型板ガラス t=4.0		網入り型板ガラス t=6.8		網入り型板ガラス t=6.8		網入り型板ガラス t=6.8		網入り型板ガラス t=6.8	
額/畜摺・型式	アルミ額縁/SUS製畜摺 t=1.5		アルミ額縁/SUS製畜摺 t=1.5		アルミ額縁/SUS製畜摺 t=1.5		アルミ額縁		アルミ額縁		木額縁 UC塗装	
金物	SUS3枚丁番・ドアチェック (ストッパー付き) シリンダーサムターン錠、レバーハンドル		SUS3枚丁番・ドアチェック (ストッパー付き) 表示錠、レバーハンドル、アンダーカット加工		SUS3枚丁番・ドアチェック (ストッパー付き) ・戸当り シリンダーサムターン錠、レバーハンドル		付属金物一式、SUS製網戸、アルミ製タテ格子付き		付属金物一式、SUS製網戸、アルミ製タテ格子付き		付属金物一式、SUS製網戸	
備考	アルミパネル t=3.0		アルミパネル t=3.0		アルミパネル t=3.0							
記号/数量	AW-4	1箇所	AW-5	1箇所	AW-6	1箇所			SS-1	1箇所		
場所	2階 待機室		2階 便所2		2階 和室				1階 車庫			
形式	引き違い窓		ルーバー窓		縦引き出し窓				手動式 軽量バランスシャッター			
姿 図												
寸法・見込	W1020 x H700 見込み70		W600 x H1000 見込み70		W500 x H900 見込み70				W3000 x H3000			
材質/仕上	アルミシルバー		アルミシルバー		アルミシルバー				スチール・カラー鋼板スラットt=0.8			
ガラス	網入り型板ガラス t=6.8		網入り型板ガラス t=6.8		網入り型板ガラス t=6.8							
額/畜摺・型式	アルミ額縁		アルミ額縁		木額縁 UC塗装				畜摺:SUS製L-50×50×6			
金物	付属金物一式、SUS製網戸		付属金物一式、SUS製網戸		付属金物一式、ハンドル、ヒーフイストッパー、SUS製網戸				付属金物一式・3方化粧枠 (スチール t=1.6 DP) シリカゲル、フック棒、ガイドレール、ケース: カラー鋼板、マグサはSUS			
備考									文字カティングシート貼り			
記号/数量	WD-1	1箇所	WD-2	1箇所	WD-3	1箇所	WD-4	1箇所	WP-1	1箇所		
場所	2階 便所2		2階 和室		2階 和室		2階 和室		2階 和室			
形式	片引きフラッシュ戸		3本引き込みフラッシュ戸		引違いフラッシュ戸		フラッシュ片開き扉		上吊りフラッシュ間仕切折れ戸			
姿 図												
寸法・見込	W700 x H2000 ドア見込み36		W2590 x H2000 ドア見込み36		W1575 x H2000 ドア見込み36		W720 x H2000 ドア見込み36		W3517.5 x H2400 ドア見込み36			
材質/仕上	木製・ポリ合板 (両面)		木製・ポリ合板 (両面)		木製 和室側:ポリ合板、押入側:合板t=4素地		木製 和室側:ポリ合板、押入側:合板t=4素地		木製・樹脂化粧シート貼り (両面)			
ガラス	強化型板ガラス t=4.0											
額/畜摺・型式	木製 UC塗装		木製 UC塗装		木製 UC塗装		木製 UC塗装		木製 UC塗装			
金物	SUS製表示錠付き 引き手、引き戸金物一式		SUS製引き手、平車		SUS製引き手、平車		SUS製取手、SUS丁番3枚		上レール (幅込用)、ガイドレール (幅込用)、上ローラー、案内リナー、上下ストッパー、ヒッチピン (木口取付)、8畳側アタッチメント、6畳側幅込取手			
備考	化粧緑 桧 t=6.0 (UC塗装)		化粧緑 桧 t=6.0 (UC塗装)		化粧緑 桧 t=6.0 (UC塗装)		化粧緑 桧 t=6.0 (UC塗装)		8畳側出隅面取り			

特記事項  
外部建具廻りは全て止水処理の上シーリングとする (MS-2 W=10)

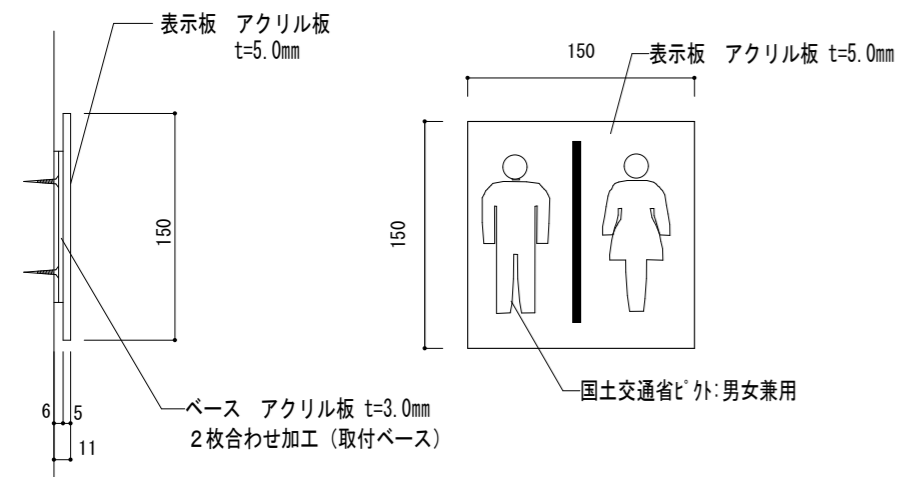
床部分詳細 (壁際-畳-床見切-フローリング-壁際) S=1/10



床部分詳細 (畳-敷居-フローリング) S=1/10

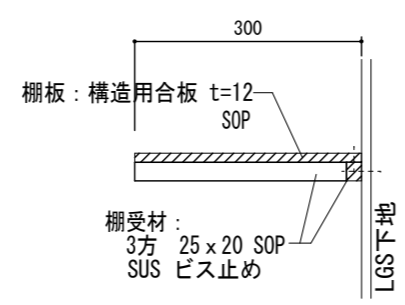


ピクトサイン(参考図) S=1/5

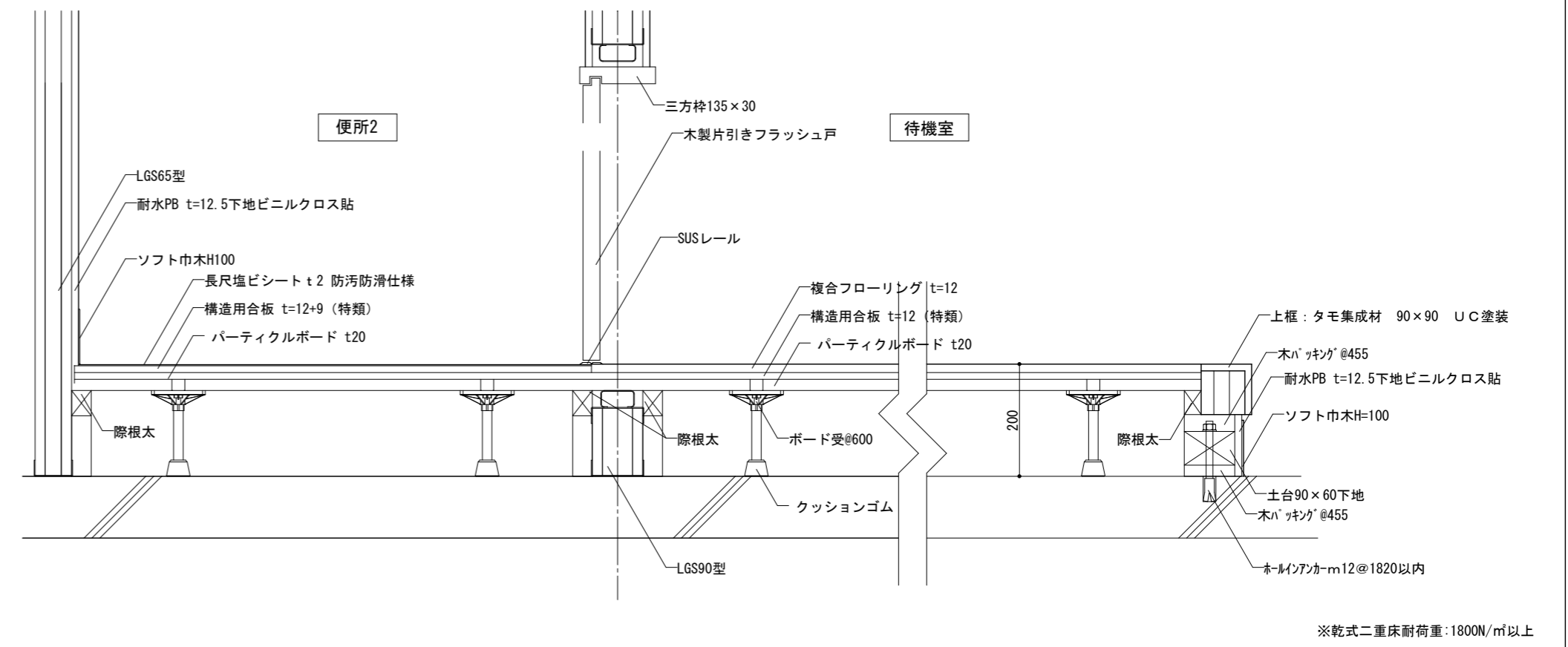


2箇所

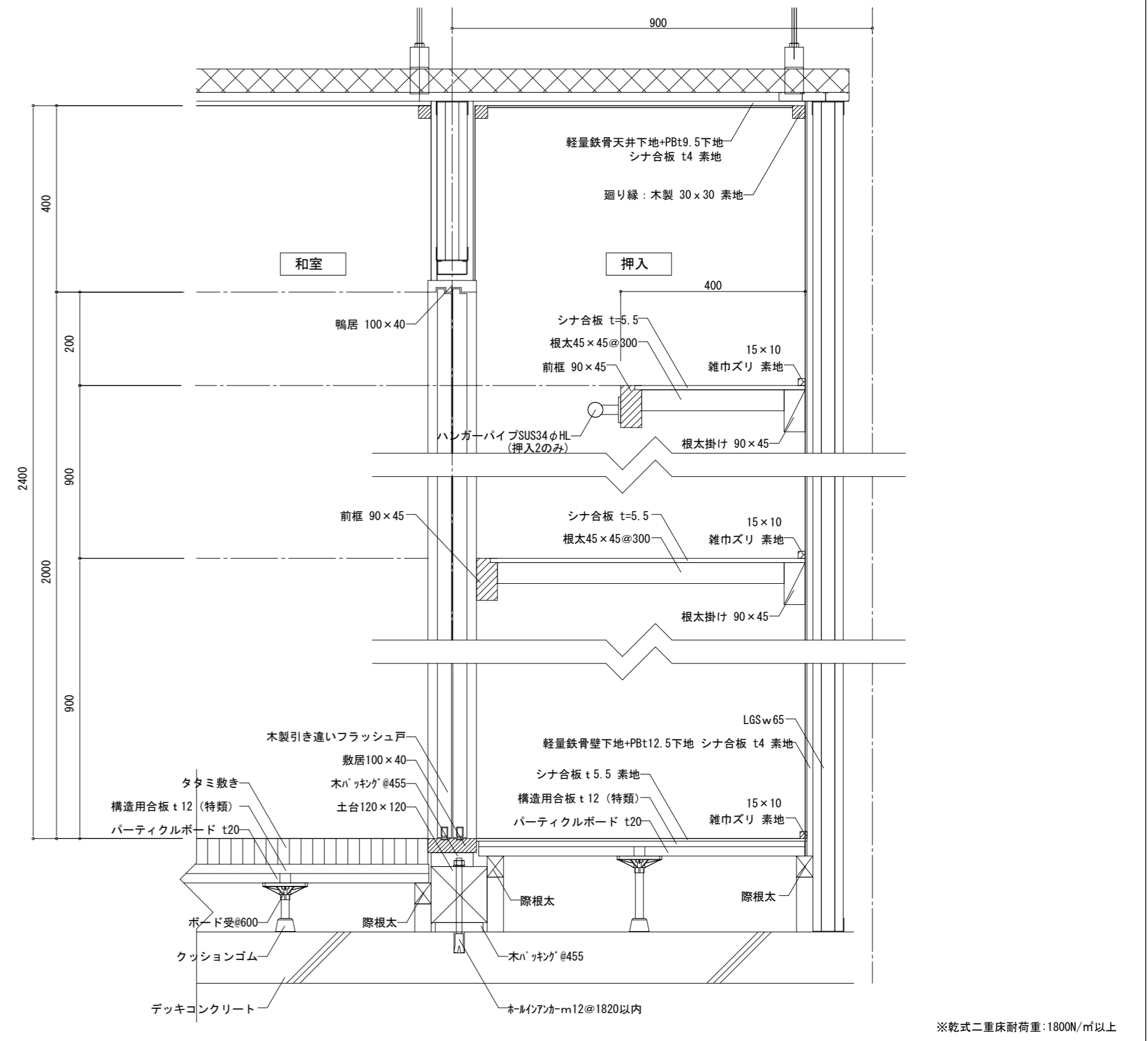
便所1 棚板 S=1/10



床部分詳細 (壁際-塩ビシート-フローリング-框) S=1/10



押入詳細図 S=1/10





# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (単位 mm)

1-1 基礎  
1-2 コンクリート  
1-3 鉄筋  
1-4 その他

§ 1. 一般事項  
別途構造特記仕様書による。  
F<sub>c</sub> = 18, 21, 24, 27, 30 kN/mm<sup>2</sup>  
のうち使用区分は、別途構造特記仕様書による。  
★ コンクリートの打継面には 打継処理剤を施すこと。  
SD295A, SD345, SD390  
のうち使用区分は、別途構造特記仕様書による。

特記なき場合は、本標準図に従うものとする。  
又、本標準図に明記なき場合は、JASSS及び鉄筋コンクリート配筋指針による。  
本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。  
全て、使用材料・工法等について、同一仕様品による事。  
§ 2. 共通事項  
鉄筋の表示記号及び規格は下表による。

記号	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
最大径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 圧接継手表示
- 機械継手表示

曲げ角度	先端及び補助筋の先端は余長4d以上で良い。	鉄筋の種類	折り曲げ内法直径(D)
180°	余長 4d以上	SD295A	D16以下 3d以上
135°	余長 6d以上	SD345	D19以上 4d以上
90°	余長 8d以上 (10d)	SD390	5d以上

曲げ角度	図	使用箇所による呼称	鉄筋の種類	径による区分	折り曲げ内法直径(D)
90°		あばら筋	SD295A	D16以下	3d以上
		主筋	SD295A	D19以上	4d以上
		柱・梁・壁	SD295A	D16以下	4d以上
		スラブ	SD345	D19~D25	6d以上
		高層建物の主筋	SD390	D29以上	8d以上

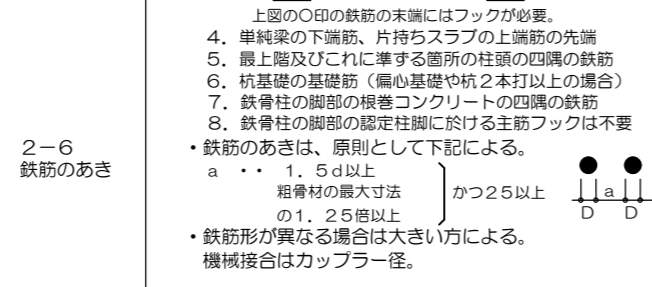
鉄筋の種類	コンクリートの設計強度 (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手の長さ (L)		定着の長さ (L)	
		一般 (L1)	小梁片持スラブ	下筋 (L3)	スラブ
SD295A	18	45d又は35dかつ30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
	21, 24 (27)	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
	27, 30 (33, 36)	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	25d又は15dかつ	10dかつ150mm以上
SD345	21, 24 (27)	45d又は35dかつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
	27, 30 (33, 36)	45d又は35dかつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
	21, 24 (27)	45d又は35dかつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
SD390	27, 30 (33, 36)	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
	27, 30 (33, 36)	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ
	27, 30 (33, 36)	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ	40d又は30d7かつ

- コンクリートの配筋のおそれのある部分への定着はL1とする。  
1. 梁、柱の主筋の継手は原則として重ね継手とし、重ね継手とする場合は構造計算によって継手長さを確認すること。  
2. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。  
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の鉄筋の継手長さによる。  
4. 耐圧スラブの下端部の定着長さは一般定着 (L2)、上端筋は2.5dとする。  
5. ( ) 内は軽量コンクリートの場合を示す。  
6. 軽微な箇所については、係員の承認を得て定着長さを2.0d程度とすることができる。

1. 溶接継手 0.2d以下 1.4d以上 機械継手  
間隔: a ≥ 400 1.1d以上 ガス圧接 間隔: a ≥ 400  
2. 重ね継手 (下記のいずれかとする) かつ b + 4.0  
3. D35以上の継手は重ね継手としてならない。  
(溶接、機械接合等による)  
4. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズとす。  
5. 溶接継手、機械継手の場合はメーカー仕様による。

## 2-5 鉄筋のフック

- 下記の1~7に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。  
1. あばら筋及び帯筋 2. 煙突の鉄筋 3. 柱及び梁 (基礎梁を除く) の出端部分の鉄筋 (下図参照)



## 2-6 鉄筋のあき

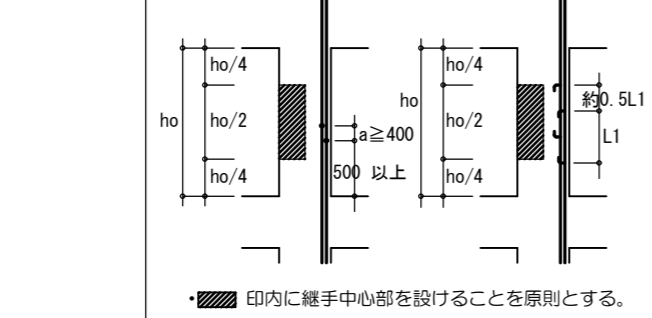
- 鉄筋のあきは、原則として下記による。  
a... 1. 5d以上  
柱・梁の最大寸法 かつ 2.5以上  
の1. 2.5倍以上

## 2-7 かり厚さ

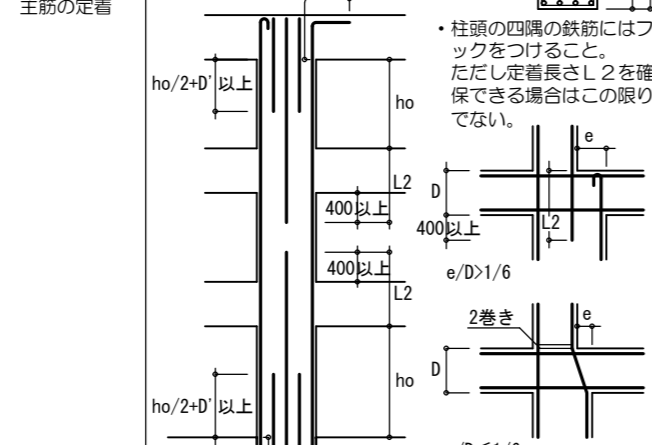
部位	かり厚さ (mm)
土に接しない部分	30 (20) 40 (30) 40 (30) 50 (40) 50 (40) 50 (40)
土に接する部分	30 (20) 40 (30) 40 (30) 50 (40) 50 (40) 50 (40)

1. ( ) 内の数値は最小かり厚さを示す。  
2. 「仕上りあり」とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上りのある場合とする。  
3. \*印は、軽量コンクリートの場合で 10mm増しの値とする。  
4. 柱、梁の主筋のかり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

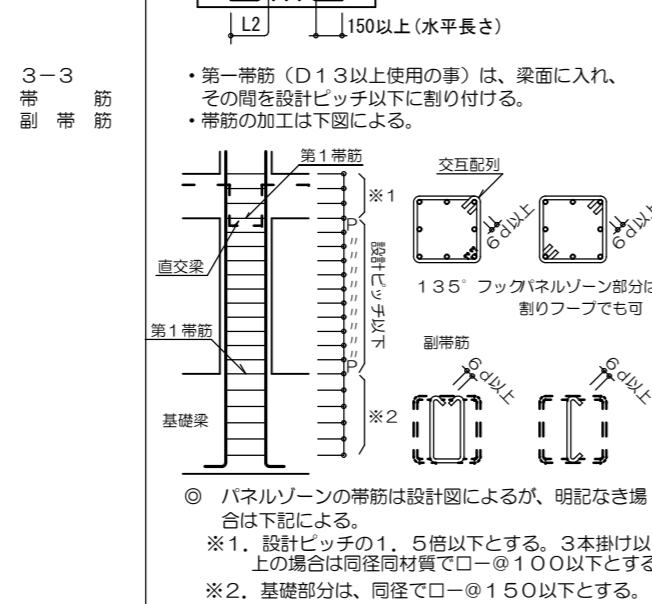
## 3-1 主筋の継手



## 3-2 主筋の定着

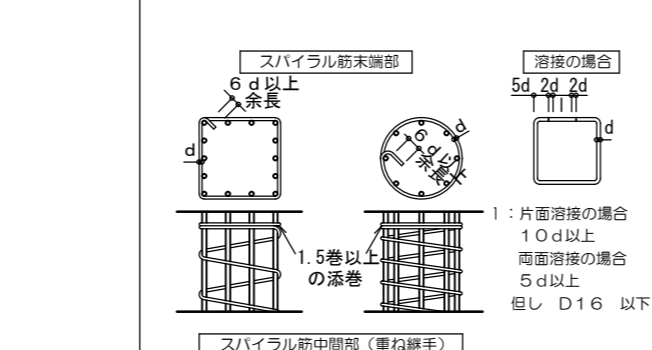


## 3-3 帯筋の定着



## 4-5 小梁及び片持梁

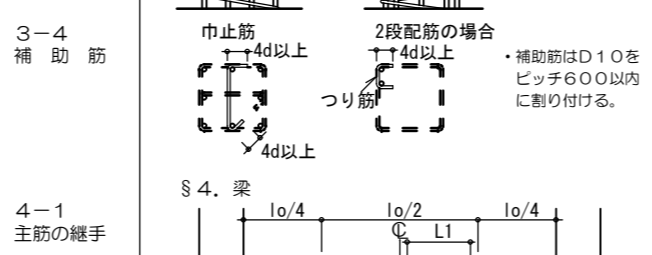
1. 末端は1.5巻以上の巻き返し、6d以上の余長を持つ曲げ角135°のフックをつける。  
2. 重ね継手は重ね長さ50d以上とし、余長1.2d以上の曲げ角90°のフックをつける。または余長6d以上の曲げ角135°のフックをつける。



## 4-6 基礎梁及び基礎小梁

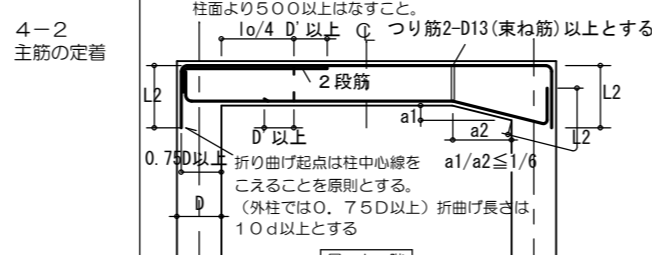
1. 地反力を受けない、床など上載荷重を受ける場合は (4-1) (4-2) による。余長は L<sub>1</sub> ≥ min (D, L<sub>2</sub>) とす。  
2. 地反力及び上載荷重を受けない場合

## 4-7 梁の貫通補強

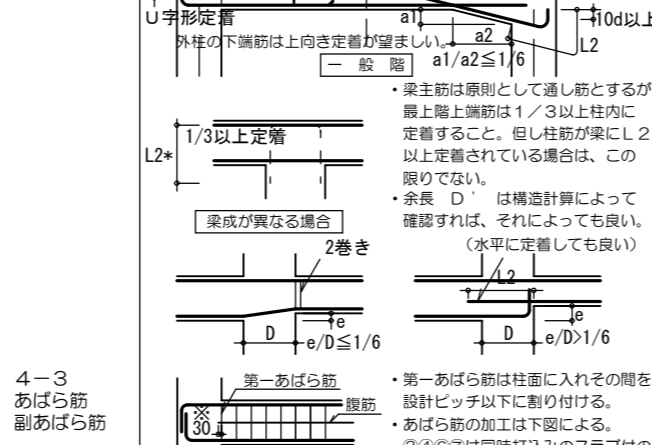


## 4-1 主筋の継手

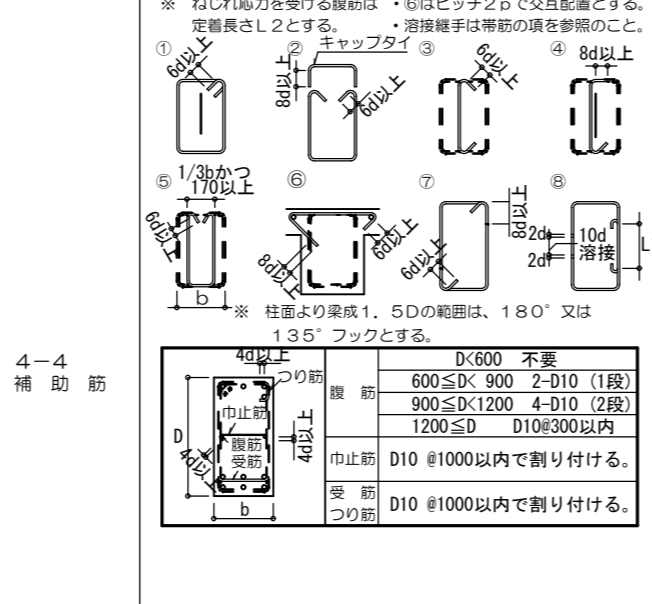
## 4-2 主筋の定着



## 4-3 あばら筋

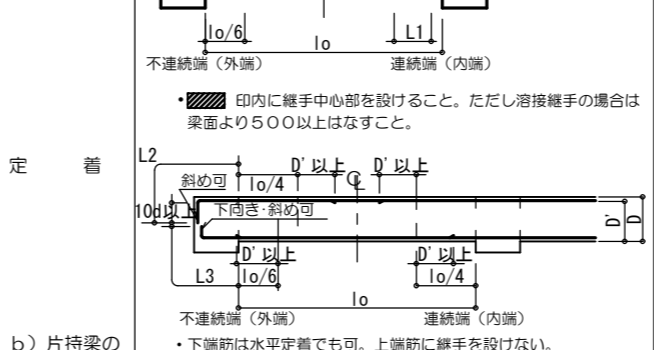


## 4-4 補助筋



## 5-4 補強筋

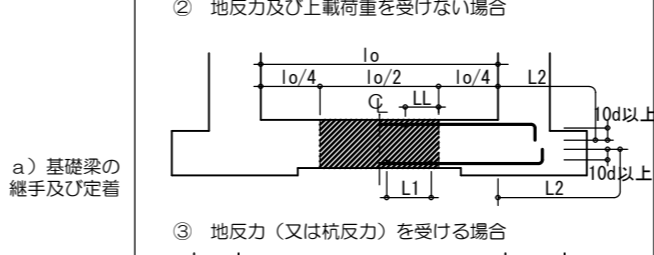
- 開口補強 A: 開口面積 A ≤ 0.3m<sup>2</sup> かつ l ≤ 0.6m  
かつ l ≤ 1.0m



## 5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着

1. φが100かつ D/8 未満のとき補強を必要としない。  
2. 補強筋は原則として工場製品 (認定品) を使用する

## 5-2 継手

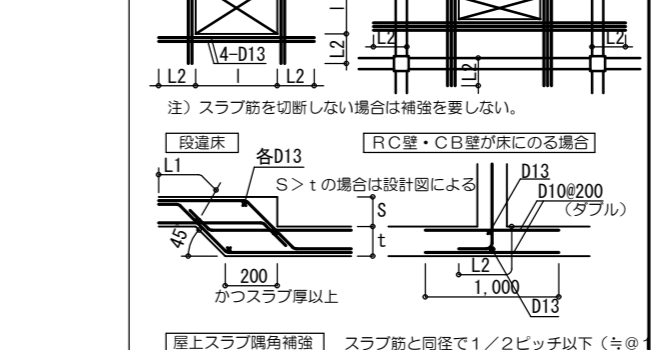


## 5-3 片持スラブ



## 6-1 定着及び継手

1. 地反力を受けない場合 (4-5) による。  
2. 地反力を受ける場合



## 6-2 標準壁リスト

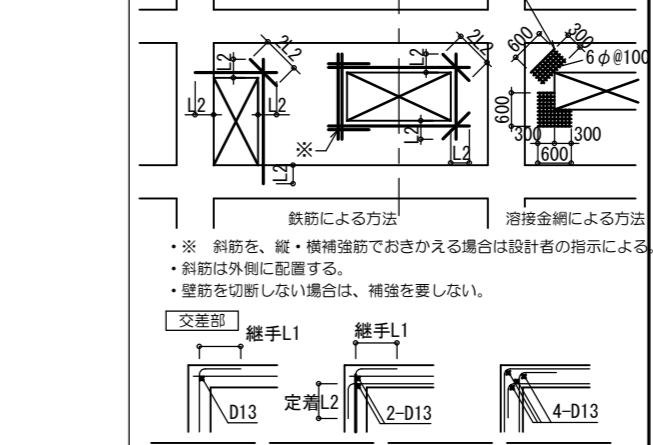
- 特記なき配筋は下記による。

符号	壁厚	縦筋・横筋	開口部補強筋
			縦筋・横筋
			別途構造リストによる。

## 6-3 補強筋

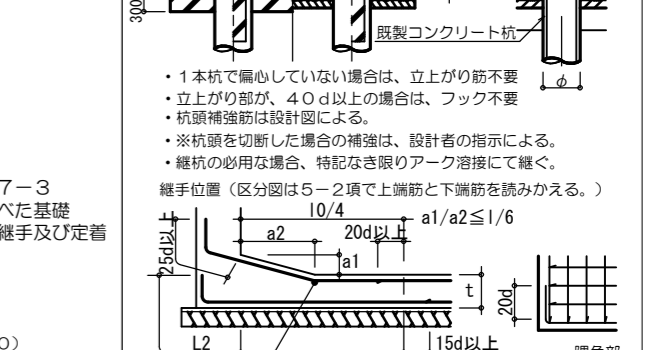


## 7-1 独立基礎



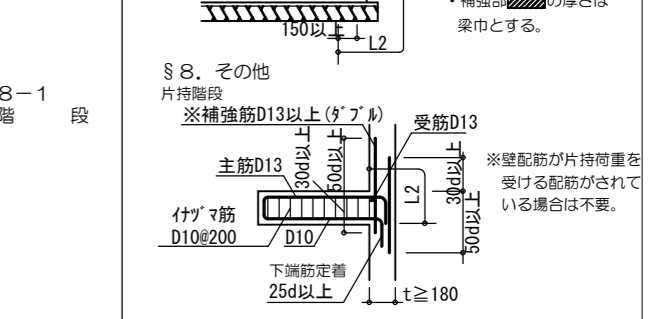
## 7-2 杭基礎

- 1本杭で偏心していない場合は、立上り筋不要  
立上り筋が、4.0d以上の場合は、フック不要  
杭頭補強筋は設計図による。  
杭頭を切断しない場合は、補強を要しない。  
杭頭の必要場合、特記なき限りアーク溶接にて継ぐ。  
継手位置 (区分図は5-2項で上筋筋と下筋筋を読みかえる。)

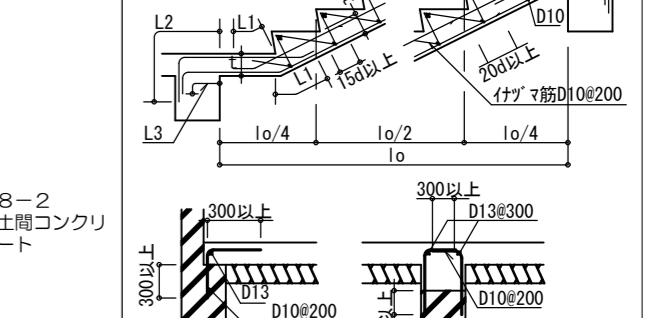


## 7-3 ベタ基礎

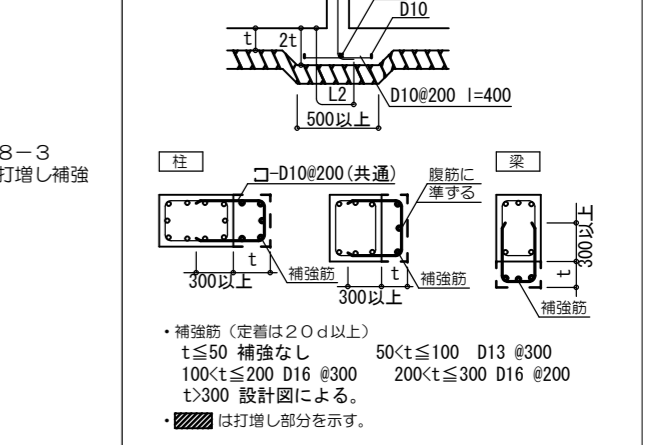
- 補強筋の厚さは梁巾とする。



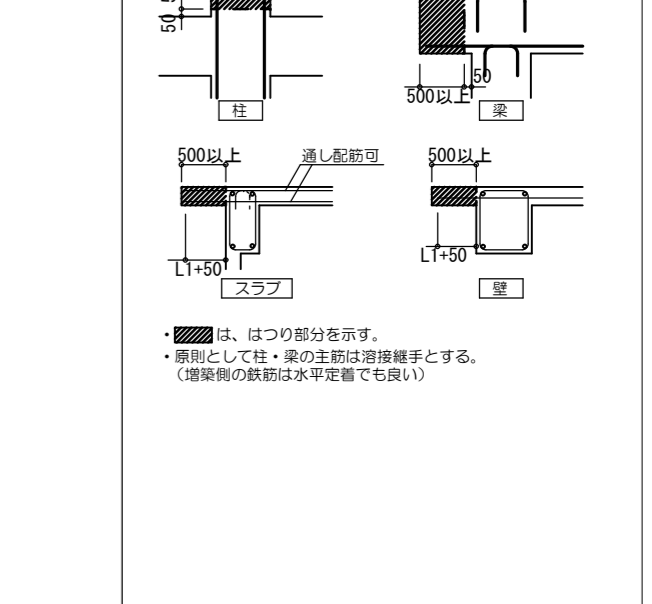
## 7-4 基礎と基礎梁



## 8-1 階



## 8-2 土間コンクリート



- 補強筋 (定着は2.0d以上)  
t ≤ 50 補強なし 50 < t ≤ 100 D13 @ 300  
100 < t ≤ 200 D16 @ 300 200 < t ≤ 300 D16 @ 200  
> 300 設計図による。  
打増し部分を示す。

# 鉄骨構造工作標準図

## § 1. 一般事項

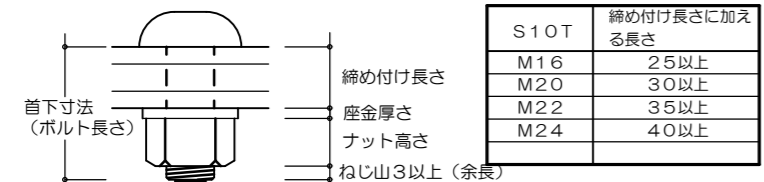
・使用材料はすべて規格品とする。  
 SS400, SN400, SN490  
 STKR400, STKR490, BCR295, BCP235, BCP325  
 STK400, STK490, SSC400  
 高力ボルト F8T, F10T, S10T  
 のうち使用区分は、別途構造特記仕様書による。

・設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。  
 ・本標準図における単位はすべてmmとする。  
 ・精度に関しては、JAS6の付則6「数値精度検査基準」による。

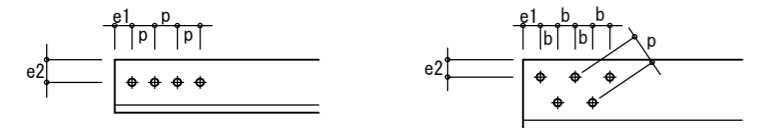
## § 2. 共通事項

- ・ AB アンカーボルト
- ・ BP ベースプレート
- ・ CP カバープレート
- ・ FR フランジプレート
- ・ HTB 高力ボルト
- ・ TB ターンバックル
- ・ W1-5 溶接記号 (§ 4 参照)
- ・ BH 組立てH形鋼
- ・ CHR チェッカープレート
- ・ FB フラットバー
- ・ GR ガゼットプレート
- ・ SR スプラインプレート
- ・ WR ウェブプレート
- ・ D1A 内ダイヤフラムプレート

## § 3. ボルト接合

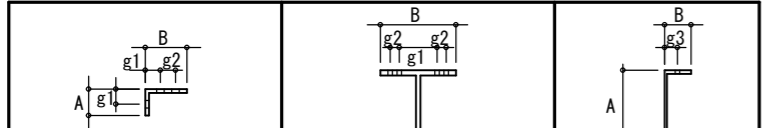


・ HTBはすべてS10T (トルシヤ形高力ボルト) を使用し、スペリ係数は0.45とする。  
 ・ ボルト接合面の処理  
 締め付け厚面は母材に於いては平グライナー掛け、スプラインプレートに於いてはショット掛けを行い、黒皮を除去し黒に赤さびを生じさせる。



呼び径	M16	M20	M22	M24
孔径	18.0	22.0	24.0	26.0
標準ピッチ	60	60	60	70
はしあき	40(40)	40(50)	40(55)	45(60)
へりあき	25	30	35	40

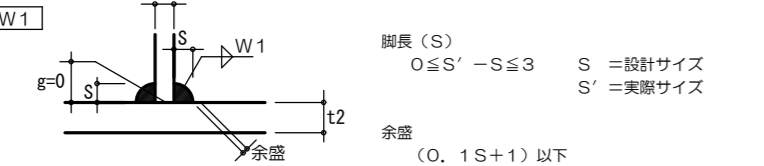
・ ( ) 内はボルトが耐力方向に3本以上並ばない場合をしめす。



A or B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径
**50	30	16	**100	60	16	**50	30	16		
60	35	125	75	16	65	35	20			
65	35	20	150	90	22	70	40	20		
70	40	20	175	105	22	75	40	22		
75	40	22	200	120	24	80	45	22		
80	45	22	250	150	24	90	50	24		
90	50	24	*300	150	40	24	100	55	24	
100	55	24	350	140	70	24				
125	50	35	400	140	90	24				
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

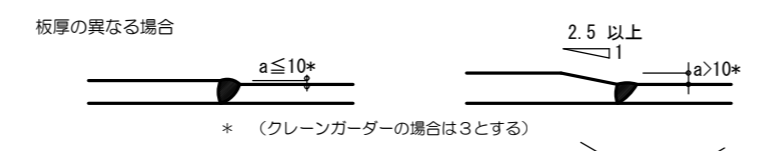
\*B=300 は千鳥打ちとする。  
 \*印の線のgおよび最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁距離の規定にかかわらず用いることができる。

## § 4. 溶接接合



t: t1とt2の小さい方	6以下	9	12	14	16	19
S	8	11	12	14	16	16

## 4-2 突合せ溶接



・ 2.5以上  
 $a \geq 10*$   
 $a > 10*$   
 \* (クレーンガーダーの場合は3とする)

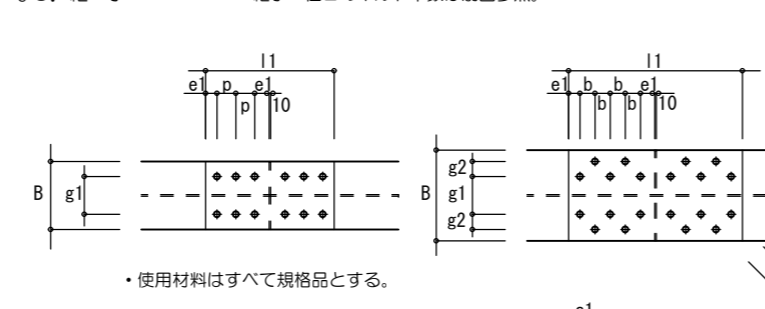
・ スカールップ (改良スカールップ)  
 $R1=3.5, R2=1.0$  を標準とする。  
 複合円は滑らかに仕上ること。

## 4-3 開先形状

記号	形状	適用板厚	寸法
W2 (MC-BL-1)		$6 < t \leq 12$	$g: 7+2(-2)$ $r: 2+1(-2)$ $\alpha 1: 45^\circ-5^\circ$ $\alpha 2: 9+2(-2)$ $r: 2+1(-2)$ $\alpha 1: 35^\circ-5^\circ$ $\alpha 2: 0+2(-0)$ $r: 2+2(-2)$ $\alpha 1: 45^\circ-5^\circ$
W3 (MC-BL-2)		$12 < t \leq 32$	$g: 0+4(-0)$ $d1: 2/3(t-r)$ $r: 2+2(-2)$ $d2: 1/3(t-r)$ $\alpha 1: 45^\circ-5^\circ$ $\alpha 2: 60^\circ-5^\circ$ $g: t-2$
W4 (MC-BK-2)		$19 < t \leq 32$	$g: 0+4(-0)$ $d1: 2/3(t-r)$ $r: 2+2(-2)$ $d2: 1/3(t-r)$ $\alpha 1: 45^\circ-5^\circ$ $\alpha 2: 60^\circ-5^\circ$ $g: t-2$
W5 (MC-B1-B1)		$t \leq 6$	$g: t-2$

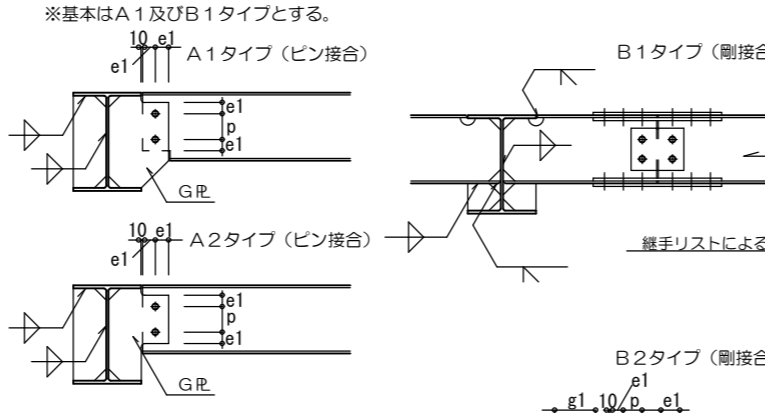
・ 上図は手溶接の隅肉又は完全溶込みグループ溶接の場合を示す。但し、半自動溶接および自動溶接にて施工する場合は別途指示とする。

## 5-1 継手リスト



・ 使用材料はすべて規格品とする。

## 5-2 仕口リスト

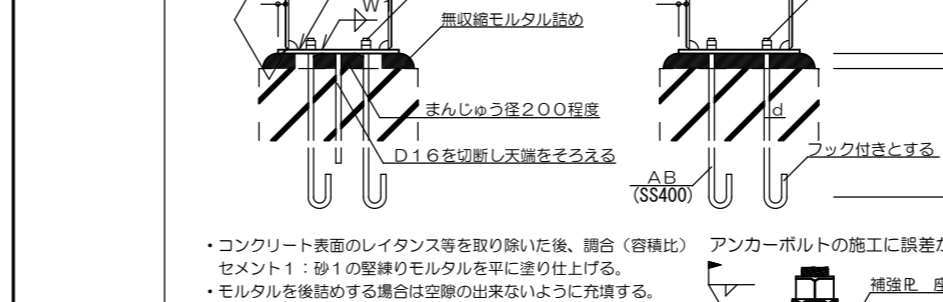
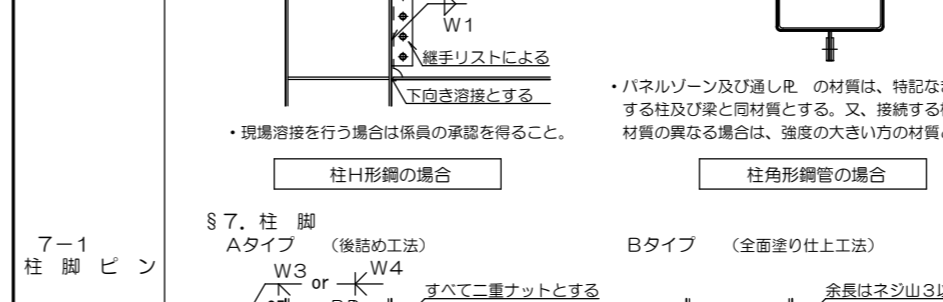
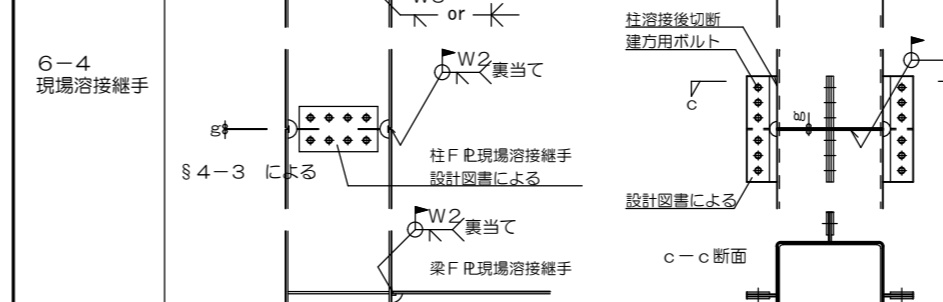
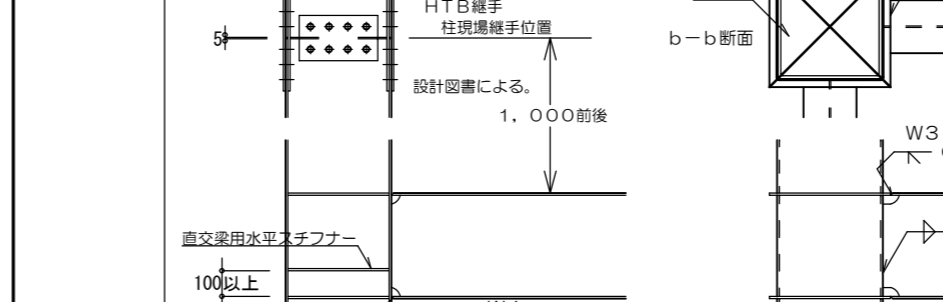
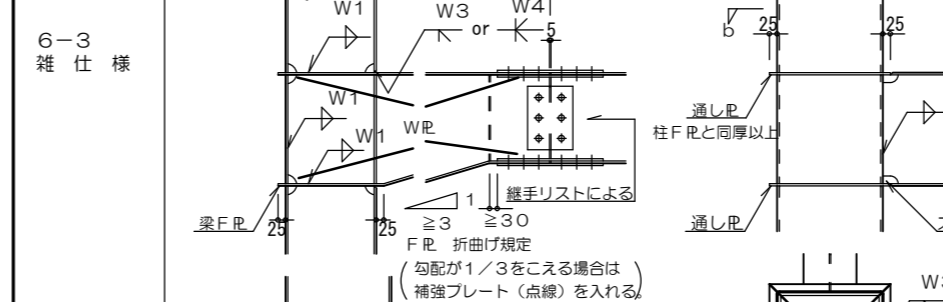
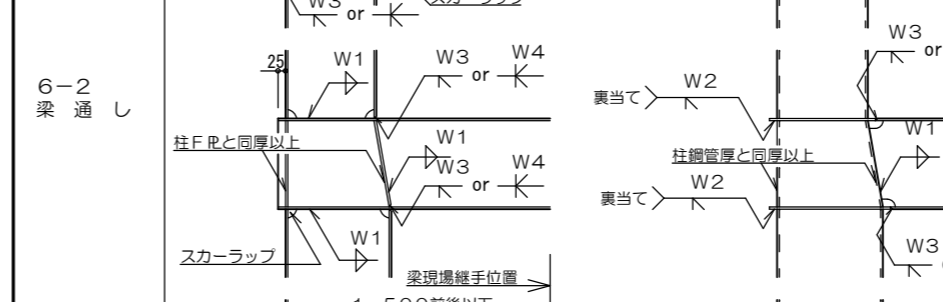


・ フィラプレート  
 FR, WR 面で段差が1をこえる場合は、フィラプレートを入れる。

## § 6. 柱梁接合部および継手



・ 6-1 柱通し  
 6-2 梁通し  
 6-3 雑仕様



・ § 7. 柱脚  
 Aタイプ (後詰め工法)  
 Bタイプ (全面塗り仕上げ工法)

・ § 8. 床面ブレース  
 壁面ブレースにならう (JIS規格品)

部材	H T B
L-50 x 50 x 6	2 -
L-65 x 65 x 6	3 2

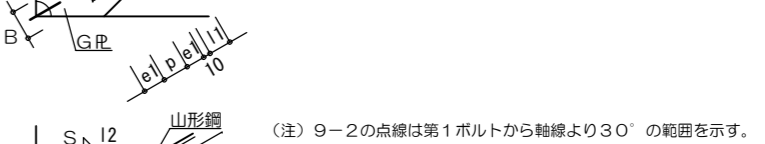
## 9-1 丸鋼



タイプ	部材	羽子板	GR	溶接
A	M12	FB-4.5x40x135	1-M12	6 6 40 6 55
A	M16	FB-6x52x170	1-M16	9 8 55 8 75
A	M20	FB-9x67x205	1-M20	9 8 75 8 85
A	M22	FB-9x77x230	1-M22	12 10 85 10 95
B	M24	FB-9x77x270	2-M20	12 10 85 10 105

P=50

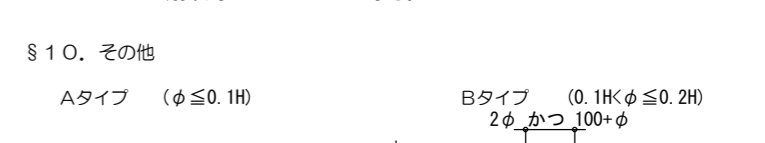
## 9-2 山形鋼



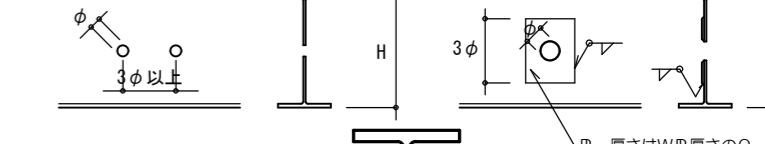
部材	GR	H T B	溶接	部材	GR	H T B	溶接
L-65 x 65 x 6	9	16 5	120	2L-65 x 65 x 6	9	16 5	240
L-75 x 75 x 6	9	16 5	140	2L-75 x 75 x 6	9	16 5	270
L-75 x 75 x 9	9	16 5	180	2L-75 x 75 x 9	12	20 5	315
L-90 x 90 x 7	9	20 4	170	2L-90 x 90 x 7	12	20 4	315
L-90 x 90 x 10	9	20 5	230	2L-90 x 90 x 10	12	20 5	410
L-100 x 100 x 10	9	20 5	260	2L-100 x 100 x 10	12	20 6	460

(注) 9-2の点線は第1ボルトから軸線より30°の範囲を示す。

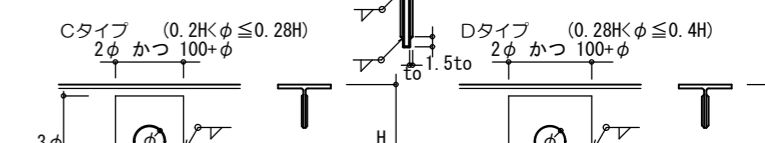
## 10-1 貫通補強



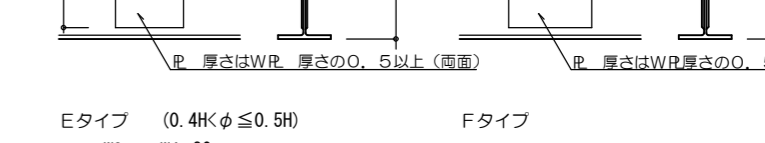
## 10-2 デッキプレート



## 10-3 スタッシバル



## 10-4 壁筋の溶接



# QLデッキ合成スラブ設計・施工標準

JFE建  
材  
株式  
会社

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工標準-2004」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

## 設計

材料/デッキプレート [ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理
QLデッキ	1.2	裏面防錆処理(一次塗装) QLプライマー(P)
□QL99-50	1.2	裏面に防錆処理(二次塗装) QLプライマー(P)
□QL99-75	1.6	裏面に防錆処理(二次塗装) QLプライマー(P)
QLセラー	1.2	裏面に防錆処理(二次塗装) QLプライマー(P)
□GKX-50	1.2	裏面に防錆処理(二次塗装) QLプライマー(P)
□GKX-75	1.6	裏面に防錆処理(二次塗装) QLプライマー(P)

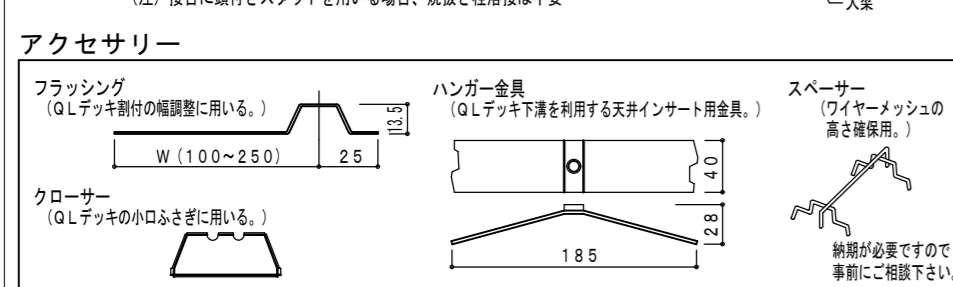
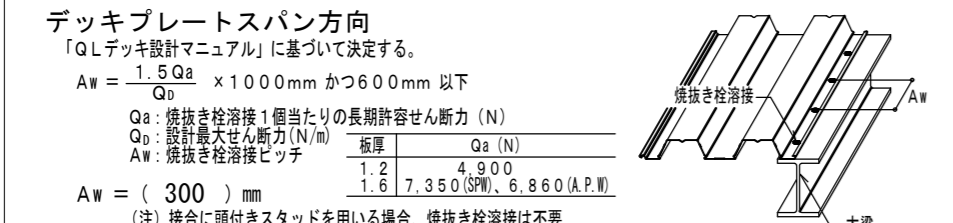
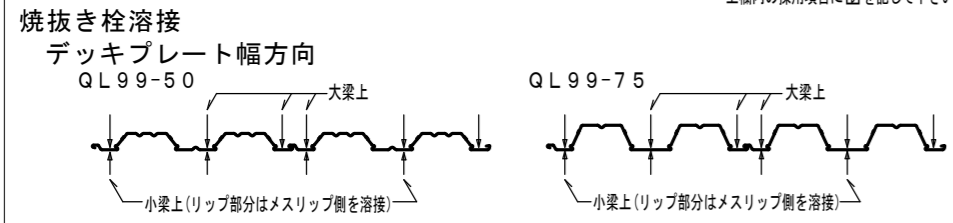
種類	普通コンクリート	軽量コンクリート (O1種 O2種)
設計基準強度	21	( ) N/mm <sup>2</sup>
厚さ(QLデッキ上)	60 70 80 85 90 95 100 ( ) mm	

溶接金網	異形鉄筋
溶接金網 JIS G 3551	φ6-150×150 φ6-100×100
異形鉄筋 JIS G 3112, 3117	D10-@200 ( )

接合	接合箇所の特記
溶接金網	溶接金網は異形鉄筋に定着
異形鉄筋	異形鉄筋はコンクリートに定着

耐火仕様	1時間	2時間
連続支持	FP060FL-9095	FP120FL-9107
単純支持	FP060FL-9101	FP120FL-9113

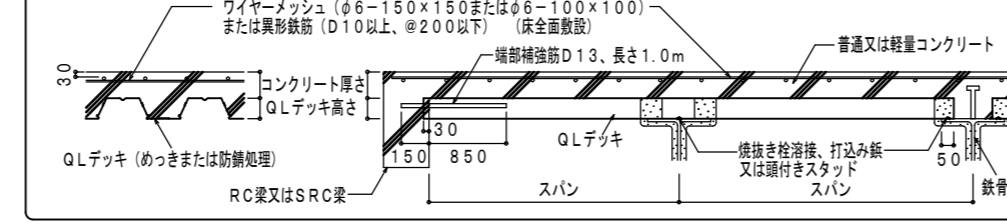
特記	支保工有無	その他
支保工有	□	□
支保工無	□	□



## 耐火仕様

【連続支持合成スラブ】

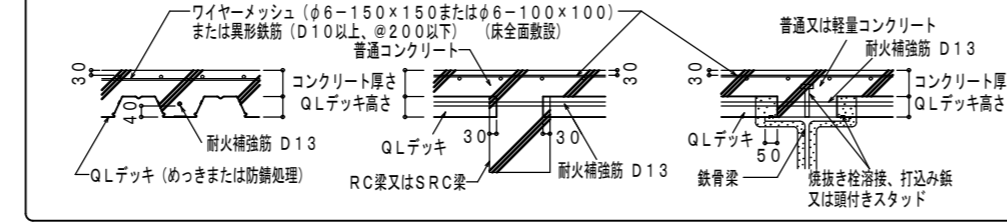
耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋	許容積荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)B参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	D10-@200	算出式注5)B参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	D10-@200	算出式注5)B参照



## 【単純支持合成スラブ】

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋	許容積荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-150×150	算出式注5)B参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)B参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	D10-@200	算出式注5)B参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋	許容積荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-150×150	算出式注5)B参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)B参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	D10-@200	算出式注5)B参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照



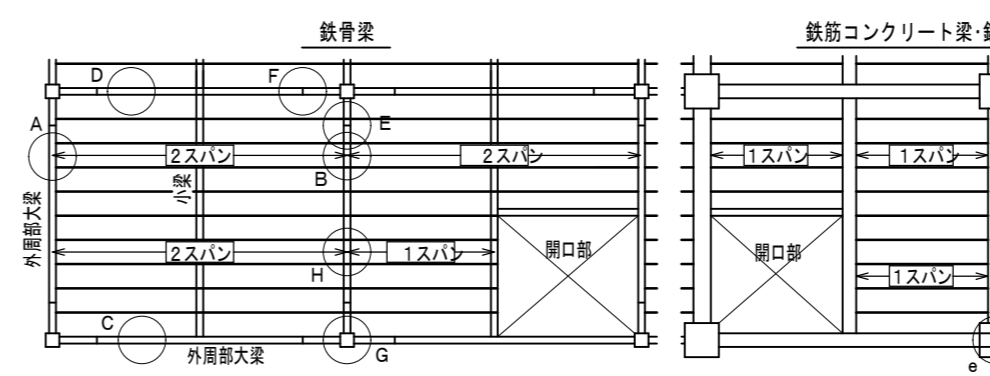
注1) スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支える梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいいます。  
 注2) スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは溶接金網又は溶接金網(軸径1.6mm以上、ピッチ300mm以下)で結合する。  
 注3) 鉄骨梁の場合、梁との接合は溶接金網又は溶接金網(軸径1.6mm以上、ピッチ300mm以下)を用います。  
 注4) 梁の耐火保護 梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火保護を施す。  
 注5) 許容積荷重W 算出式

[A] QL99-50	[B] QL99-75
$W = 5,400 \times \left(\frac{2.7}{s}\right)^2$ かつ $9,800 \text{ N/m}^2$ 以下	$W = 5,400 \times \left(\frac{3.4}{s}\right)^2$ かつ $9,800 \text{ N/m}^2$ 以下

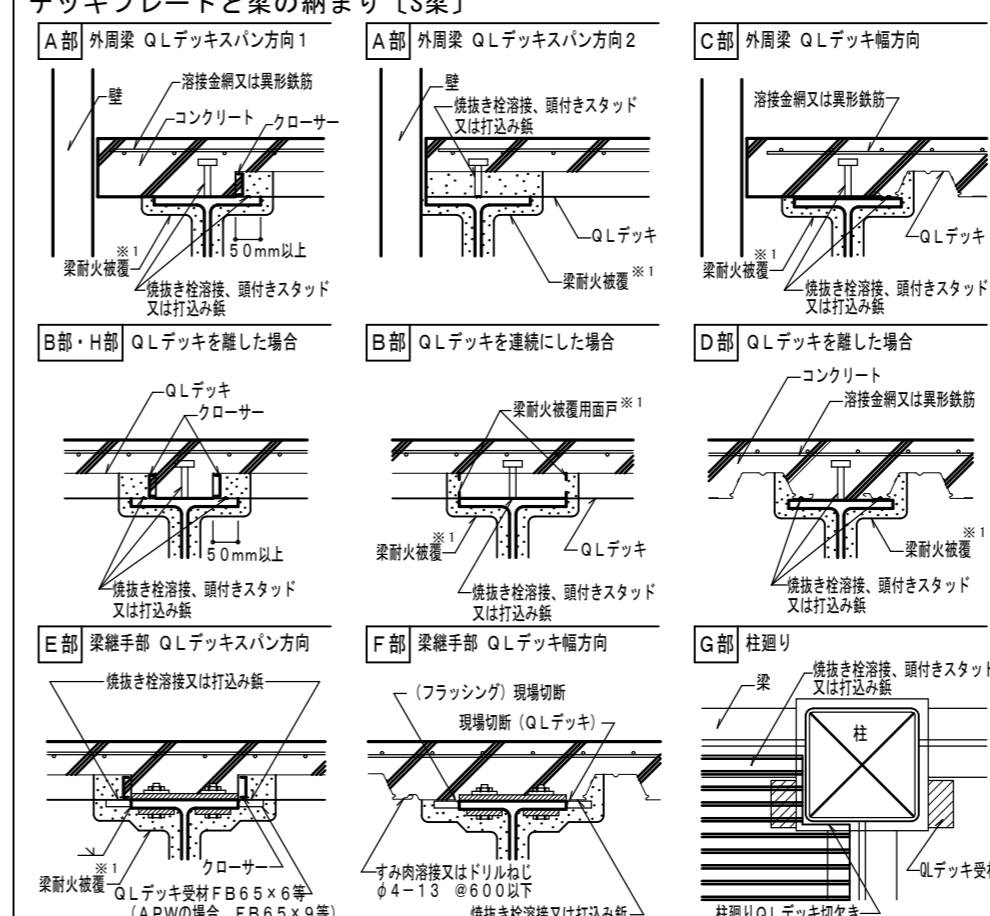
※許容積荷重は、床にかかる自重(土上り重量も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。  
 付帯条件 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上わたって連続的に小はり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

## 標準納まり

図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。 ※2はQLデッキ耐火認定を適用する場合に必要。

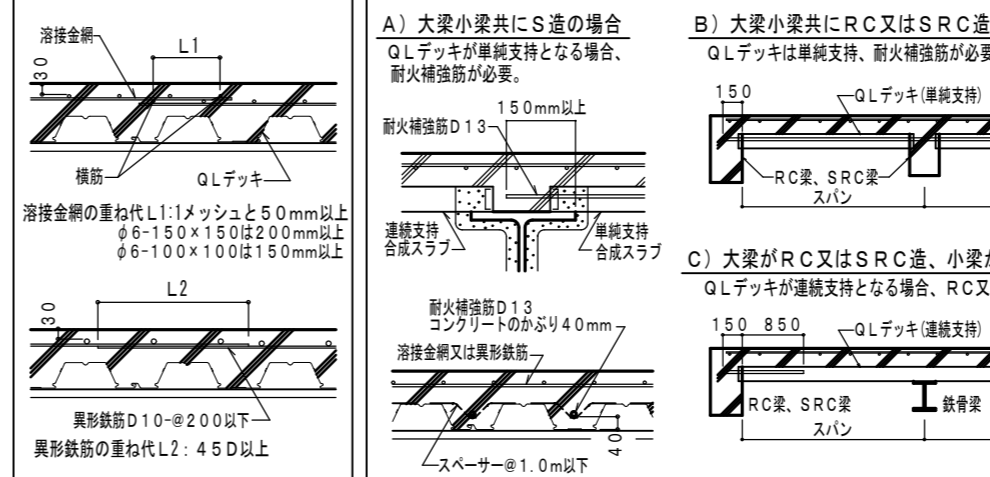


## デッキプレートと梁の納まり [S梁]

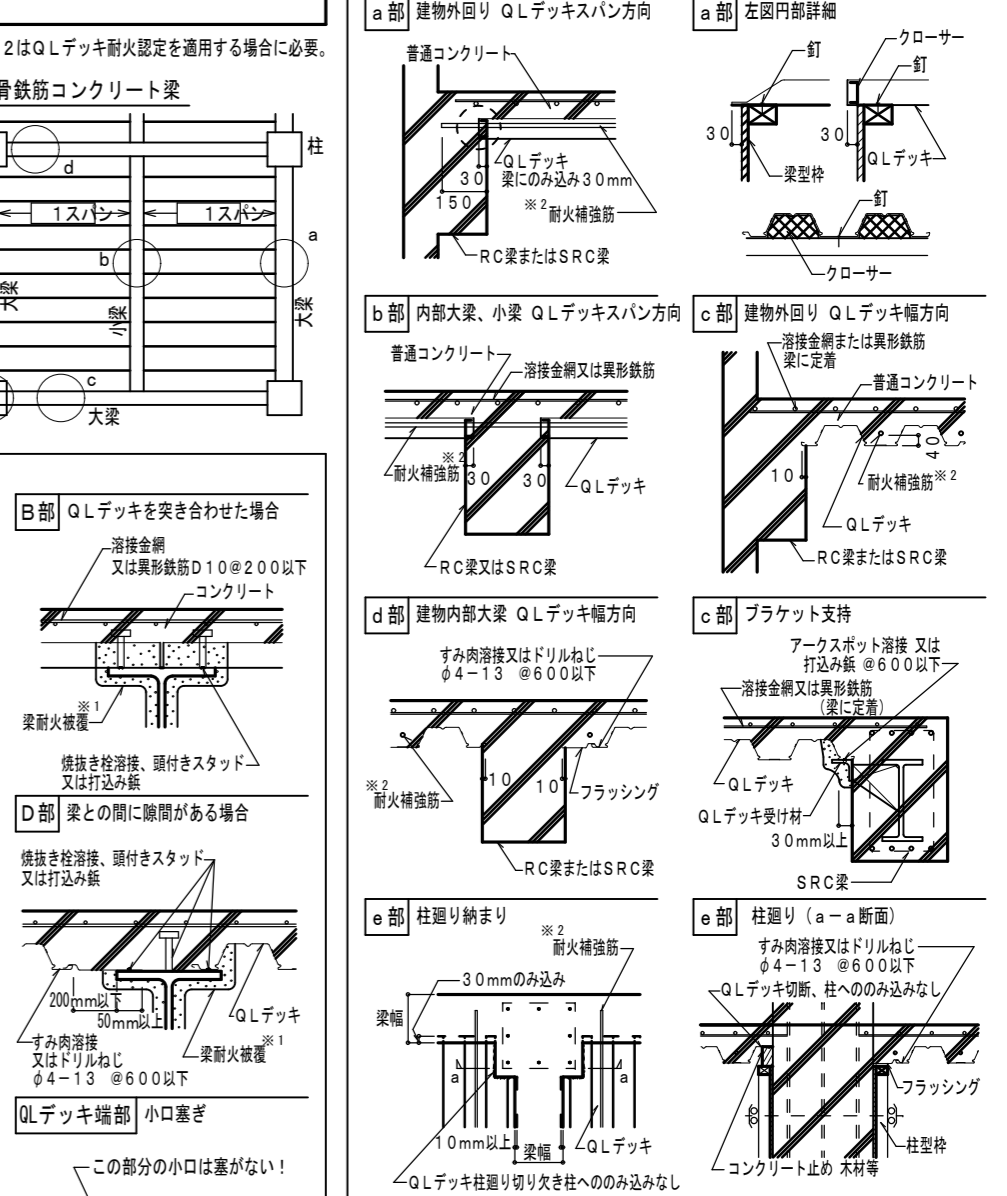


## スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

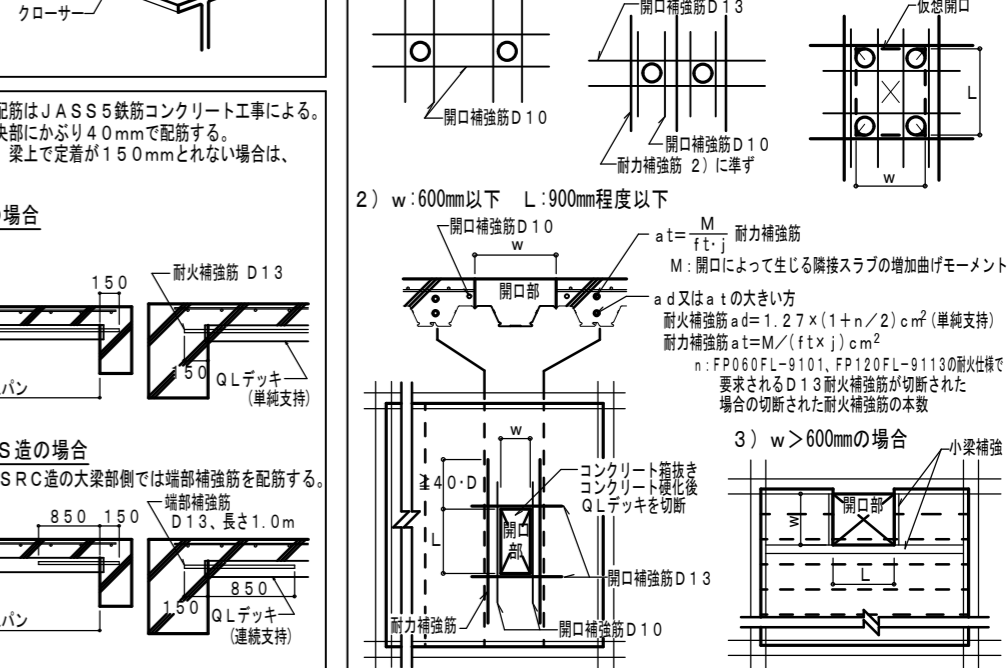


## デッキプレートと梁の納まり [RC・SRC梁]



## 開口部補強案

1) 開口がφ150程度の場合  
 A) 開口間隔≧3×開口径 B) 開口間隔<3×開口径  
 2) w:600mm以下 L:900mm程度以下



施工順序	敷込み
墨出し	1) 墨出しに合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止め溶接する。
QLデッキと梁との接合	2) デッキプレートの溝部を各大梁上に乗るように敷込む。(50mm以上)
溶接金網敷込み	3) デッキプレートの長さ方向の梁上のかぶり厚は、50mm以上に敷込む。
コンクリート打設	
検査	

## デッキプレートと梁との接合

工程	手順・要領
1 アーク発生	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、溶接棒を梁上まで押し込み、溶接棒の先端をなぞるように円中央へ2~3回転しながら溶接する。
2 QLデッキ溶接	溶接棒を押し込み、溶接棒の先端をなぞるように円中央へ2~3回転しながら溶接する。
3 押し込み・溶着	溶着金属を整え、中央部で溶接棒を引き上げる。溶着を除去して仕上がりを確認する。
4 整形	溶着金属を整え、中央部で溶接棒を引き上げる。溶着を除去して仕上がりを確認する。

## 検査

検査項目	検査内容
溶接金網の敷込み状況	溶接金網の敷込み状況を確認する。
溶接部の外観検査	溶接部の外観を確認する。
溶接部の強度確認	溶接部の強度を確認する。

## (参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

留意事項	対策
設計上の留意事項	1) 小梁の剛性を大きくする。 2) ひび割れ拡大防止のための補強筋を設ける。(右図参照) 3) スラブとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。(コンクリート厚さをQLデッキ山から80~90mmと厚くする。) 4) デッキプレートは各溝部に溶接して接合すると、デッキプレートと梁との接合部でひび割れが発生する可能性がある。アークスポット溶接を推奨する。
施工上の留意事項	1) 水セメント比を小さくする。 2) 溶接金網の位置を正確に確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 3) コンクリート打込み後1週間以内は歩行作業を行わない。歩行は可。 4) 打込み後初期には水養生シート等で養生を行う。 5) 打込み後4~7日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分養生期間を設ける。

# ウルトラコラム工法 特記仕様書 (参考図)

※他工法を使用する場合には、仕様書及び工法の妥当性について係員の承認を得る事 (参考として他工法として、エスミコラム工法、テノコラム工法など)

## § 1. 工法概要

本地業は、ウルトラコラム工法による、地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、ウルトラコラム専用共回り防止翼(十字型)を装着した攪拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

## § 2. 特記事項

本工事工法は、攪拌能力・攪拌径・品質(変動係数)に対して「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術審査証明取得工法とする。  
また、事前にその証明書を管理者に提出し、認証を得ることとする。

## § 3. 一般事項

### <1> 施工業者

本工事の施工業者は、地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取扱いに精通したもので、ウルトラコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。

### <2> 設計変更

コラム径、掘削深度(改良長+空堀長)、本数配置等は、設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

## § 4. コラム仕様

### <1> 設計基準強度

コラムの設計基準強度は  $F_c = 1350 \text{ kN/m}^2$  とする。

### <2> 固化材

固化材の配合は、原則として、改良部分の検査対象土を採取し、3種類以上の添加量にて室内配合試験を行い試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。

※使用する固化材は、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認する。

### <3> 配合強度

配合強度  $X_f$  は、設計基準強度  $F_c$  と変動係数・採取ヶ所数により割増係数  $\alpha_t$  を用いて、次式による。  
 $X_f = \alpha_t \times F_c$

割増係数  $\alpha_t$  は、合格率80%とした下表による。

採取ヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
変動係数 $V_c$						
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
30%	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
35%	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

### <4> 室内配合強度

室内配合強度  $X_l$  は、配合強度  $X_f$  を現場/室内強度比  $\alpha_{ft}$  で除して、次式による。  
 $X_l = X_f / \alpha_{ft} \quad (\alpha_{ft} = 0.7)$

### <5> 固化材液の配合

固化材添加量は、配合試験結果による。

## § 5. 施工管理

※施工手順書に沿って次の仕様で行う。

- ① 固化材スラリーの吐出量
- ② ロッドの鉛直性
- ③ オーガー回転数
- ④ 掘進深度・速度及び引上げ深度・速度
- ⑤ トルク値またはオーガー電流値

### <1> 調査ヶ所 (検査対象層に対して)

① 検査対象層群は、概ねコラム300本を1単位とし、層厚50cm以上の土層毎に検査対象層を決める。

② 検査対象層は (シルト) であり設計対象層を (シルト) とする。

③ 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。

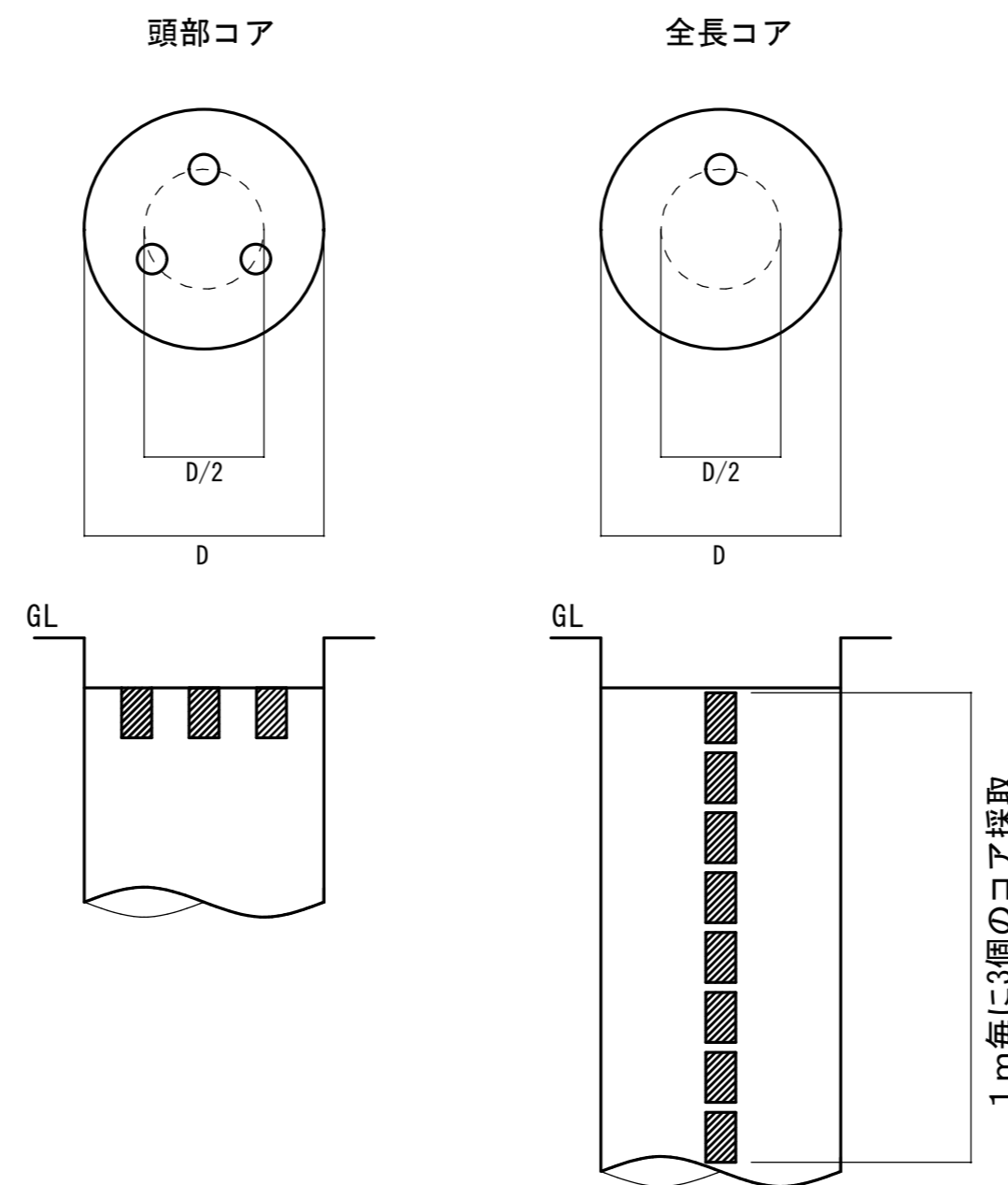
④ 調査ヶ所数 (検査対象層に対して)

検査手法A	頭部コア試験	1	箇所
	全長コア試験	1	箇所

※頭部コアは、1箇所当り3個のコア採取を標準とする。

※全長コアは、1m当り3個のコア採取を標準とする。

### <2> 採取位置



### <3> ボーリングコア採取率 (連続性の確認)

コア採取率は、全長に対して砂質土系で95%以上、粘性土系で90%以上とし、1m当りのコア採取率は、砂質土系で、90%以上、粘性土系で85%以上とする。(塩ビ管などを代用する場合もある)

### <4> 可否の判定

① 設計対象層についての採取ヶ所をNとする。1箇所あたり3個の供試体を採取し、強度をその箇所の強度とする。

② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。

③ 検査手法Aによる品質検査

可否の判定は設計対象層におけるNヶ所(採取ヶ所数)の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定とする。

$$XN \geq XL = F_c + K_a \cdot \sigma_d = F_c + K_a \{ F_c \cdot V_d / (1 - 1.3V_d) \}$$

XN: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値

XL: 合格判定値

$F_c$ : 設計基準強度

$K_a$ : 合格判定係数

$\sigma_d$ : 標準偏差

Vd: 変動係数、品質確認書より想定する。

(合格判定係数)

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 $K_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

### <5> 未固化改良体の比抵抗測定

施工直後の改良体の攪拌混合状況を把握するために、比抵抗の深度方向の分布を測定する。

検査数量は、1検査対象層群毎に1箇所以上かつ、50コラム毎に1箇所以上とする。

比抵抗測定	1	箇所
-------	---	----

§ 7. 問い合わせ先 愛知ベース工業株式会社 (連絡先: 052-485-8381)

### ウルトラコラム工法

### 改良コラム数量明細

記号	○
設計コラム長	8.38m
空堀長	1.10m
コラム数	8本
改良コラム径	φ1000mm
設計基準強度	1350kN/m <sup>2</sup>



アイ・エス建築企画

三重県知事登録(1)第1384号 一級建築士事務所

一級建築士 第227535号 生川 昌毅

樋口設計室  
1級建築士事務所 三重県知事登録第1-2228号  
一級建築士 大臣登録 第303185号 樋口隆秀  
構造設計一級建築士 第2304号

Project

大矢知分団車庫改築工事

Date

2025.11.07

Title

Scale A2:1/NOS  
A3:1/NOS

ウルトラコラム工法 特記仕様書

No.

S-04

特記仕様書

1 使用材料

1	コンクリート	—	—	24 N/mm <sup>2</sup> (=F <sub>c</sub> )	+	構造体強度補正値S	JASS 5による
2	土間コンクリート	—	—	21 N/mm <sup>2</sup>	T=150	タテヨコ D13-@200 シングル	JASS 5による
※土間コンクリートひび割れ誘発目地等は、意匠図及び打ち合わせによる							
3	鉄筋	—	—	D16以下	・・・	SD 295	JIS G 3112
		—	—	D19以上	・・・	SD 345	JIS G 3112
4	鉄骨	—	—	SS400, SN400B, SSC400, STKR400, BCR295, SN490C	—	継手ガス圧接 (超音波探傷試験)	下表による

鋼材種	使用箇所	JIS規格等
SS400	突き合わせ溶接の無い重量形鋼 (小梁) : その他一般鋼材 鋼線用アンカーボルト	JIS G 3136
SN400B	突き合わせ溶接の有るH型鋼 (大梁全域・片持ち梁・内ダイヤフラム)	JIS G 3136
SN490C	C柱の通しダイヤフラム C柱のB, PL T <sub>1</sub> ≧16	JIS G 3136
ABR400	C柱の転造アンカーボルトセット 降伏比0.75以下を証明書にて確認の事	JIS B 1220
SNR400B	間柱用アンカーボルト	JIS G 3138
BCR295	C柱	MSTL-0495, 0594
STKR400	C柱以外の角形鋼管	JIS G 3466
SSC400	C型軽量形鋼	JIS G 3350

※鋼材種別について、その流通性等によりやむおえず変更する場合は、上位ランク (A→B等) であれば、断面性能は変わらず、品質向上により可とする。  
また、入手不可等やむおえない場合は、上記SN400Aの代替えとしてSS400を用いても可とする。

5	ブレース	—	—	JIS A 5540 ~ 5541			
6	H T B	—	—	F10T or S10T (国指発 第294号 MBLT-O189 [同等])		JIS B 1186	
7	中ボルト	—	—	F4T 強度区分 (4, 6)		JIS B 1180	
8	錆止塗料	—	—	JIS K 5674 (工場にて2回塗りとする)	現場	タッチペイント	
屋外露出部分等の屋外露出部材はDP塗装 ※DP塗装を行う部分の素地ごしらは、B種プラスト法による錆止とする。 なお、板厚6mm未満で、ゆがみを誘発することが想定される場合は、監督職員と協議の上、C種とする							
9	柱脚	—	—	柱脚 BASE: PL 下端モルタルは、無収縮モルタルとする。(F <sub>c</sub> =24N/mm <sup>2</sup> )			
アンカーボルトのセットには、フレーム組みをする事。							

2	設計用長期耐力	深層混合処理構法による地盤改良による。( ) 内は短期耐力を示す。	根切り底は係員の承認を得てから決定する。
		Lfa = 250 kN/m <sup>2</sup>	
※土間コンクリート下部及び埋め戻し土は、十分な転圧を施すこと。			

3 溶接加工業者は、旧告示1103号 認定工場とするが、監理者と協議の上、同等と認めた場合は許容する。

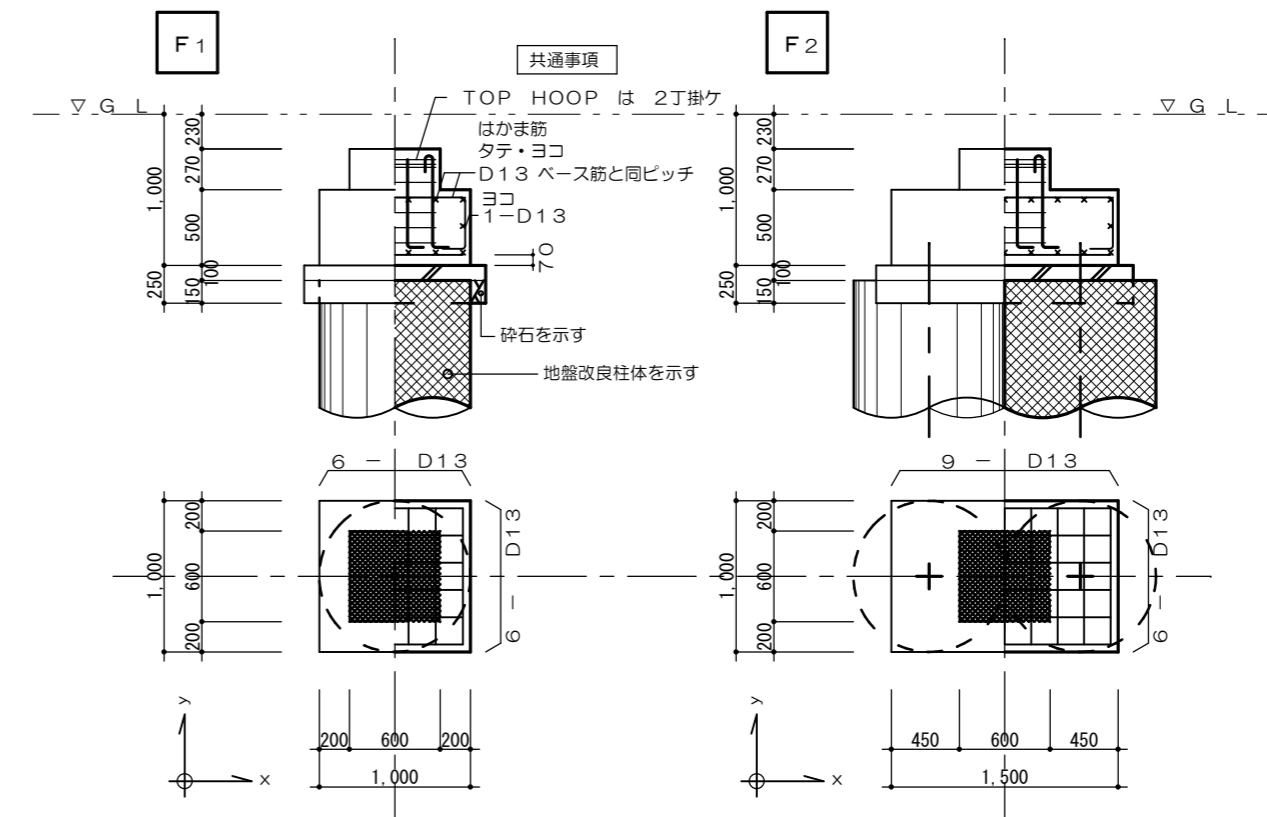
4 全ての工事は国土交通大臣官房官庁営繕部監修、公共建築工事標準仕様書 [最新年版] 及び、日本建築学会共通仕様書に依る

スラブリスト

柱列帯の配筋は、端部の配筋と同じとする。 主筋・配力筋の配筋方向には、注意する事。

符 号	スラブ厚	位 置	短 辺 ・ 主 筋 方 向		長 辺 ・ 配 力 筋 方 向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
FS	200	上 端 筋	D16 - @175	—	D13 - @200	—	3辺ピン 2通り辺固定 X方向=主筋方向
		下 端 筋	D16 - @175	—	D13 - @200	—	
cFS	180	上 端 筋	D13 - @100	—	D13 - @200	—	片持床板 Y方向=主筋方向
		下 端 筋	D13 - @200	—	D13 - @200	—	

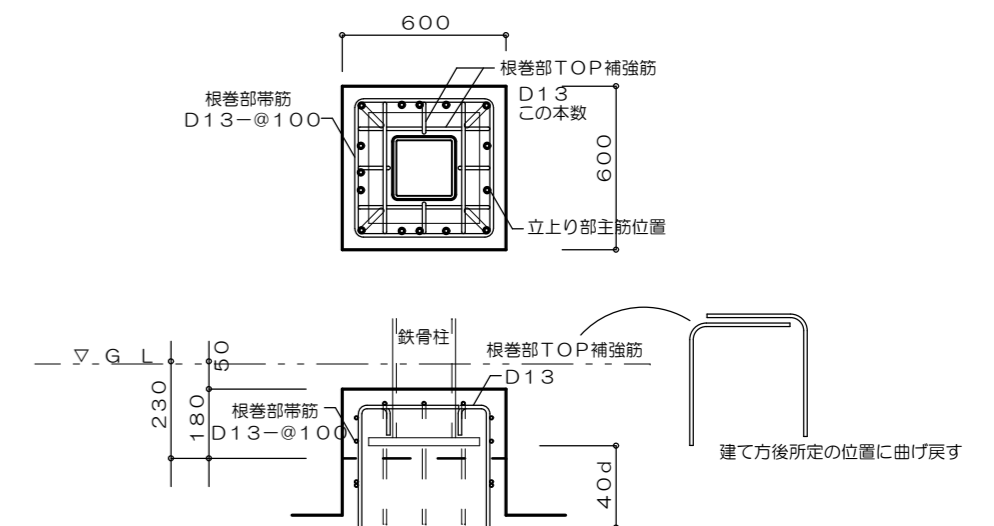
基礎リスト SC 1 : 50



基礎立ち上がり

柱 符 号	1C	立上り筋加工寸法
断面図		立上り筋加工寸法 コーナースタップ付き 氷平型 A寸法
主 筋	12 - D19	
フープ	D13 - @100	
ダイヤフープ		
主筋フック	コーナー筋のみ	
A 寸 法	150	

C 柱脚部根巻部コンクリート補強要領



地中梁リスト SC 1 : 50

巾止め筋は、D10-@1,000とする。

符 号	FG		FB		外部巾木
	全 域	全 域	全 域	全 域	
断面図					
B x D	320 x 600	320 x 600			
上 端 筋	3 - D22	3 - D22			
腹 筋	2 - D13	2 - D13			
下 端 筋	3 - D22	3 - D22			
スターラップ	D13-@200	D13-@200			



# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

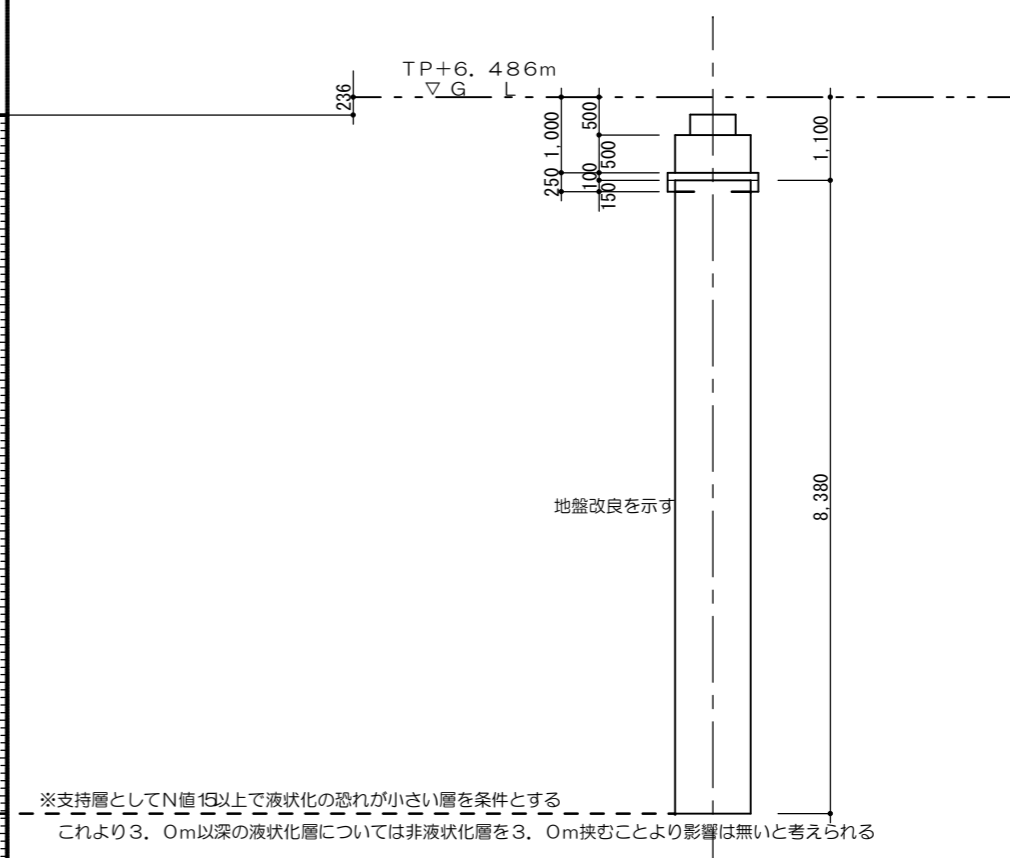
調査名 大矢知分団車庫改築工事地質調査業務委託

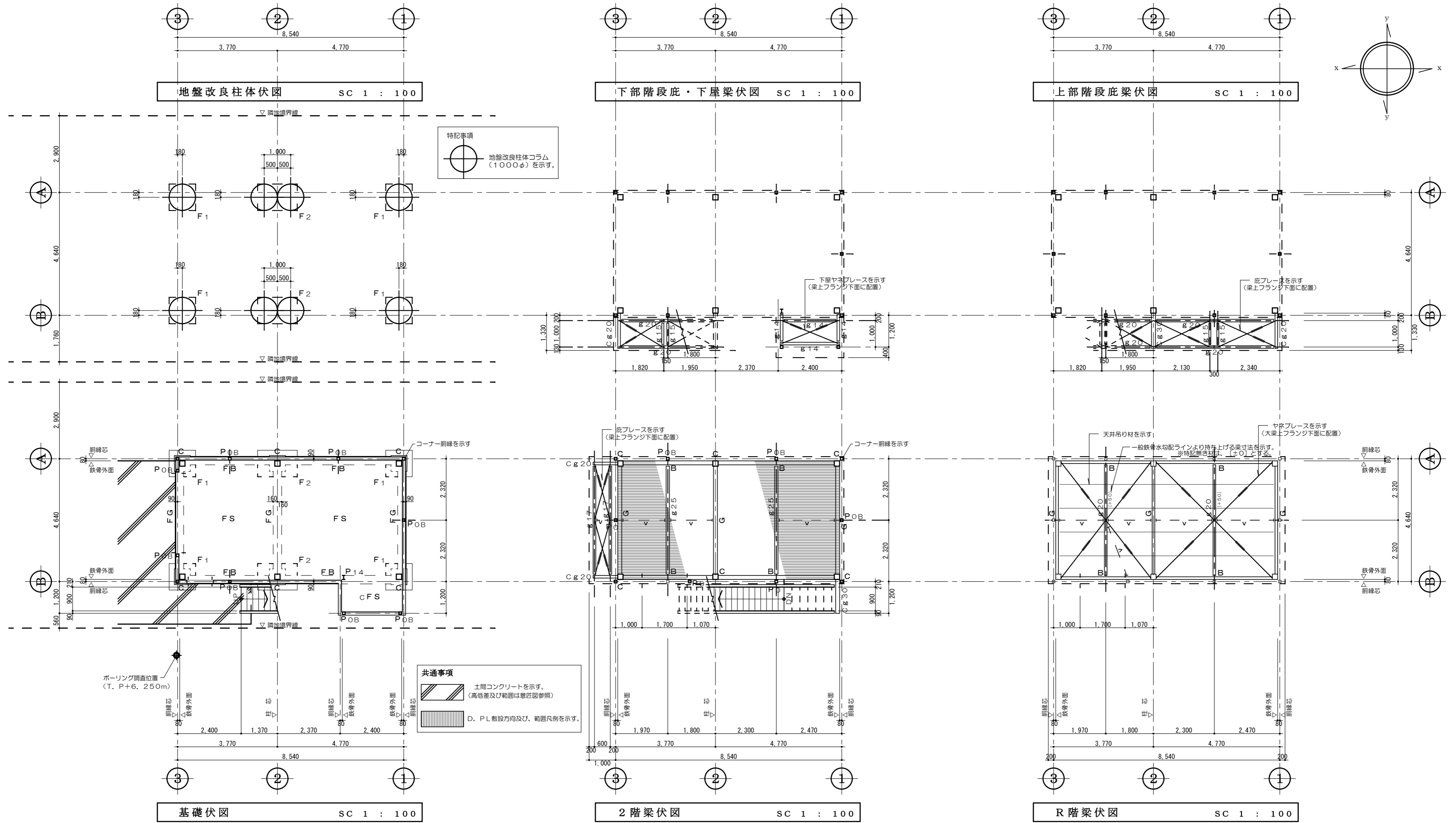
事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

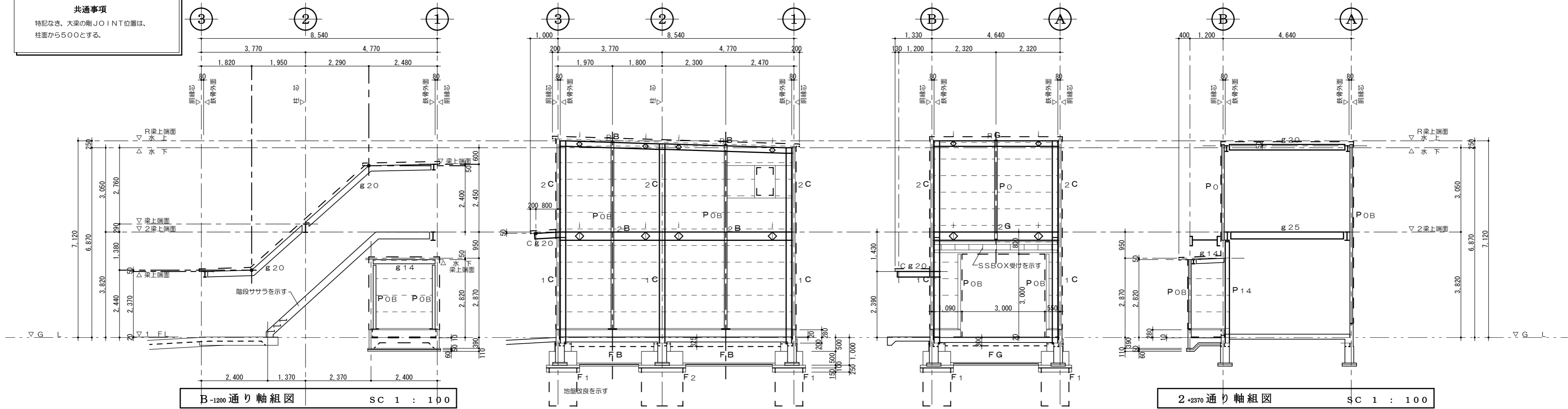
ボーリング名	No.1	調査位置	三重県四日市市下さざらい町 地内	北緯	35° 01' 7.3"
発注機関	三重県四日市市	調査期間	令和7年 8月 18日 ~ 令和7年 8月 19日	東経	136° 38' 32.9"
調査業者名	株式会社 見取コンサルタント 電話 059-326-1510	主任技師		現場代理人	
コア番号		コア確定者		ボーリング責任者	
孔口標高	T.P. 6.25m	角	180° ↑ 90° ↓	方位	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	20.45m	地盤勾配	鉛直 90° 0°	使用機種	試験機 KANO KR-100 エンジン YANMAR NFAD9 ポンプ KANO V-6

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試料採取	室内位置試験	削孔月日
											深度-N値図		N値	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量			
1	5.25	1.00	埋土	埋土		暗灰~暗黄灰			0~0.05m, アスファルト 0.05~0.25m, 砕石 0.25~1.00m, 細砂 φ30~100mm程度の礫混入 コンクリートガラ混入	08/18 17:30	0	0	0	0	0			
2	4.85	1.40	シルト質細砂	シルト質細砂	rd3	暗灰			砂は粒子均一 下部含水中位 部分的にシルト多量混入	17	1	2	5	8				
3	4.45	1.80	礫混じり粗砂	礫混じり粗砂	rd3	暗灰			砂は細砂 細礫点在 底礫物点在	17	2	4	1	2				
4	4.25	2.00	砂混じりシルト	砂混じりシルト	rd3	暗灰			砂は粒子不均一 含水多い	17	3	1	1	2				
5	2.25	4.00	シルト混じり粗砂	シルト混じり粗砂	rd3	暗黄灰			砂は細砂 腐植物点在 2.35~2.45m, 粗砂を挟む	17	4	6	5	15	1-4	○	機粒含水	
6	1.50	4.75	砂混じりシルト	砂混じりシルト	rd3	暗灰			砂は粒子不均一 細礫点在 含水多い 4.00~4.15m, シルト質粗砂挟む	17	4	4	6	5	15	1-4	○	機粒含水
7	0.10	6.15	シルト混じり粗砂	シルト混じり粗砂	rd3	暗灰			砂は微細砂 腐植物点在	17	5	1	2	5				
8										17	6	8	10	24				
9										17	6	8	10	24				
10										17	7	5	6	3	14	1-7	○	機粒含水
11	-4.85	11.10	シルト質細砂	シルト質細砂	rd3	暗灰			砂は粒子不均一 細礫点在 含水多い 全体に若干漏水する 7m付近、細礫の混入多い 8m付近、シルトやや多く混入	17	7	8	9	24				
12										17	8	8	10	25				
13										17	8	8	10	25				
14	-7.80	14.05	礫混じり粗砂	礫混じり粗砂	rd4	暗灰			上部シルト分やや少ない 砂は粒子不均一 中砂混入 細礫点在 含水中位 粗砂をブロック状に挟む	17	11	4	4	3	11	1-12	○	機粒含水
15										17	12	4	3	11	1-12	○	機粒含水	
16	-9.90	16.15	シルト質細砂	シルト質細砂	rd4	暗灰			砂は粒子不均一 φ2~20mm程度の礫混入 含水中位	17	11	8	12	13	33			
17										17	12	4	3	11	1-16	○	機粒含水	
18										17	12	4	3	11	1-16	○	機粒含水	
19	-12.55	18.80	細砂	細砂	rd5	暗灰			砂は粒子概ね均一 細礫点在 含水中位 腐植物点在 18.05mより砂質シルトとシルト質細砂の互層状 微細砂をシーム状や薄層で挟む	17	16	4	5	7	16			
20	-13.55	19.80	礫混じり粗砂	礫混じり粗砂	rd4	暗灰			粒子概ね均一 細礫点在 部分的に多量に混入 含水中位	17	16	14	18	20	52	288		
	-14.20	20.45							φ2~20mm程度の礫混入 含水中位	17	19	11	13	12	36			





**共通事項**  
 特記なき、大梁の剛JOINT位置は、柱面から500とする。

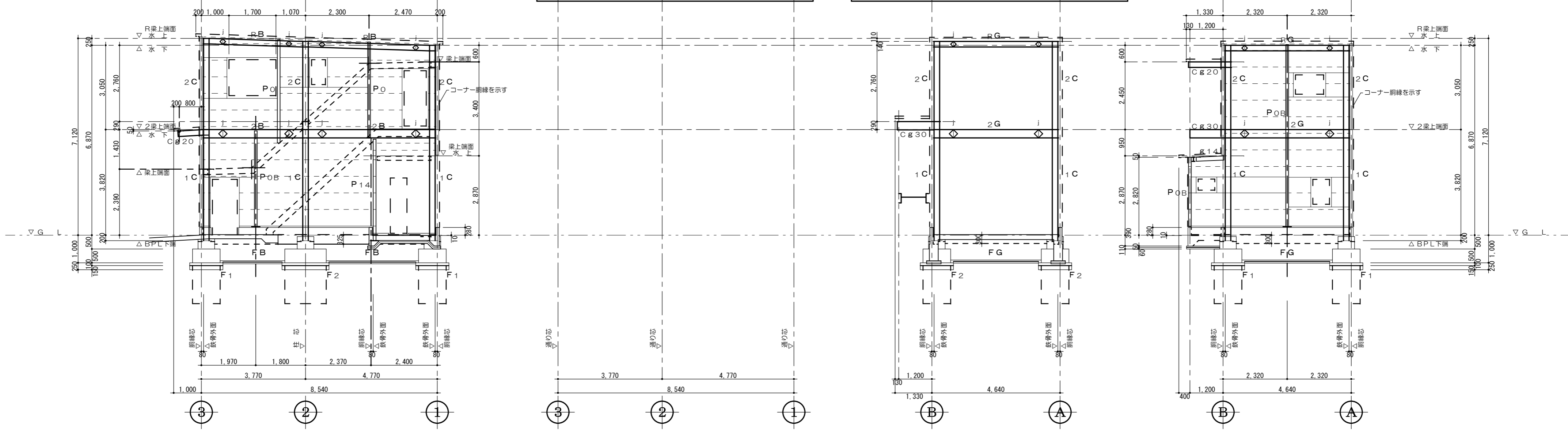


B-1200 通り軸組図 SC 1 : 100

A 通り軸組図 SC 1 : 100

3 通り軸組図 SC 1 : 100

2+2370 通り軸組図 SC 1 : 100



B 通り軸組図 SC 1 : 100

2 通り軸組図 SC 1 : 100

1 通り軸組図 SC 1 : 100



鉄骨部材リスト

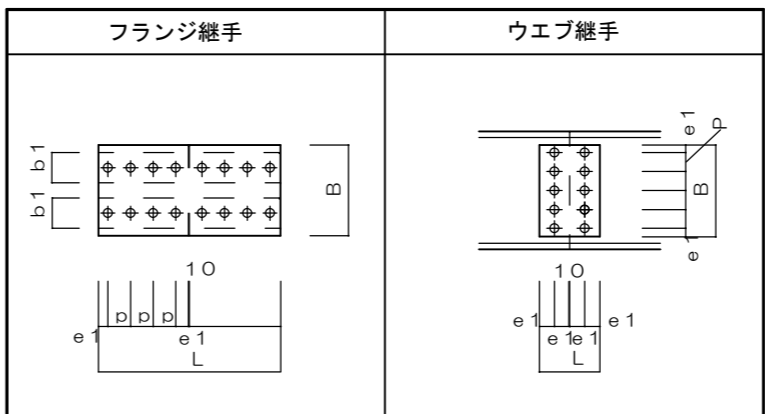
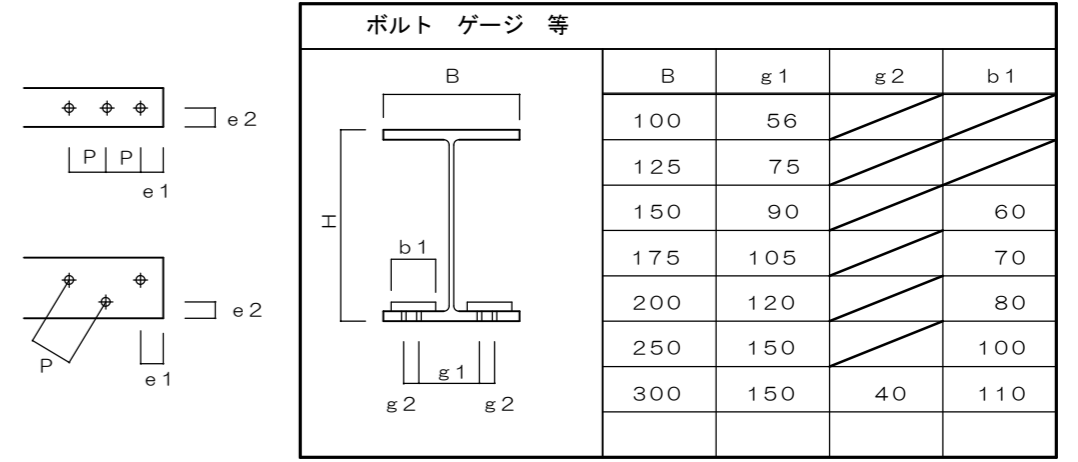
符号	断面寸法	フランジ		ウェブ		備考
		P	L	H	T	
RG・RB	H - 200 × 100 × 5 <sup>5</sup> × 8	1 - 16	4 - M16	2 - 6	2 - M16	ウェブ P = 60 ゲージ寸法 = 56
2G・2B	H - 300 × 150 × 6 <sup>5</sup> × 9	2 - 9	4 - M20	2 - 6	3 - M20	ウェブ P = 60
2C	□ - 200 × 200 × 6					
	最大 λ = 62.739					
1C	□ - 200 × 200 × 12	B: PL-25×400×400 (SN490C) A, BOLT 8-M22 (L=660) DN (ABR400)				定着板 PL-16×70×70
	最大 λ = 61.475			ザガネ PL-9×70×70		定着板・ザガネPL・・・SN400A
g15	H - 150 × 75 × 5 × 7			1 - 6	2 - M16	ウェブ P = 55
g14	H - 148 × 100 × 6 × 9			1 - 9	2 - M16	ウェブ P = 50
g17	H - 175 × 90 × 5 × 8			1 - 6	2 - M16	ウェブ P = 60
g20	H - 200 × 100 × 5 <sup>5</sup> × 8			1 - 6	2 - M16	ウェブ P = 80
g25	H - 250 × 125 × 6 × 9			1 - 9	3 - M16	ウェブ P = 60
Cg20	H - 200 × 100 × 5 <sup>5</sup> × 8					E W
Cg30	H - 300 × 150 × 6 <sup>5</sup> × 9					E W
P0	□ - 100 × 100 × 3 <sup>2</sup>	2PL-4 <sup>5</sup> : 中ボルト 2-M12 (ヌイツケ)				
P0B	□ - 100 × 100 × 3 <sup>2</sup>	2PL-4 <sup>5</sup> : 中ボルト 2-M12 (ヌイツケ)		B: PL-6×110×260 : A, BOLT 2-M16 (L=500) : ザガネPL-4 <sup>5</sup> ×60□		
P14	H - 148 × 100 × 6 × 9	TOP PL-9: 中ボルト 2-M16 (ルーズ孔)		B: PL-16×180×190: A, BOLT 2-M16 (L=500) : ザガネPL-4 <sup>5</sup> ×60□		
v	H - 150 × 75 × 5 × 7			1 - 6	2 - M16	ウェブ P = 55
横筋線	C - 100 × 50 × 20 × 2 <sup>3</sup> @600	L-100×75×7 (既製品ピース可) : 中ボルト 2-M12				
	開口際はC-100×50×20×3 <sup>2</sup> とする	建物出隅コーナー部は □-100×100×3 <sup>2</sup> とする				
SSBOX受け	上下 □-100×100×3 <sup>2</sup>	C-100×50×20×3 <sup>2</sup> @500 梯子加工				
ヤネブレース	M16 (T, B付)	G: PL-9 : HTB 1-M16				大梁上フランジ下端に配置
庇ブレース	M16 (T, B付)	G: PL-9 : HTB 1-M16				梁上フランジ下端に配置
下屋ヤネブレース	M16 (T, B付)	G: PL-9 : HTB 1-M16				梁上フランジ下端に配置
D: PL	QL99-50-12					設計・施工 標準図参照
天井吊り材	C - 100 × 50 × 20 × 2 <sup>3</sup> @900	PL-4 <sup>5</sup> : 中ボルト 2-M12				
階段	ササラ [- 250×90×9×13	段板 C, PL-6 (曲げ加工)				
特記事項	角パイプの端開口部は PL-3, 2 以上にて小口差ぎを行う事。 中ボルト使用部位には、スプリングワッシャーにて戻り止めを併用する事 (C型鋼の取り合いを除く)					

H型鋼 大梁 継手表

- 1 使用鋼材 SN400B
- 2 高力ボルト F10T or S10T
- 3 孔あけ加工は、ドリル加工法とする。

ボルト ノ ピッチ 端あき 縁あき (セン断、手動ガス切断)				
呼称	フランジピッチ P	最少端あき e1	最少縁あき e2	穴径
M16	60	40	28	18.0
M20	60	40	34	22.0
M22	60	40	38	24.0

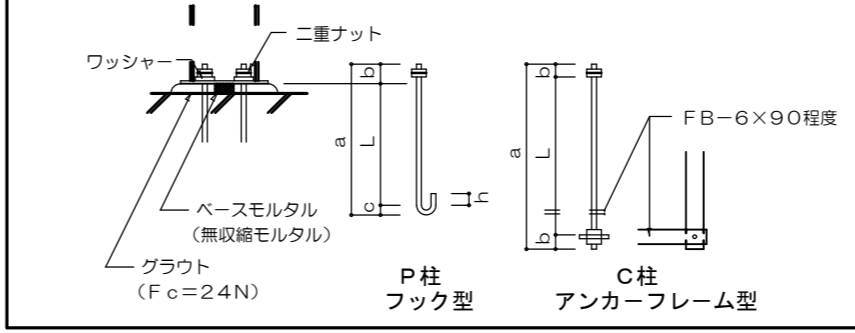
特記無きウェブPは、フランジPと同じとする。



アンカーボルトの規格

- 1) ベースプレート下面のモルタルは無収縮モルタルとし、これに接するコンクリートと同等以上の圧縮強度を持つものとする。
- 2) 構造図に記入なき限りアンカーボルトの導入強度は0.5t/cm<sup>2</sup>とし、トルクコントロール法によって締め付ける。
- 3) 座金及びナットとベースプレートとの溶接が必要な箇所は、メイン柱とする。

部位	材質	部位	材質
AB	SNR400B	AB	ABR400
定着板	フック対応	定着板	SS400

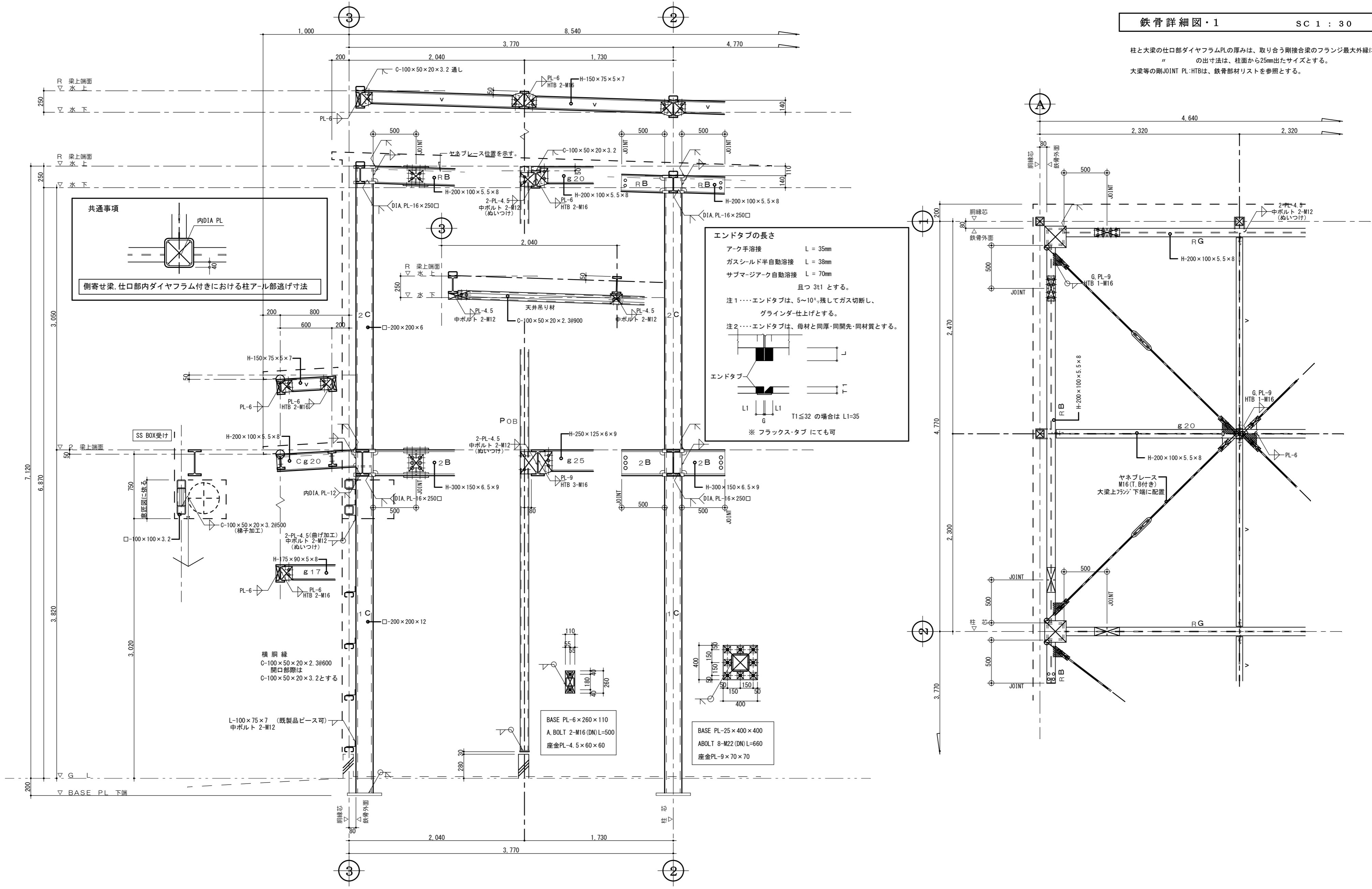


ボルト径	フック型					アンカーフレーム型			
	a	L	b	c	h	a	L	b	定着板
M16	605	500	65	40	65	630	500	65	9×50角
M20	730	600	80	50	80	760	600	80	12×60角
M22	805	660	90	55	90	840	660	90	12×70角
M24						910	720	95	16×75角
M27						1030	810	110	16×90角
M30						1140	900	120	16×100角
M33						1250	990	130	19×100角
M36						1370	1080	145	19×110角
M39						1480	1170	155	22×125角

L=30d



柱と大梁の仕口部ダイヤフラムPLの厚みは、取り合う剛接合梁のフランジ最大外縁に+6mm以上とする。  
 " " の出寸法は、柱面から25mm出たサイズとする。  
 大梁等の剛JOINT PL・HTBは、鉄骨部材リストを参照とする。



**共通事項**

側寄せ梁、仕口部内ダイヤフラム付きにおける柱アル部逃げ寸法

**エンドタブの長さ**

アーク手溶接	L = 35mm
ガスシールド半自動溶接	L = 38mm
サブマージアーク自動溶接	L = 70mm

且つ 3t1 とする。

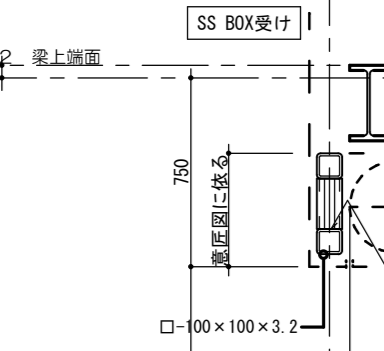
注1...エンドタブは、5~10% 残してガス切断し、グラインダー仕上げとする。

注2...エンドタブは、母材と同厚・同開先・同材質とする。

エンドタブ

L1 L1 G T1 ≤ 32 の場合は L1=35

※ フラックス・タブ にても可



横網線  
 C-100x50x20x2.3#600  
 開口部除くは  
 C-100x50x20x3.2とする

L-100x75x7 (既製品ピース可)  
 中ボルト 2-M12

BASE PL-6x260x110  
 A. BOLT 2-M16 (DN)L=500  
 座金 PL-4.5x60x60

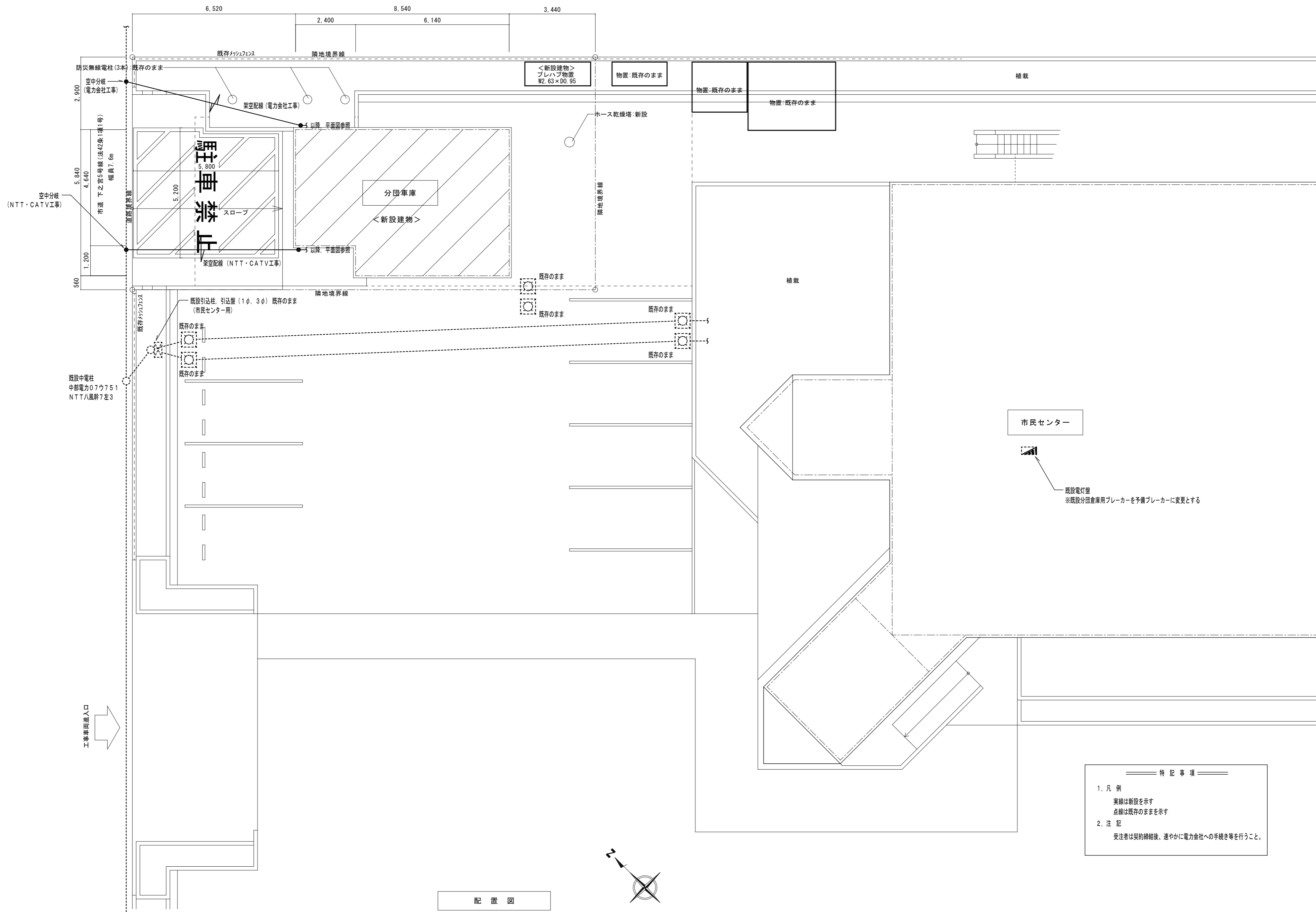
BASE PL-25x400x400  
 ABOLT 8-M22 (DN)L=660  
 座金 PL-9x70x70











市民センター

既設電灯盤  
※既設分団倉庫用プレーカーを予備プレーカーに変更とする

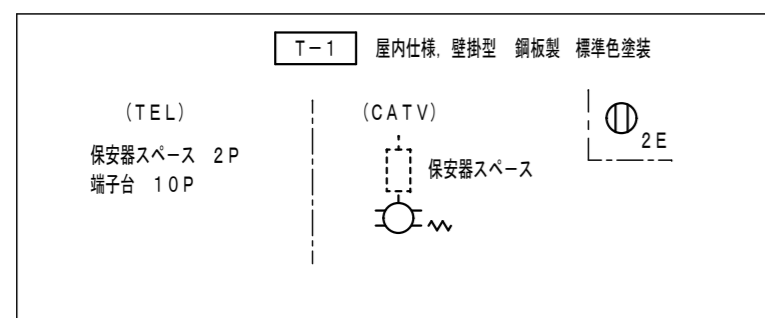
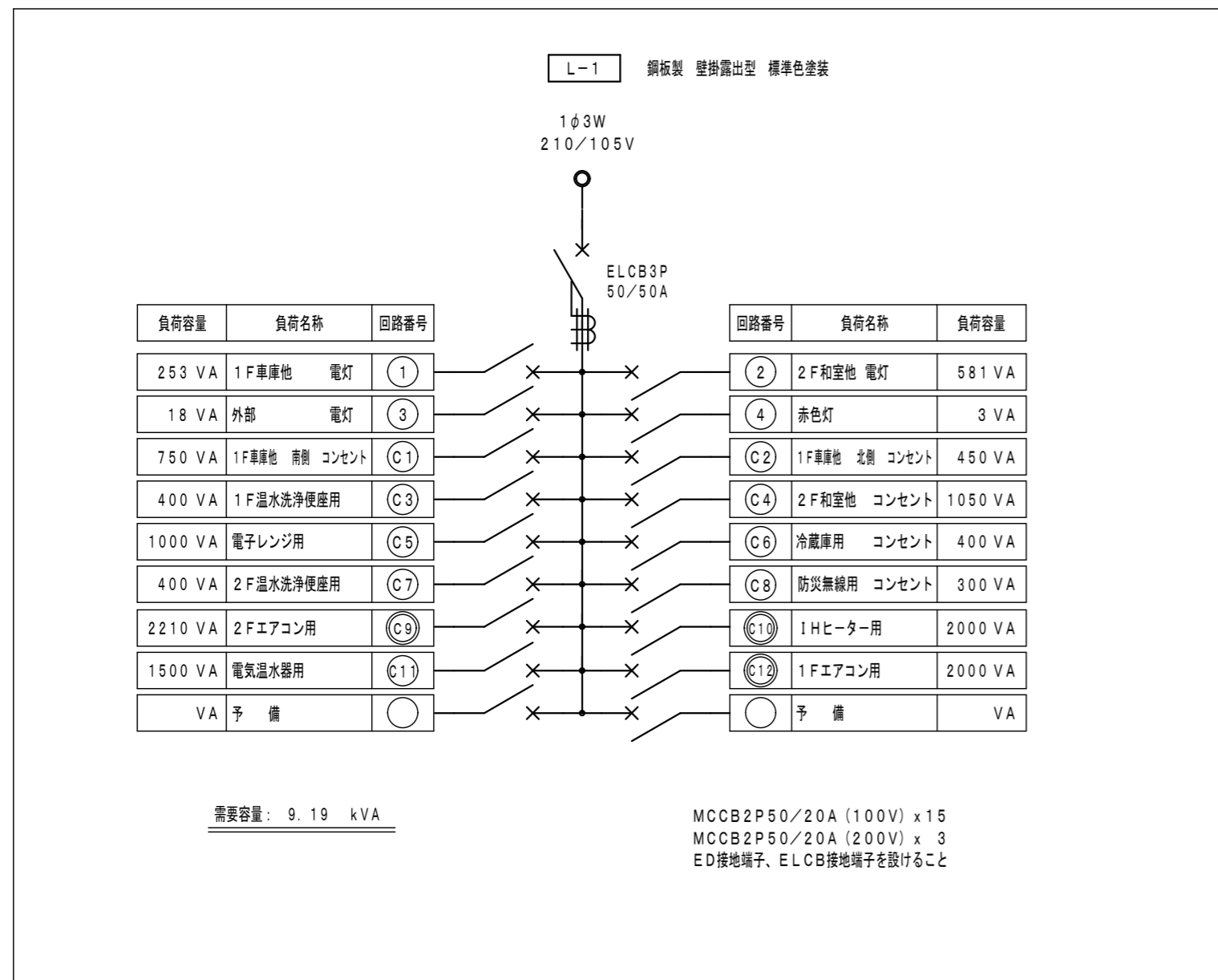
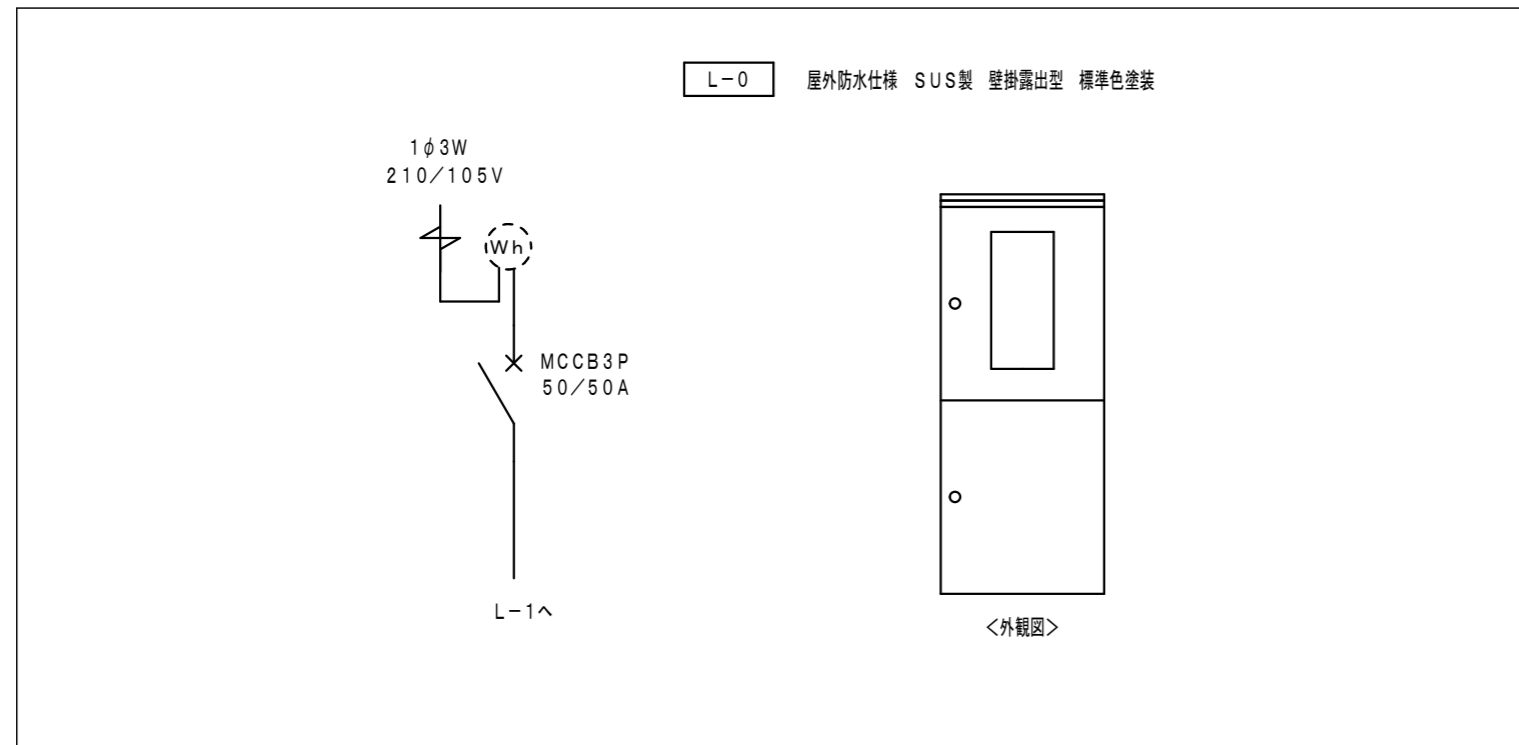
特記事項

1. 凡例  
実線は新設を示す  
点線は既存のままを示す

2. 注記  
受注者は契約締結後、速やかに電力会社への手続き等を行うこと。

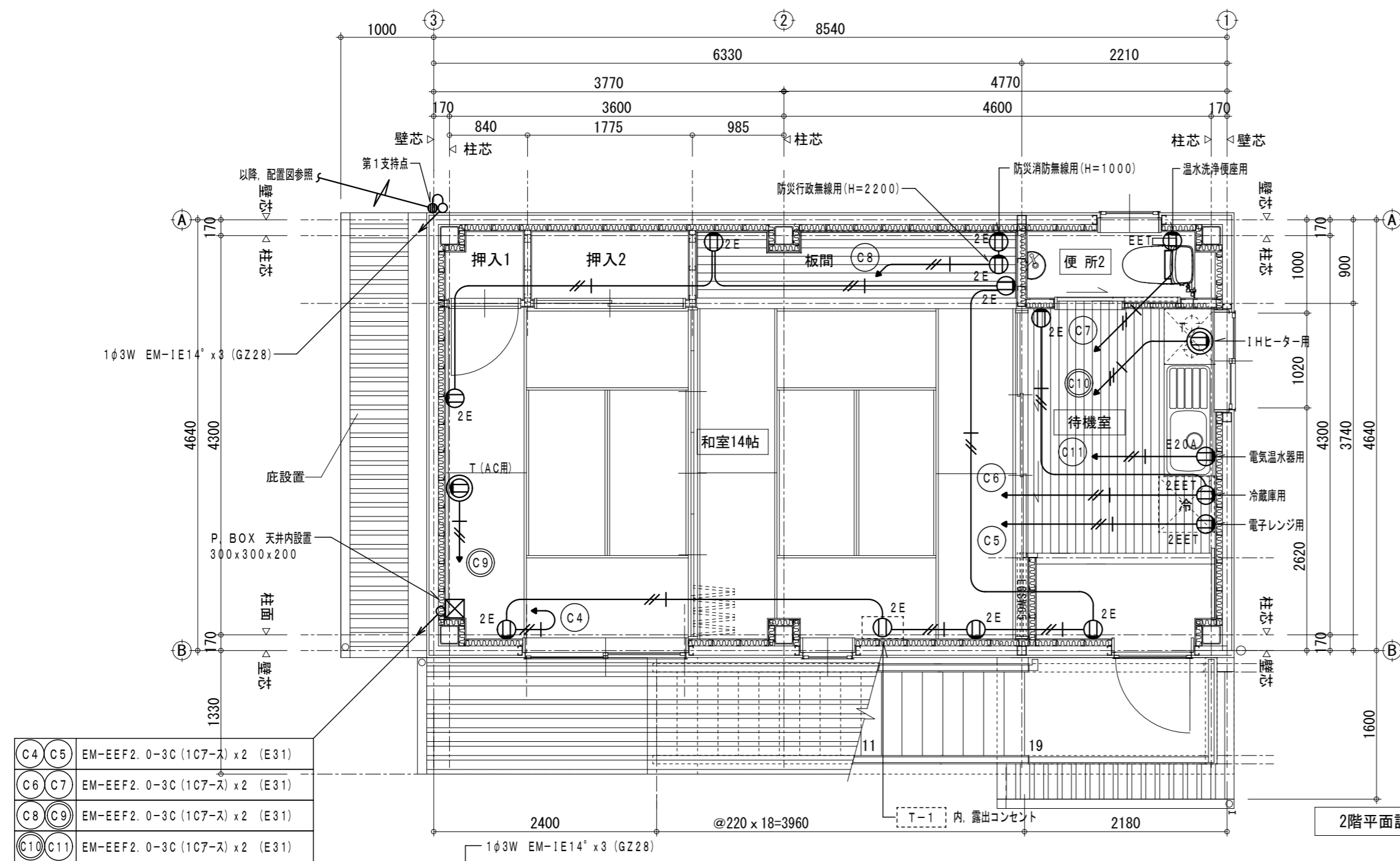
配置図

照明器具姿図



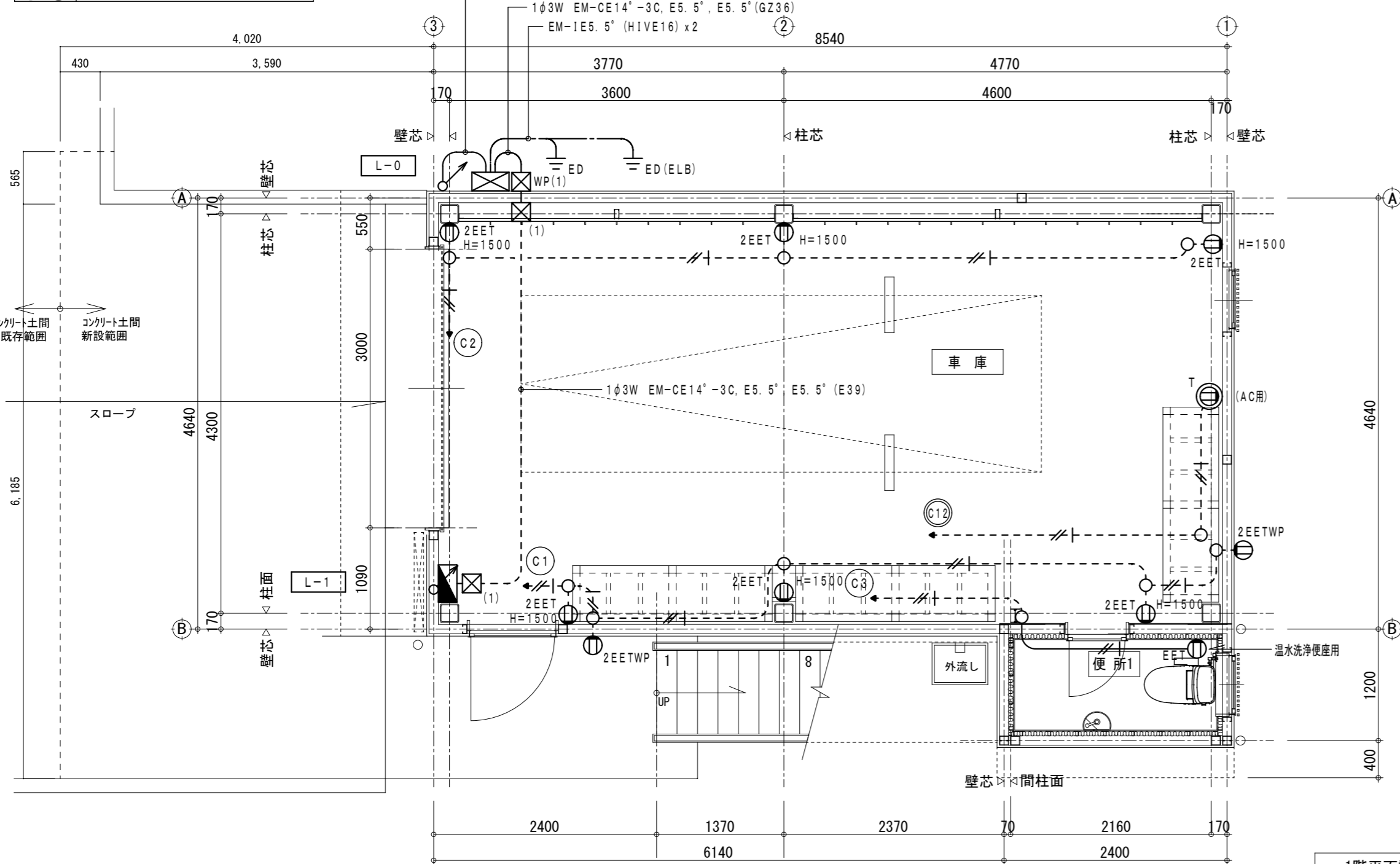
A	一体型LEDベースライト 直付 反射笠付 消費電力20.3W FHF32Wx1 高出力相当	B	一体型LEDベースライト 直付 消費電力43.1W FHF32Wx2 高出力相当	C	LEDダウンライト 消費電力4.2W 1L60W 相当
	<p>パナソニック 直付XFX430KEN LE9 相当品 東芝ライテック LEKT415323N-LS9 相当品 三菱電機 MY-H430430/N AHTN 相当品</p>	<p>LSS9-4-65</p>	<p>LRS1-05</p>		
D	LEDブラケット 防雨型 消費電力5.1W 人感センサー・明るさセンサー付	E	LEDスポットライト 防雨型 消費電力10.7W 人感センサー・明るさセンサー付 照射方向可動型 落下防止ワイヤー共	F	LED赤色灯 防雨型 消費電力2.2W
	<p>パナソニック LGWC85068Y 相当品 東芝ライテック LEDB88932Y+ランプLDA4L-H-E17/S/40W2 相当品 三菱電機 EL-V0300AL 1LN 相当品</p>	<p>パナソニック LGWC40116 相当品 東芝ライテック LEDS88901Y (S) M+ランプLDR12L-W/150W 相当品 三菱電機 EL-S0501L 1HN 相当品</p>	<p>パナソニック NNF20293Z 相当品 東芝ライテック LEDB-00902X 相当品</p>		





2階平面詳細図 S=1:50

○C4	○C5	EM-EEF2.0-3C (1C7-ス) x2 (E31)
○C6	○C7	EM-EEF2.0-3C (1C7-ス) x2 (E31)
○C8	○C9	EM-EEF2.0-3C (1C7-ス) x2 (E31)
○C10	○C11	EM-EEF2.0-3C (1C7-ス) x2 (E31)



1階平面詳細図 S=1:50

—— 特記事項 ——

1. 記入なき配管記号は下記とする

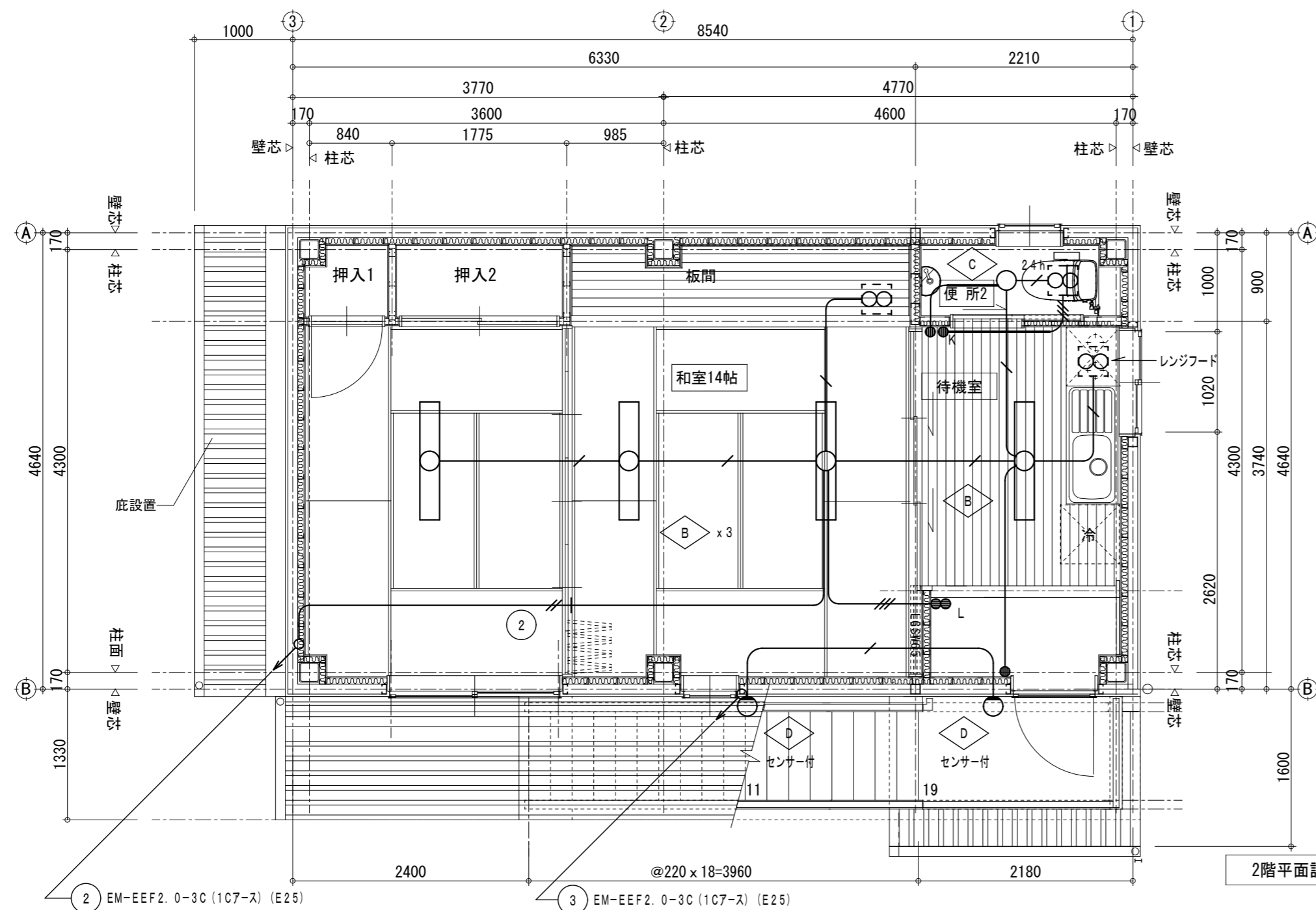
- 〃 —— EM-EEF2.0-3C (1C7-ス) (PF22) 隠蔽
- - - 〃 - - - EM-IE2.0x2, E2.0 (E19) 露出

※ 二重天井内はケーブルがしとする

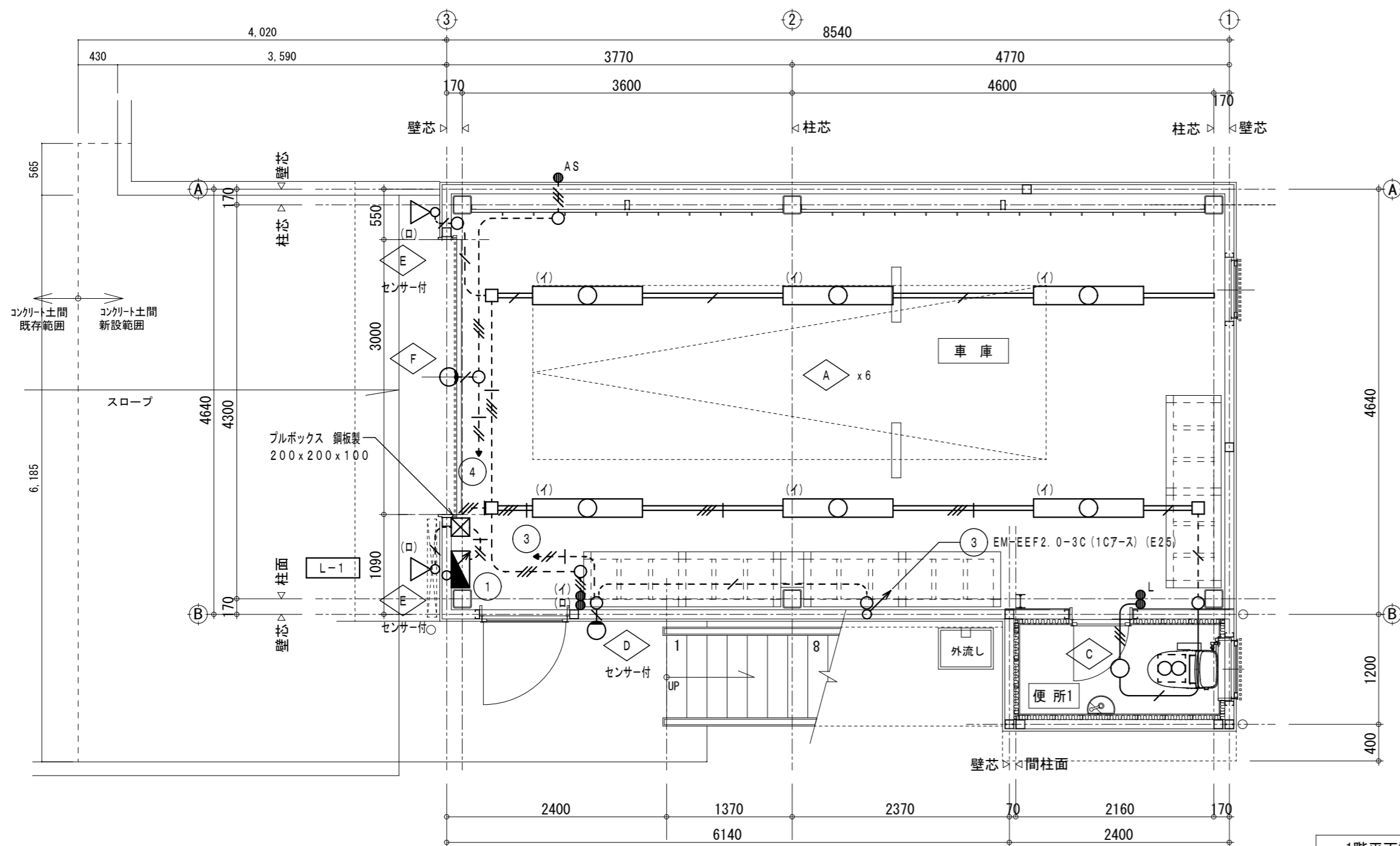
2. 凡例

- ⊙ 2E : 埋込コンセント 2P15A x2, E付
- ⊙ EET : 埋込コンセント 2P15A x1, E+ET付
- ⊙ 2EET : 埋込コンセント 2P15A x2, E+ET付
- ⊙ E20A : 埋込コンセント 2P20 x1, E付
- ⊙ 2EETWP : 防水コンセント 2P15A x2, E+ET付
- ⊙ T : 埋込コンセント T型 2P15A・20A兼用, E付 (200V用)
- ⊠ (1) : プルボックス SS製 塗装共 300x300x200
- ⊠ WP (1) : 防水プルボックス SUS製 300x300x200
- (1) : 丸型露出ボックス





2階平面詳細図 S=1:50



1階平面詳細図 S=1:50

—— 特記事項 ——

1. 記入なき配管記線は下記とする

	EM-EEF2.0-3C (1C7-S) (PF22)
	EM-EEF1.6-2C (PF16)
	EM-EEF1.6-3C (PF22)
	EM-EEF1.6-3C (1C7-S) (PF22)
	EM-IE2.0x2, E2.0 (E19)
	EM-IE1.6x2, E1.6 (E19)
	EM-IE1.6x3 (E19)
	EM-IE1.6x3, E1.6 (E25)
	EM-IE1.6x2, E1.6 (レスウェイ)
	EM-IE1.6x3, E1.6 (レスウェイ)

※ 二重天井内はケーブルころがしとする

2. 凡例

	埋込スイッチ 1P15Ax1
	埋込スイッチ 1P15Ax2
	埋込スイッチ 1P15Ax1+Lx1
	24h換気扇スイッチ 機械設備工事より支給品取付
	自動点滅器 防水型 点灯照度調整型
	レースウェイボックス
	丸型露出ボックス

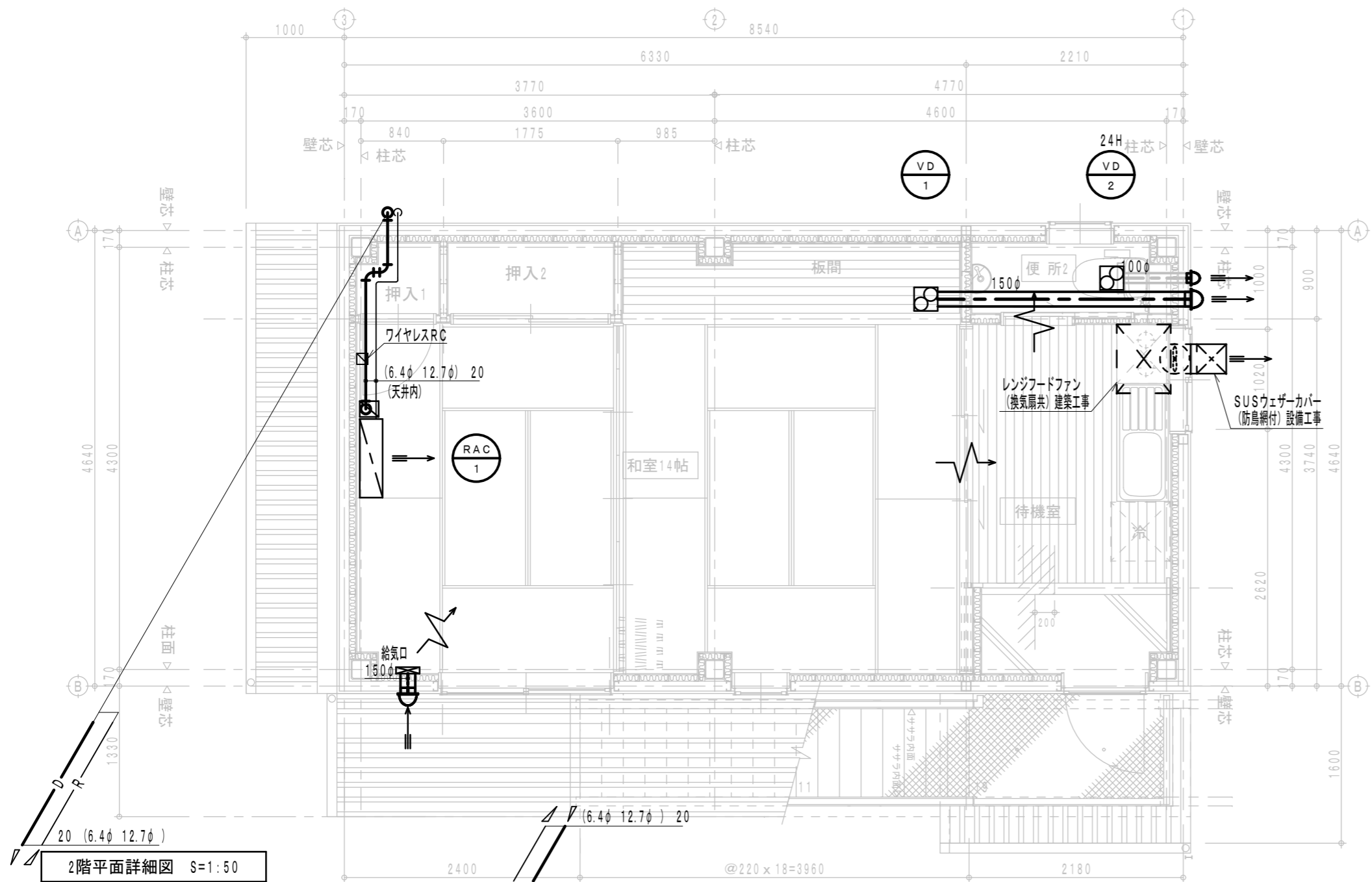
3. レースウェイには振止め支持を行うこと



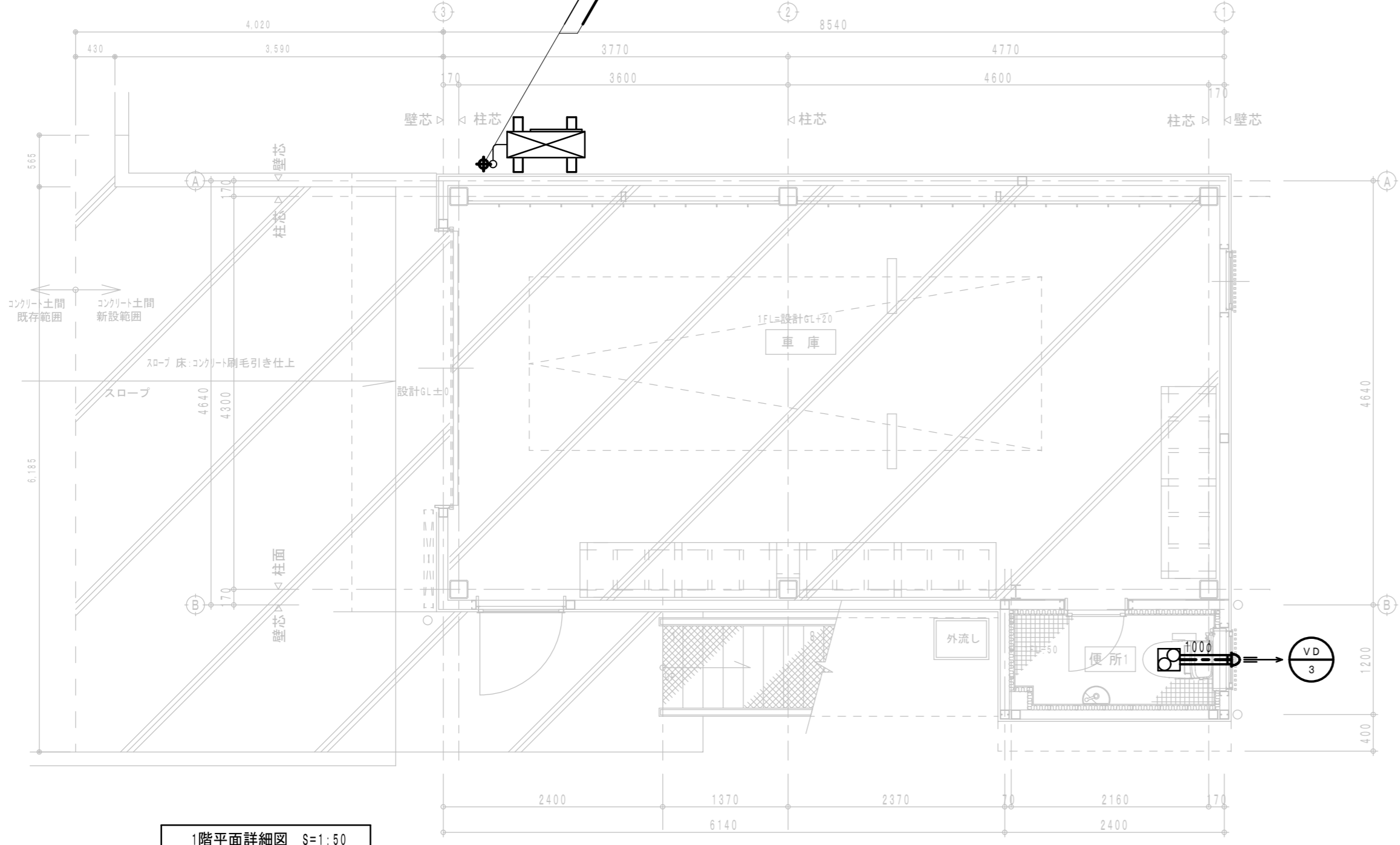








2階平面詳細図 S=1:50



1階平面詳細図 S=1:50

- ※1) 冷房能力以外の数値は参考とする。
- ※2) グリーン購入法適合品とする。
- ※3) 屋外機は転倒防止策を施す。
- ※4) 冷房能力・暖房能力はJIS条件による。
- ※5) ルームエアコンの屋内・屋外ユニット間の電気配線は (EM-EEF2.0-3C) アース共とする。
- ※6) 室内外連絡線は冷媒管共巻とする。

空調設備機器表

記号	機器名	仕様	数量
RAC-1	空冷ヒートポンプ式ルームエアコン	(壁掛型)	1
		冷房能力	7.1kW (0.3~7.3) kW
		暖房能力	8.5kW (0.4~12.2) kW
		消費電力	(C) 2210W, (H) 2020W (1φ×200V)
		圧縮機	1900W
		付属品	ワイヤレスリモコン (ホルダー共), ドレンアップキット (配管スパーサー付)
		架台	既製コンクリート基礎 400L×2本 (防振ゴム敷設)
VD-1	天井ダクト扇	(低騒音型) インテリアタイプ (金属ボディ, プラスチックグリル) 深型SUSベントキャップ (ガラリ付) 共	1
		150φ×350CMH×60PA×82W×1φ×100V	
VD-2	天井ダクト扇 (24時間換気)	(低騒音型) (金属ボディ, プラスチックグリル) 深型SUSベントキャップ (ガラリ付) 共	1
		100φ×70CMH×30PA×9.3W×1φ×100V 24H換気スイッチは電気工事へ支給	
VD-3	天井ダクト扇	(低騒音型) (金属ボディ, プラスチックグリル) 深型SUSベントキャップ (ガラリ付) 共	1
		100φ×70CMH×30PA×9.3W×1φ×100V	
F-1	レンジフード ※建築工事	レンジフード キッチン附属品 650m <sup>3</sup> /h 10Pa	1
		SUSウエザーカバー (25cm用・防鳥網付) は本工事、他一式共	
	給気口	樹脂製給排気グリル (フィルター付) 開閉可 + 150φ 防虫網付深型SUSベントキャップ共 (風量調整機能付)	1

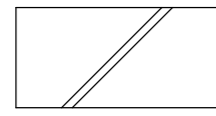
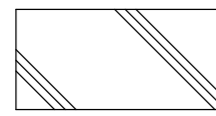

必要換気量の計算 (建築基準法28条2に基づきシックハウス対策)

階	部 屋 名	面積 (m <sup>2</sup> )	平均天井高 (m)	容積 (m <sup>3</sup> )	必要換気回数 (回/h)	必要換気量 (m <sup>3</sup> /h)
2	和室14帖	26.86	2.4	64.464		
	待機室	8.27	2.6	21.502		
	便所2	1.99	2.4	4.776		
	計			[90.742]	0.3	27.23

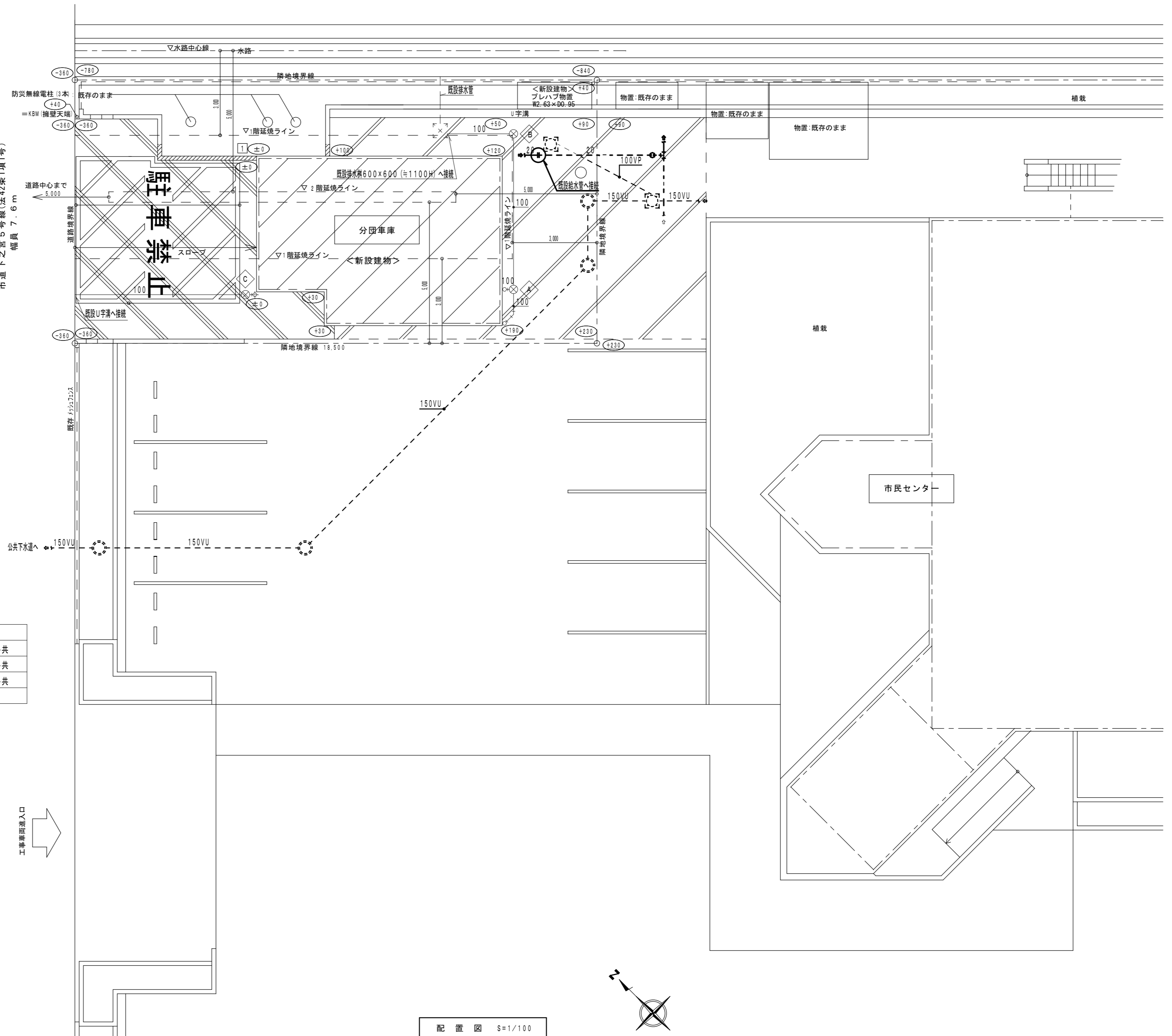
1) ダクト計算 (直管相当長による方法)

換気種別	相当長 (m)	換気種別及び換気機器の能力
直管 (100φ)	0.7	換気種別 第3種換気 (参考) VD-102J14
曲管直管相当長 (100φ)	-	換気機器名 天井扇 (VD-2)
SUS深型フード (100φ)	5.0	換気能力 (10m相当時) 85m <sup>3</sup> /h
P-13VS4 (100φ) 三菱電機		必要換気量 27.23m <sup>3</sup> /h
合計	5.7	85≧27.23
∴	1.0	∴ 判定 OK

凡例

-  密粒度アスファルト舗装 t=50 新設  
砕石 t=150 共
-  土間コンクリート刷毛引き仕上
-  数値：地盤高低差を示す

市道下之宮5号線(法42条1項1号)  
幅員 7.6m

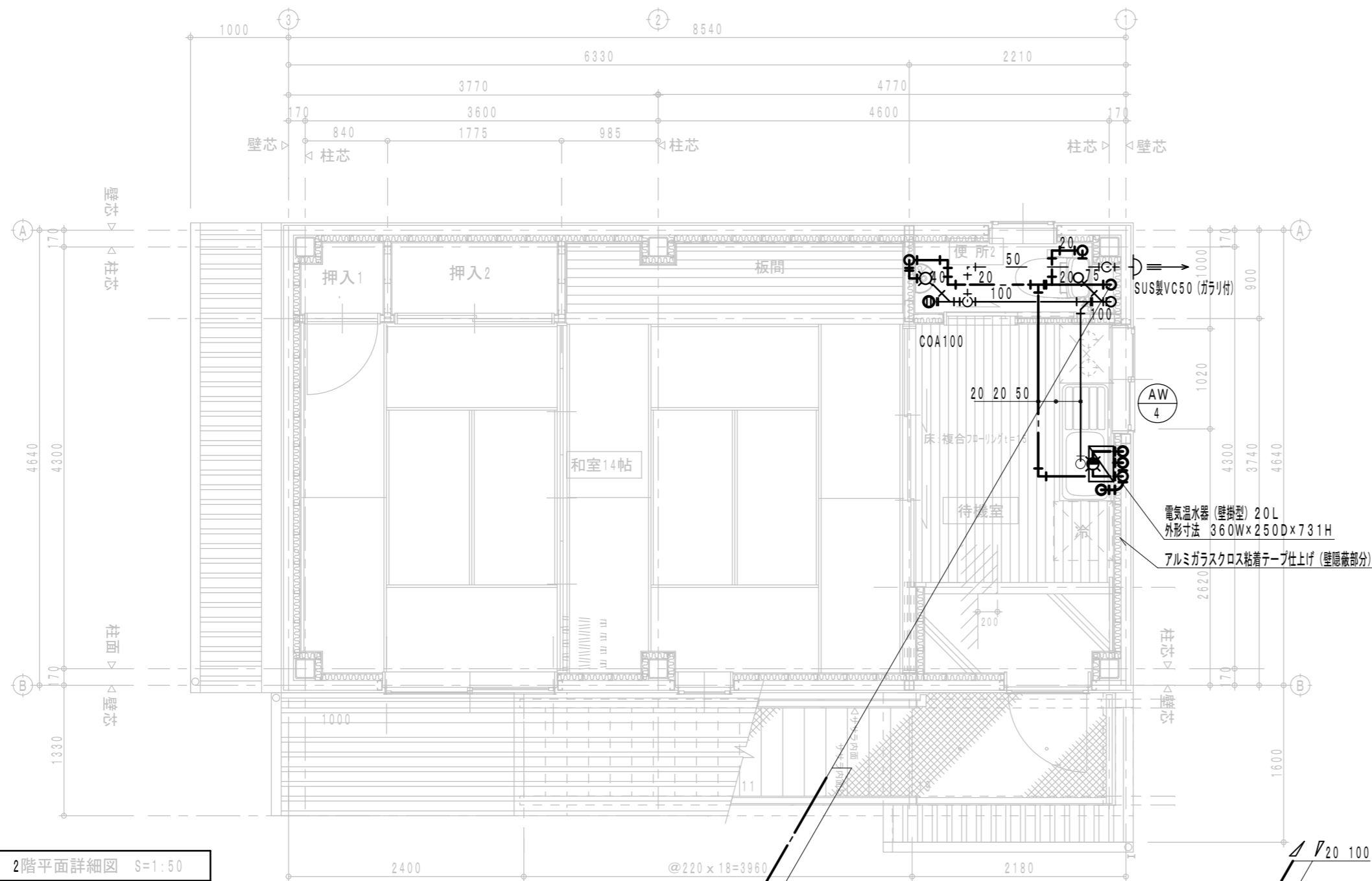


雨水樹リスト

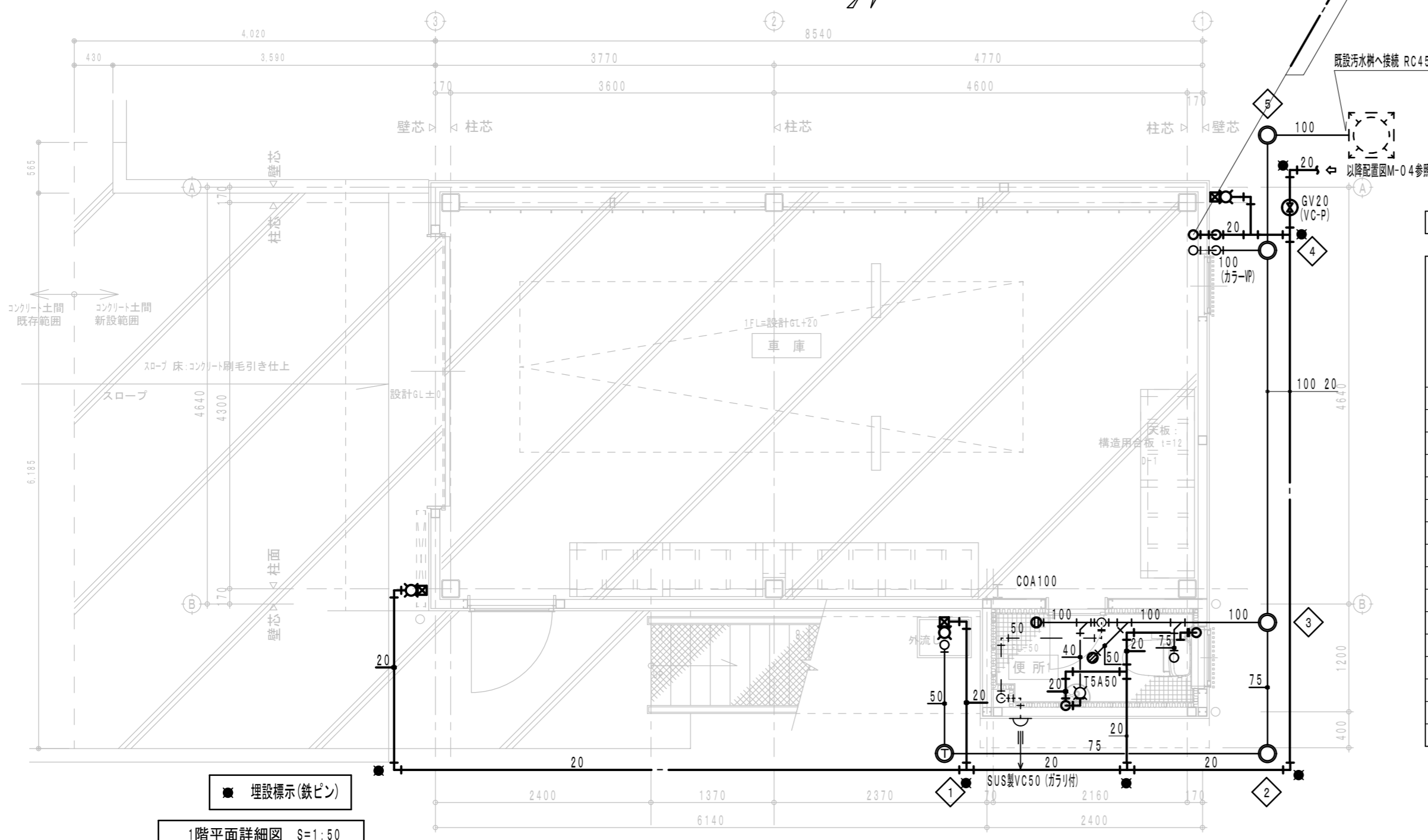
記号	名称	種別	基準地盤管底	備考
A	雨水樹	小口径塩ビ樹 90Y100-200	-300	泥溜バケツ共
B	雨水樹	小口径塩ビ樹 90L100-200	-360	泥溜バケツ共
C	雨水樹	小口径塩ビ樹 ST 100-200	-200	泥溜バケツ共

配置図 S=1/100





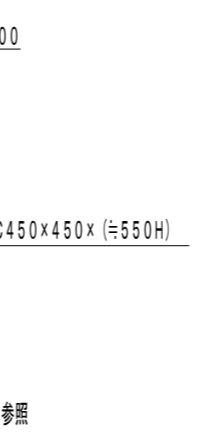
2階平面詳細図 S=1:50



1階平面詳細図 S=1:50

注意事項 1) 排水管の勾配は標準仕様書による。  
2) 樹深さは参考数値とする。  
3) 基準地盤は樹番号1を基準とする。

記号	名称	種別	基準地盤管底	備考
1	雑排水樹 (トラップ)	小口径塩ビ樹90L 75-200	-300	樹脂製蓋共
2	汚水樹	小口径塩ビ樹90L100-200	-350	樹脂製蓋共
3	汚水樹	小口径塩ビ樹90Y100-200	-380	樹脂製蓋共
4	汚水樹	小口径塩ビ樹90Y100-200	-430	樹脂製蓋共
5	汚水樹	小口径塩ビ樹90L100-200	-450	樹脂製蓋共



衛生設備器具表

器具名称	(参考) (TOTO)	(参考) (LIXIL)	付属品仕様	合 計	
				1階	2階
腰掛便器	CS232B	BC-Z30S	防震タンク (手洗い無し・蓋固定・陶器製) , セット金具一式	1	1
紙巻器	TCF587	CW-KB31A	温水洗浄便座 (貯湯式)	1	1
コンパクト手洗器	LSL570APR	AWL-71UA (P)	ハンドル式単水栓, 壁給水, Sトラップ, セット金具一式	1	1
吐水口回転形横水栓	T200CSNR13	LF-7RG-13	キー式	2	2
水栓柱			SUS製角型, 70×70×1200H	3	3
地流し			樹脂製パン, W=550, ゴム栓付	1	1
壁掛型電気温水器	REDJ20A12RS35D	EHPN-KWA20ECV1	先止め式, 貯湯量20L, アンクル型止水栓 (フィルター付), 連結管 (水) (湯), 水栓取付脚 (水) (湯), ウィークリータイマー, 排水パイプ AC100タイプ, 熱湯用シングル混合水栓, セット品一式共	1	1

大矢知分団車庫改築工事										
<p>総 則</p> <p>工 事 概 要</p> <p>1. 工事場所 四日市市 下さざらい町 地内</p> <p>2. 工事種目 解体工事</p> <p>1. 共通仕様 (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説(令和4年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。 2. 特記仕様 (1) 項目は、○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。 ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ◎印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。 (3) 特記事項に記載の[ . . . ] 内表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 特記事項に記載の( 標 . . . ) 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>部 分 完 成 ・無 ・有 ( )</p> <p>部 分 引 渡 し ・無 ・有 ( )</p> <p>1) 保 険 及 び 保 証 ・請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出) ( ・管理財物担保特約に加入のこと)</p> <p>2) 建 設 共 済 等 ・任意にて加入 下記の制度について加入すること。 ・法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出) ・建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。 共済証紙購入額：請負金額の 0.8/1000以上 なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする ・任意にて加入 ※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項 資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。</p>		<p>5 施工中の安全確保</p> <p>6 発生材の処理等</p> <p>7 石綿含有建材の調査</p> <p>8 施工体制台帳の提出</p> <p>9 資源有効利用促進</p>		<p>・工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担(道路占用許可申請における占用料は除く)とする。 ・仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ・工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ・資機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ・大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ・足場を60日以上設置する場合は、着手の30日前までに、設置届を所管官庁へ提出すること。 ・道路の汚損がないように努めると共に、汚損した場合は直ちに清掃を行うこと。 ・既設構造物を汚損した場合は、受注者負担にて補修等を行うこと。 ・工事により発生する残土や廃材、汚泥等は適切処理を行うこと。また、釜場を設け、敷地外への泥水の流出を防止すること。 ・振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を行うこと。 ・音の発生する工事は昼間の作業とし、早朝、夕方以降は作業を行わないこと。また、低騒音の建設重機を使用し周辺への影響に配慮すること。 ・工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。 ・2026/ / ~ / は工事を行わないこと。 ・解体中は必ず散水を行い、埃の飛散に注意して施工すること。また強風時は施工を行わないこと。</p> <p>交通誘導員 ※配置する 1名以上(大型車の出入は必ず) ・配置しない [1.3.6] ・交通誘導警備員A ※交通誘導警備員B</p> <p>・引渡しを要するもの( ) [1.3.10] ・工事現場において再利用及び再資源化を図るもの( ) ・特定建設資材の搬出 再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減) ・特定建設資材以外の搬出 ・構外搬出適正処理 ※廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。 ※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告(位置図等)を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。</p> <p>事前調査(有資格者) ※行う ・行わない [1.4.1] 調査結果報告書の貸与 ・有 ・無 分析調査 ・行う(対象箇所: ) ※行わない ※定性分析 ・定量分析 ※分析調査は「建材中の石綿含有率の分析方法について(令和3年12月22日改正)」に基づき行う。 ※現地調査を行い、事前調査結果報告書を作成し、提出する。 調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督職員と協議する。 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、警備業者についても記載すべき下請負人の範囲に含むものとする。 ※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律(平成三年法律第四十八号)の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合(下記内容該当工事)は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。 ・建設副産物を搬出する際の計画 1. 土砂500m3以上 2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上 ・再生資材を利用する際の計画 1. 土砂500m3以上 2. 砕石500t以上 3. 加熱アスファルト200t以上</p>		<p>3 章 解体施工</p> <p>1 杭 杭の解体 ・行う ・行わない [3.9.2] ・引抜き工法 ・破碎工法 2 構内舗装、樹木等 ・樹木等の伐採 ・行う ・行わない [3.11.1] ・樹木等の伐採抜根 ・行う ・行わない ・樹木等の移植 ・行う ・行わない ※ 対象樹木等は図示による。 地下埋設物及び埋設配管等の解体 ◎行う ・行わない [3.12.1] ◎埋戻し、盛土及び整地 ◎行わない [3.13.1]</p> <p>4 章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等 中間処理施設( 廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設 ) [4.4.1] 再資源化施設( 同上 ) ※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減) 水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ◎行わない 硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ◎行わない ガラス ・行う ◎行わない 木材の縮減 ・行う ◎行わない 現場での利用 ・行う ◎行わない</p> <p>2 産業廃棄物 広域認定制度 産業廃棄物の広域的処理 ・行う ・行わない [4.4.2]</p> <p>③最終処分 最終処分(引渡しを受ける物及び再資源化を行うもの以外の物) ( ) [4.4.3] 最終処分場( 廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設 ) ・ C C A 処理木材 [4.5.1] ・ ひ素・カドミウム含有石膏ボード ・ 上記以外の石膏ボード ・最終処分 ・再資源化</p> <p>⑤廃棄物管理票 ※ 廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。</p>				
章	項 目	特 記 事 項								
1 章 一般共通事項	1 工事実績情報の登録	※請負金額が 500万円以上の場合、登録を行う。 [1.1.4] ※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うように努めること。		8 施工体制台帳の提出				5 章 特別管理産業廃棄物の処理		
	2 工事の記録	※工事写真については以下による。(編集工程写真はA4版程度) [1.2.3] ※工事着工前 1部 ※工程写真 各工程毎に編集の上提出 1部 ※竣工写真 2部 ※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うように努めること。		9 資源有効利用促進				1 施工計画調査 2 特別管理産業廃棄物の処理等		
	3 電気保安技術者	・適用する ・適用しない [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。						特別管理産業廃棄物の分析調査 ・行う ・行わない [5.1.2] 特別管理産業廃棄物の処理等 ・行う ・行わない [5.4.1] P C B を含む機器類 微量 P C B の分析調査 ・行う ・行わない P C B 含有シーリング材 分析調査及び撤去 ・行う ・行わない 廃油 ・焼却処分 ・中間処理施設での再生処理 廃酸・廃アルカリ ・中和処理 ・焼却処分 ・中間処理施設での再生処理 ダイオキシン類 サンプリング調査 ・行う ・行わない		
	4-1 週休2日制工事	「四日市市週休2日制工事実施要領(営繕工事)」(令和7年12月9日改正)に基づく適用は下記による。 ※土日完全週休2日制工事(発注者指定型(月単位)) ・土日完全週休2日制工事(受注者希望型(通期)) ・週休2日制対象外工事 ( ・工事の実働日数が30日未満の工事 ・現場閉所困難な工事 ) 土日完全週休2日制工事の現場閉所日については下記による。 ※土日閉所 ・( ) 工事は土日作業とする。 ・令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日は土日作業とする。 ・土白以外閉所 ※土日以外閉所における現場閉所日は、着手前に監督職員と協議の上設定すること。 なお、現場閉所日については、原則として毎週連続する同一の曜日とすること。						①一般事項 労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針(建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等ばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針)を遵守すること。 ◎アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。		
4-2 施工条件	[1.3.5] ・週休2日制対象外工事の現場閉所日については下記による。 ※土日閉所 ・土白以外閉所 ・現場閉所日、祝日、夜間に作業を行う場合は、事前に「休日及び夜間工事承諾願」を提出し、監督職員の承諾を得ること。 ・工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ・施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。		2 章 仮設工事		①騒音・粉じん等の対策 ◎騒音、粉じん等の対策 [2.2.1] ※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。 ◎ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。 ・メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。 なお、シート類は防災処理されたものとする。 ※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲 ※ 図示による。 ※ プレーカー、穿孔機、圧砕機等による粉じん発生部には、常時散水を行うこと。 ・設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ◎設けない [2.3.1] 構内既存の施設 ・利用できる( ・有償 ・無償) ◎利用できない 構内既存の施設 ◎利用できる( ◎有償 ・無償) ・利用できない				6 章 石綿含有建材の除去及び処理	
				※提出書類はA4版とする				②施工調査 分析による調査 ・行う ◎行わない ※書面調査及び現地調査の調査結果を監督職員に提出すること。		
				※産業廃棄物税 本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が本工事により生じた産業廃棄物が、課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求することができる。				工事名 大矢知分団車庫改築工事		
						四日市市都市整備部営繕工務課		日付		
						一級建築士 登録 第 号		図面名		
						四日市市諏訪町1番5号		縮尺		
								図面番号		
								K-01		
								令和8年4月		
								特記仕様書(解体1)		
								—		
								令和8年3月版		

③ 石綿含有吹付け材の除去	<p>石綿含有吹付け材の有無 ・有 ○無 [6.3.1]</p> <p>除去吹付け材（ ）含有場所（ ）</p> <p>吹付け材の施工数量調査 ※行う</p> <p>石綿粉じん濃度測定 ※行う [6.1.3]</p>																																																																		
	<p>表6.4 石綿粉じん濃度測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定名称</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">処理作業前</td> <td>測定1</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点又は3点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td>施行区画周辺又は、敷地境界</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">処理作業中</td> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点又は3点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td>出入口</td> <td>1点</td> <td>空気の流れを確認</td> </tr> <tr> <td>測定5</td> <td>集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> <td>1点</td> <td>(注)2</td> </tr> <tr> <td>測定6</td> <td>施行区画周辺又は、敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">処理作業後 (隔離シート撤去前)</td> <td>測定7</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点又は3点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>施行区画周辺又は、敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td>大気</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。</p> <p>(注)2. 集じん・排気装置の性能確認</p> <p>石綿粉じん濃度測定方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定3</th> <th>測定1, 2, 4, 6, 7, 8</th> <th>測定5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数機器</td> <td>位相差顕微鏡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メンブレンフィルタの直径</td> <td>25mm</td> <td>47mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1l/min</td> <td>5l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5 min</td> <td>120 min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td>アセトノートリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td>総アスベスト繊維数</td> <td>200本又は視野数50視野</td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td>直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ×直径比3:1以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>50 f/l</td> <td>0.3 f/l</td> </tr> </tbody> </table> <p>作業場の隔離等 ※行う [6.3.1]</p> <p>除去工法 [6.3.2]</p> <p>※除去工法については、工法に関する資料を監督職員に提出し、承諾を得ること。</p> <p>処分方法 [6.3.3]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。</li> <li>中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。</li> </ul>	測定時期	測定名称	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考	処理作業前	測定1	処理作業室内	各2点又は3点	(注)1	測定2	施行区画周辺又は、敷地境界	計2点	大気	処理作業中	測定3	処理作業室内	各2点又は3点	(注)1	測定4	出入口	1点	空気の流れを確認	測定5	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	1点	(注)2	測定6	施行区画周辺又は、敷地境界	4方向各1点	—	処理作業後 (隔離シート撤去前)	測定7	処理作業室内	各2点又は3点	(注)1	測定8	施行区画周辺又は、敷地境界	4方向各1点	大気	測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5	計数機器	位相差顕微鏡		メンブレンフィルタの直径	25mm	47mm	試料の吸引流量	1l/min	5l/min	試料の吸引時間	5 min	120 min	試料の透明化	アセトノートリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法		計数条件	総アスベスト繊維数	200本又は視野数50視野	計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ×直径比3:1以上		定量限界	50 f/l
測定時期	測定名称	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考																																																															
処理作業前	測定1	処理作業室内	各2点又は3点	(注)1																																																															
	測定2	施行区画周辺又は、敷地境界	計2点	大気																																																															
処理作業中	測定3	処理作業室内	各2点又は3点	(注)1																																																															
	測定4	出入口	1点	空気の流れを確認																																																															
	測定5	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	1点	(注)2																																																															
	測定6	施行区画周辺又は、敷地境界	4方向各1点	—																																																															
処理作業後 (隔離シート撤去前)	測定7	処理作業室内	各2点又は3点	(注)1																																																															
	測定8	施行区画周辺又は、敷地境界	4方向各1点	大気																																																															
測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5																																																																	
計数機器	位相差顕微鏡																																																																		
メンブレンフィルタの直径	25mm	47mm																																																																	
試料の吸引流量	1l/min	5l/min																																																																	
試料の吸引時間	5 min	120 min																																																																	
試料の透明化	アセトノートリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法																																																																		
計数条件	総アスベスト繊維数	200本又は視野数50視野																																																																	
計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ×直径比3:1以上																																																																		
定量限界	50 f/l	0.3 f/l																																																																	
④ アスベスト含有仕上塗材の除去	<p>アスベスト含有仕上塗材の除去(除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等)については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。</p> <p>アスベスト含有仕上塗材の有無 ・有 ○無</p> <p>除去仕上塗材（ ）含有場所（ ）</p> <p>撤去の範囲 ・全面撤去 ・図示による</p> <p>除去工法（原則湿潤化し、下記工法とする）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水洗い工法 ・手工具ケレン工法</li> <li>集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法</li> <li>剥離材併用高圧水洗工法 ・剥離材併用超高圧水洗工法 ・剥離材併用手工具ケレン工法</li> <li>剥離材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法</li> </ul> <p>上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。</p> <p>除去工法の試験施工 ・行う ※行わない</p> <p>作業場の隔離及び養生</p> <p>「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>隔離養生不要 ・隔離養生必要(負圧不要)・その他（ ）</li> </ul> <p>処分方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。</li> <li>中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う</li> </ul>																																																																		
⑤ 石綿含有保温材等の除去	<p>石綿含有保温材の有無 ・有 ○無 [6.4.1]</p> <p>除去保温材（ ）含有場所（ ）</p> <p>作業場の区画 ・行う ○行わない</p> <p>処分方法 [6.4.3]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。</li> <li>中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。</li> </ul>																																																																		

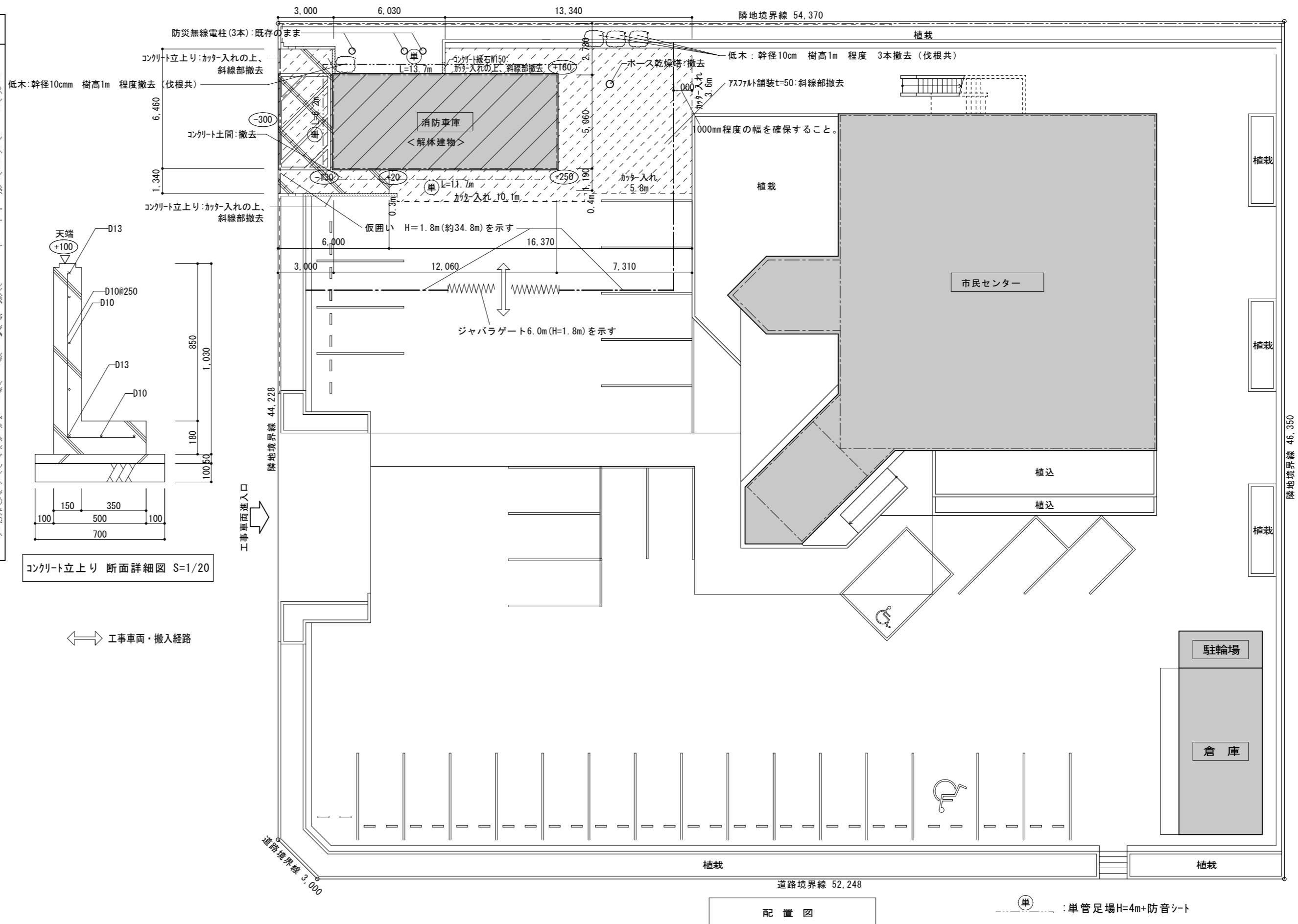
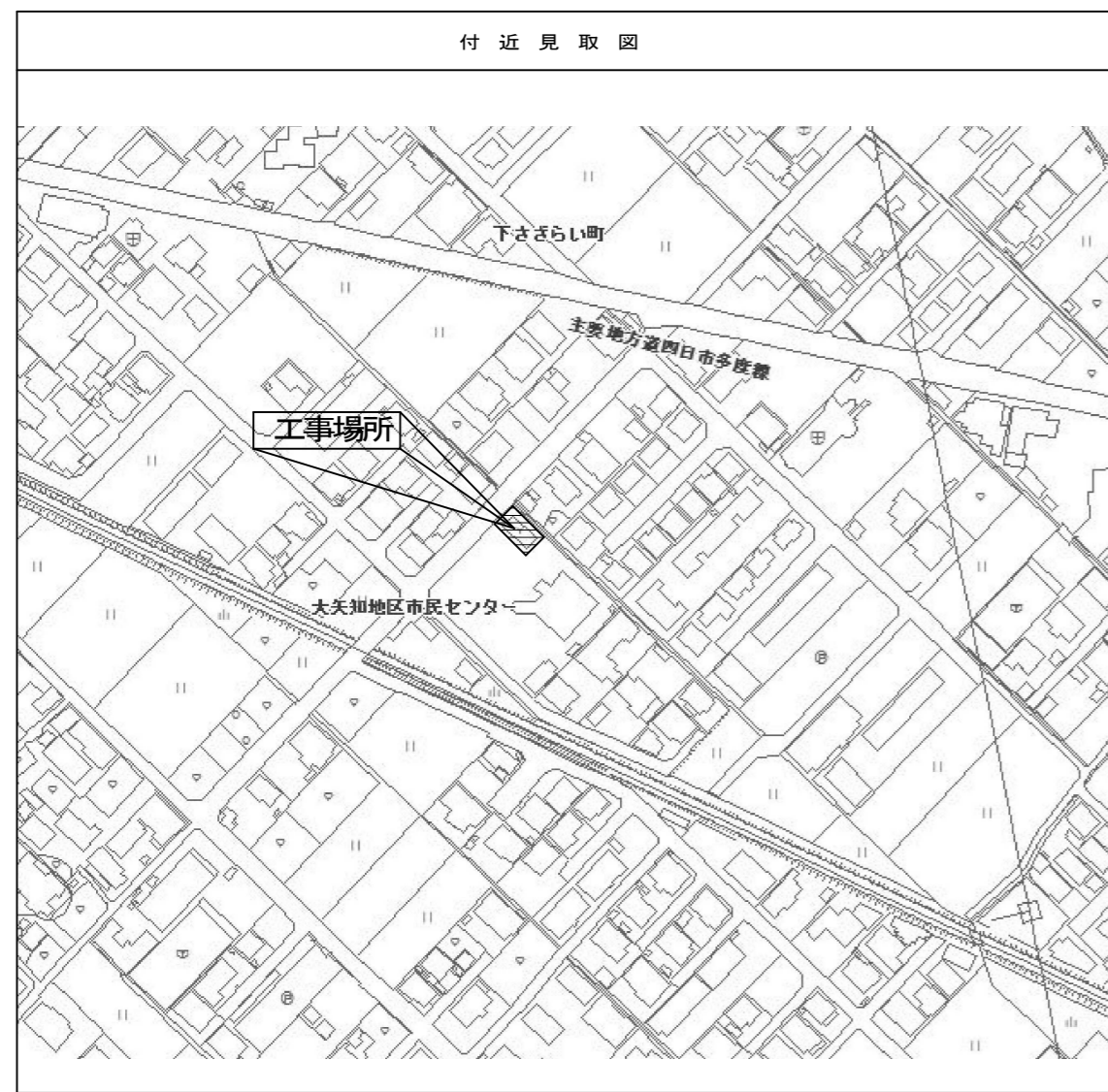
⑥ 石綿含有成形板の除去	<p>石綿含有成形板の有無 ○有 ・無 [6.5.1]</p> <p>除去成形板(内壁:ケイ酸カルシウム板 t=6)含有場所( 車庫 )</p> <p>作業場の養生 ・行う ○行わない</p> <p>※石綿含有ケイカル板第一種の除去は、隔離養生(負圧不要)を行う</p> <p>※その他成形板については、切断・穿孔・研磨等の作業を伴う場合は、隔離養生(負圧不要)を行う</p>
⑦ 特記事項	<p>※本工事に配置管理させる者(有資格者)</p> <p>※特定化学物質等作業主任者(H18.3.31以前の講習修了者)</p> <p>又は石綿作業主任者(H18.4.1以降の講習修了者)</p>

個人情報取扱注意事項	<p>個人情報の取り扱いに関する事項</p> <p>(基本事項)</p> <p>第1 この契約による工事の施工者(以下「乙」という。)は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。(施工者の義務)</p> <p>第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者(以下「乙の従事者」という。)は、当該工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱うときは、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号。以下「法」という。)第11条に規定する義務を負う。</p> <p>第3 乙は、この契約による工事に個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。(秘密の保持)</p> <p>第4 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。</p> <p>第5 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。</p> <p>第6 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。(適正な管理)</p> <p>第7 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。</p> <p>第8 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。</p> <p>第9 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。</p> <p>第10 四日市市(以下「甲」という。)は、必要があると認めるときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。(収集の制限)</p> <p>第11 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。(再提供の禁止)</p> <p>第12 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。</p> <p>第13 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。</p> <p>第14 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。(複写、複製の禁止)</p> <p>第15 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等(以下「資料等」という。)を複写し、又は複製してはならない。(持ち出しの禁止)</p> <p>第16 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。</p> <p>第17 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。</p> <p>第18 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等をして関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。</p>
	<p>暴力団等不当介入に関する事項</p> <p>1. 契約の解除</p> <p>四日市市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱(平成28年2月12日告示第38号)第3条又は第4条の規定により、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止措置を受けたときは、契約を解除することができる。</p> <p>2. 暴力団等による不当介入を受けたときの義務</p> <p>(1) 不当介入には、断固拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所属へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。</p> <p>(2) 契約の履行において、不当介入を受けたことにより、業務遂行に支障が生じたり、納期等に遅れが生じるおそれがあるときには、業務発注所属と協議を行うこと。</p> <p>(3) (1)(2)の義務を怠ったときは、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止等の措置を講ずる。</p>

<p>(資料等の返還)</p> <p>第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄し、又は消去する場合を除く。</p> <p>2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。</p> <p>(1) 紙媒体 シュレッダーによる裁断</p> <p>(2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕</p> <p>第10 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。</p> <p>4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合には、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。(研修・教育の実施)</p> <p>第11 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。(苦情の処理)</p> <p>第12 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。(定期報告及び事故発生時における報告)</p> <p>第13 乙は、甲から個人情報の取扱状況について報告を求められた場合は、直ちに報告しなければならない。</p> <p>2 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。(監査及び検査)</p> <p>第14 甲は、この契約による業務に係る個人情報の取り扱いについて、この契約の規定に基づき必要な措置が講じられていることを検証および確認するため、乙及び第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による業務を受託し、又は請け負った第三者に対して、監査又は検査を行うことができる。</p> <p>2 甲は、前項の目的を達するため、乙に対して必要な情報を求め、又はこの契約による業務の処理に関して必要な指示をすることができる。(契約解除及び損害賠償)</p> <p>第15 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。</p>
---

<p>障害者差別解消に関する事項</p> <p>1. 対応要領に沿った対応</p> <p>(1) この契約による事務・事業の実施(以下「本業務」という。)の請負(委託)を受けた者(以下「受注者(受託者)」という。)は、本業務を履行するに当たり、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号。以下「法」という。)に定めるもののほか、障害を理由とする差別の解消の推進に関する四日市市職員対応要領(平成29年2月28日策定。以下「対応要領」という。)に準じて、「障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止」及び「社会的障壁の除去のための合理的な配慮の提供」等、障害者に対する適切な対応を行うものとする。</p> <p>(2) (1)に規定する適切な対応を行うに当たっては、対応要領に示されている障害種別の特性について十分に留意するものとする。</p> <p>2. 対応指針に沿った対応</p> <p>上記1に定めるもののほか、受注者(受託者)は、本業務を履行するに当たり、本業務に係る対応指針(法第11条の規定により主務大臣が定める指針をいう。)に則り、障害者に対して適切な対応を行うよう努めなければならない。</p>
---

<p>四日市市都市整備部営繕工務課</p> <p>一級建築士 登録 第 号</p> <p>四日市市諏訪町1番5号</p>	<p>工事名</p> <p>大矢知分団車庫改築工事</p>							
	<table border="1"> <tr> <th>日付</th> <th>図面名</th> <th>縮尺</th> <th>図面番号</th> </tr> <tr> <td>令和8年4月</td> <td>特記仕様書(解体2)</td> <td>—</td> <td>K-02</td> </tr> </table> <p>令和8年3月版</p>	日付	図面名	縮尺	図面番号	令和8年4月	特記仕様書(解体2)	—
日付	図面名	縮尺	図面番号					
令和8年4月	特記仕様書(解体2)	—	K-02					

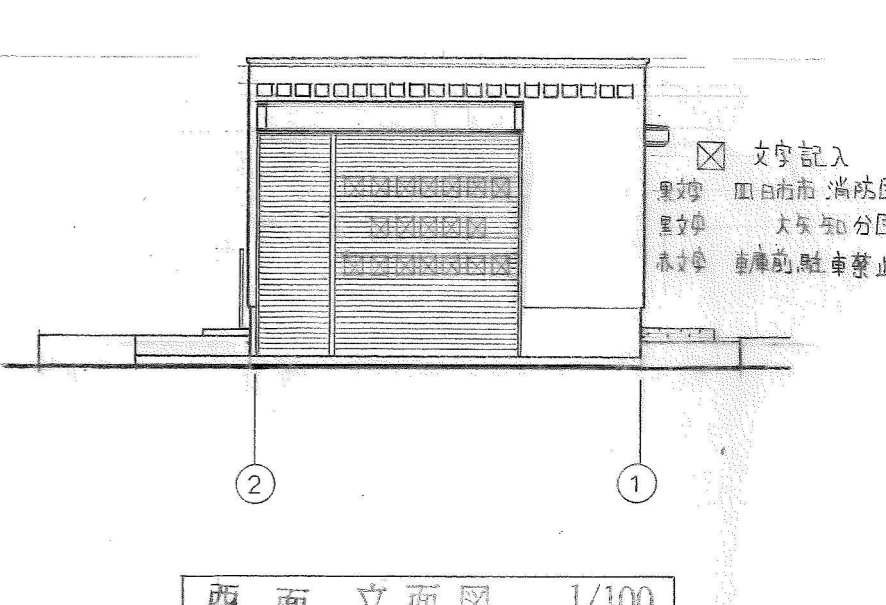
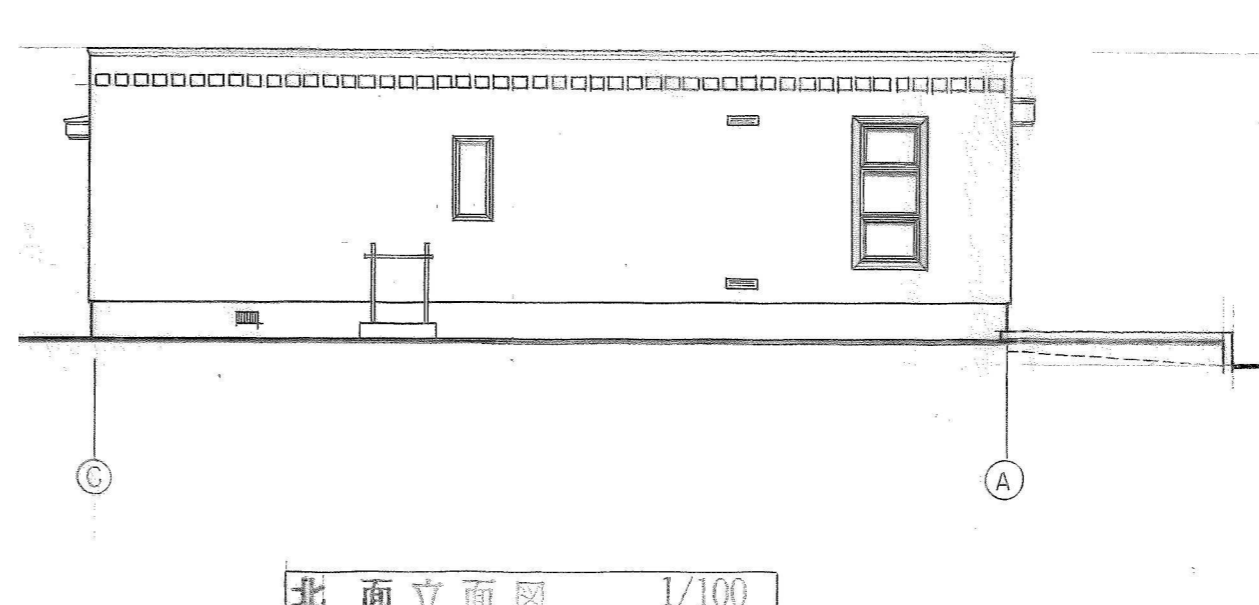
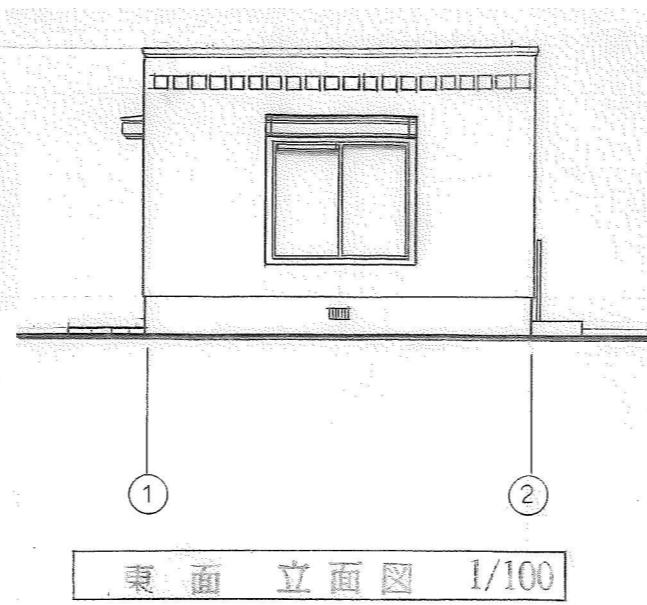
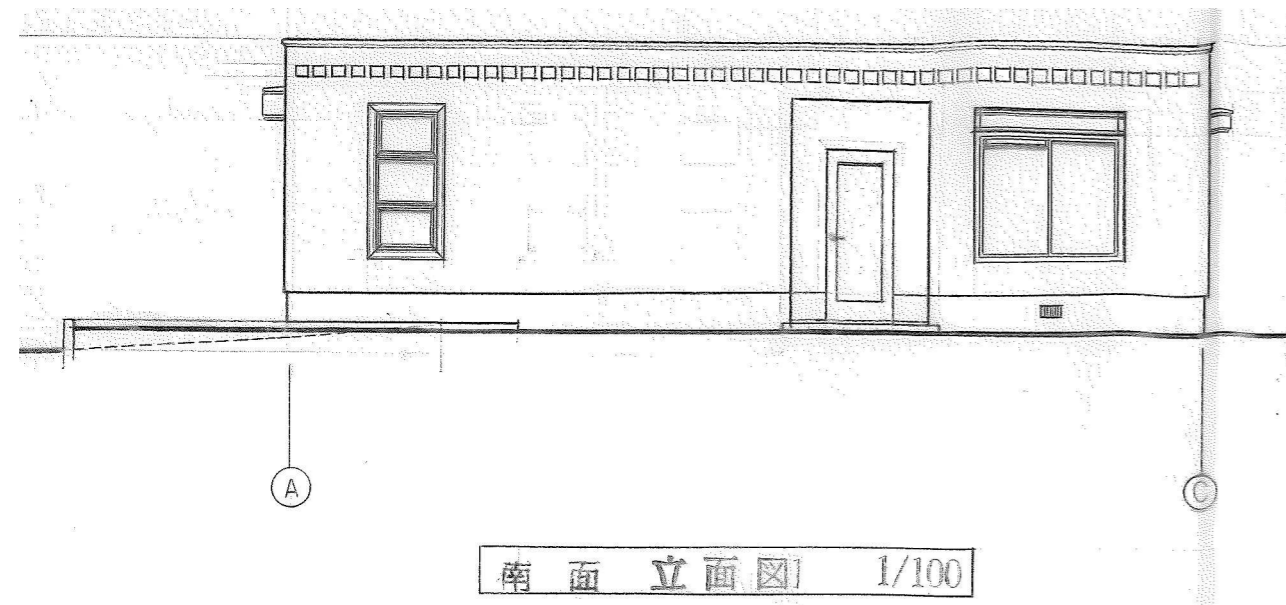
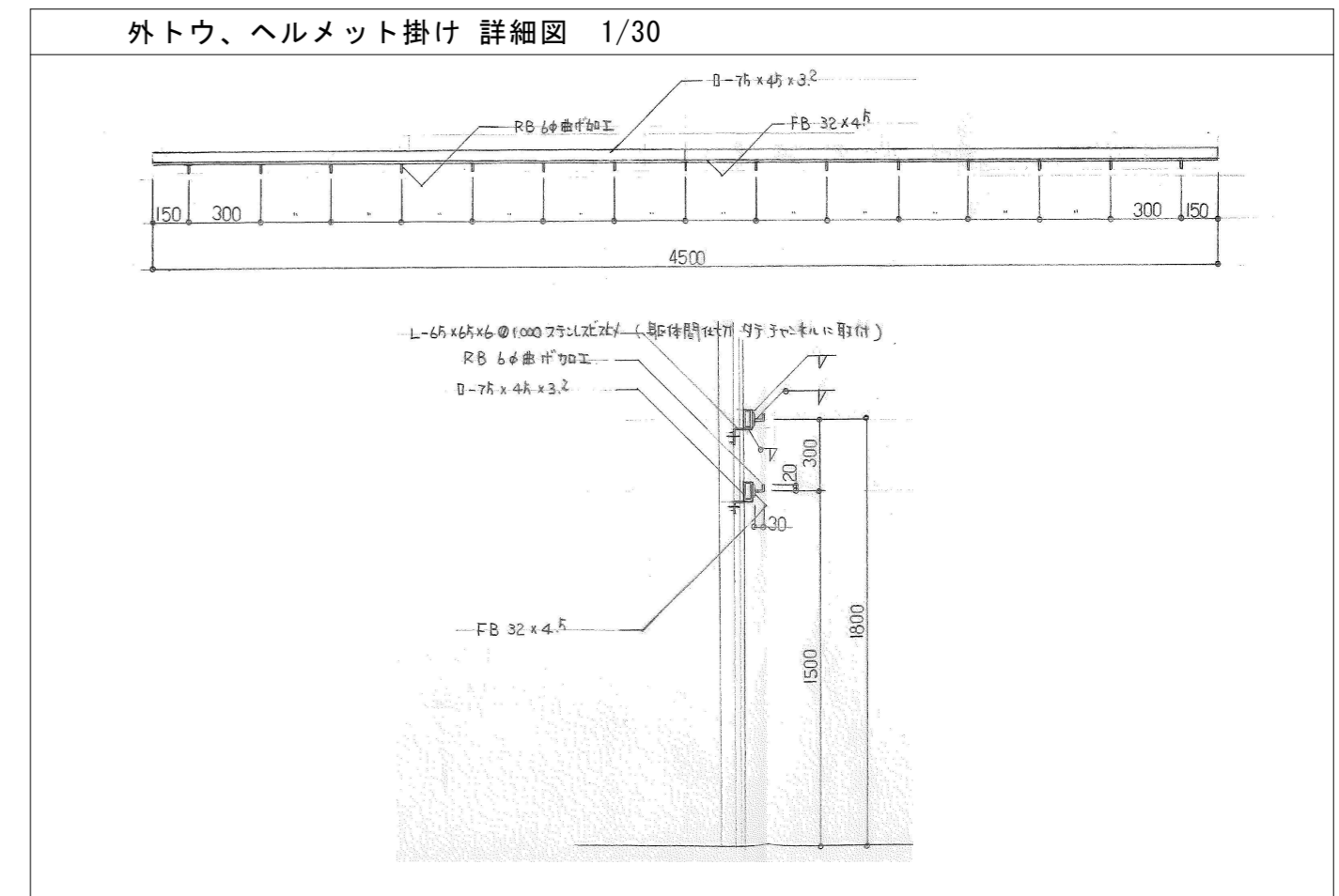
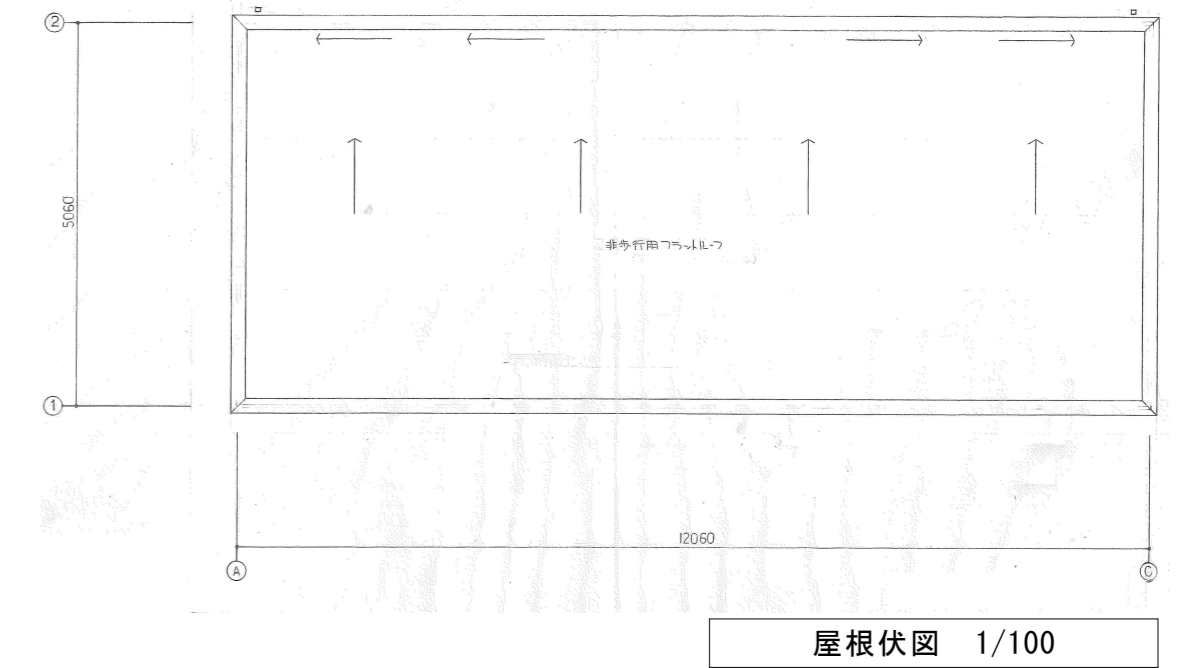
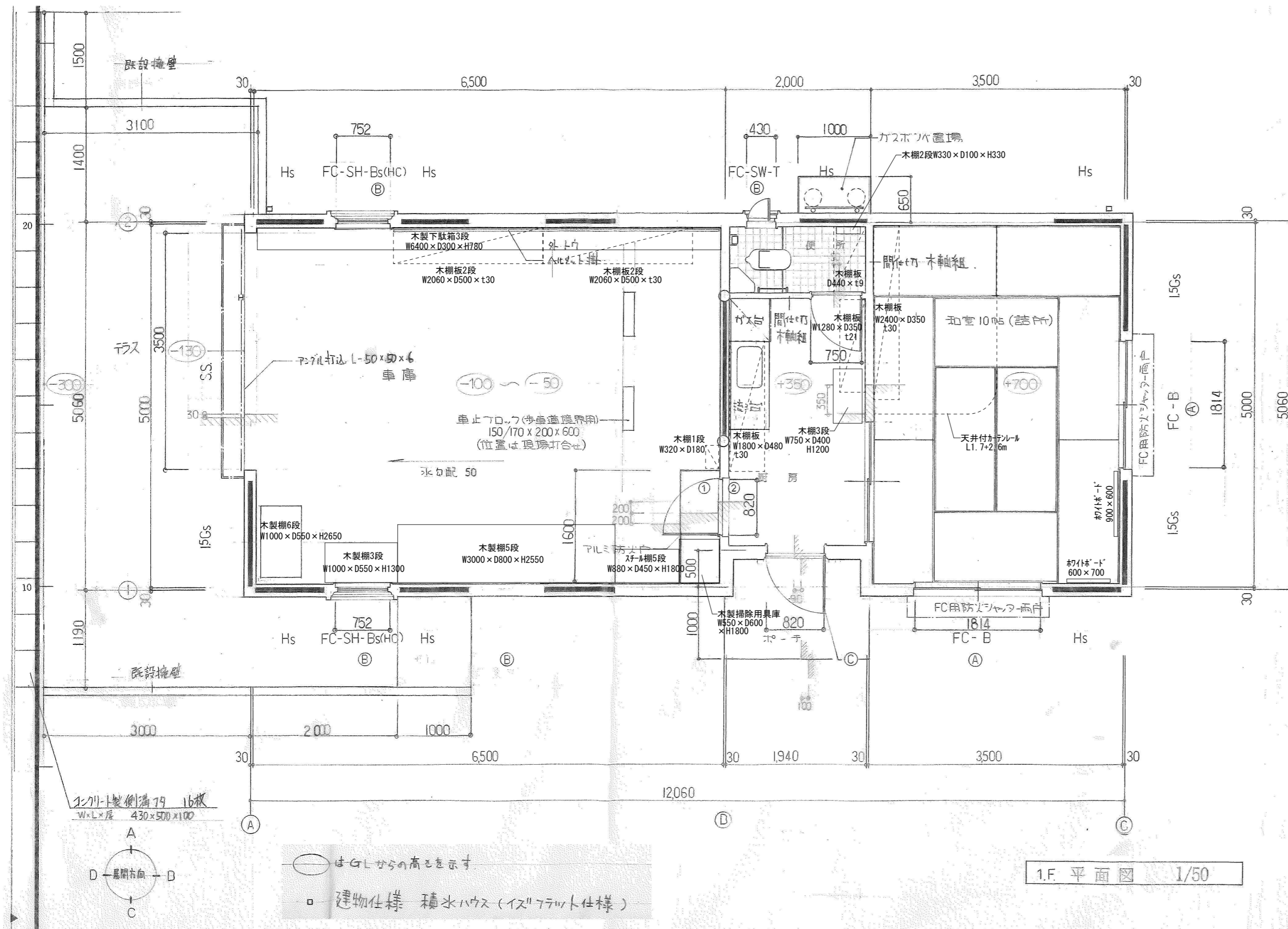


屋外仕上表

基礎	鉄筋コンクリート基礎	コンクリート引上
屋根	2/100勾配陸屋根・ALC@75T地DNシート防水@13(箇中シート)	
塀	PVC R-60断熱壁・アルミ鍍物渡付塗装(C2-シルバー)化粧タイル付(モザイク仕様)	
柱	アルミ甲出し渡付塗装	
軒	モリサイテング@12T地・ポリ・スチロール付	
外壁	軽集気包工シート110@57T地 フリースト(同色所)吹付 (目地を防錆パコウキヤウ後吹付)	
玄関トアー	理研鋼鉄(カラー)・ポリタイル渡付塗装 防虫合セガラス入り	
アルミサッシ窓	ホワイトサッシ (不二サッシ)	
シャッターボックス	工口加工塩ビ鍍板 サイカバ・アルミ鍍物渡付塗装(AW/1) (シャッターカラー鍍板) (文字記号)(車庫)	
網戸	アルミ鍍物ステンレス網	
玄関ポーチ	モルタル金ゴテ (玄関部系基礎引上)	
スロープ	コンクリートハワ仕上げ	
ホビー置場	コンクリート金ゴテ仕上げ	
床下換気口	鍍物型B&B付 170×260 3ヶ所	
面取サッシ	SUS 304 200×400 2ヶ所	

屋内仕上表

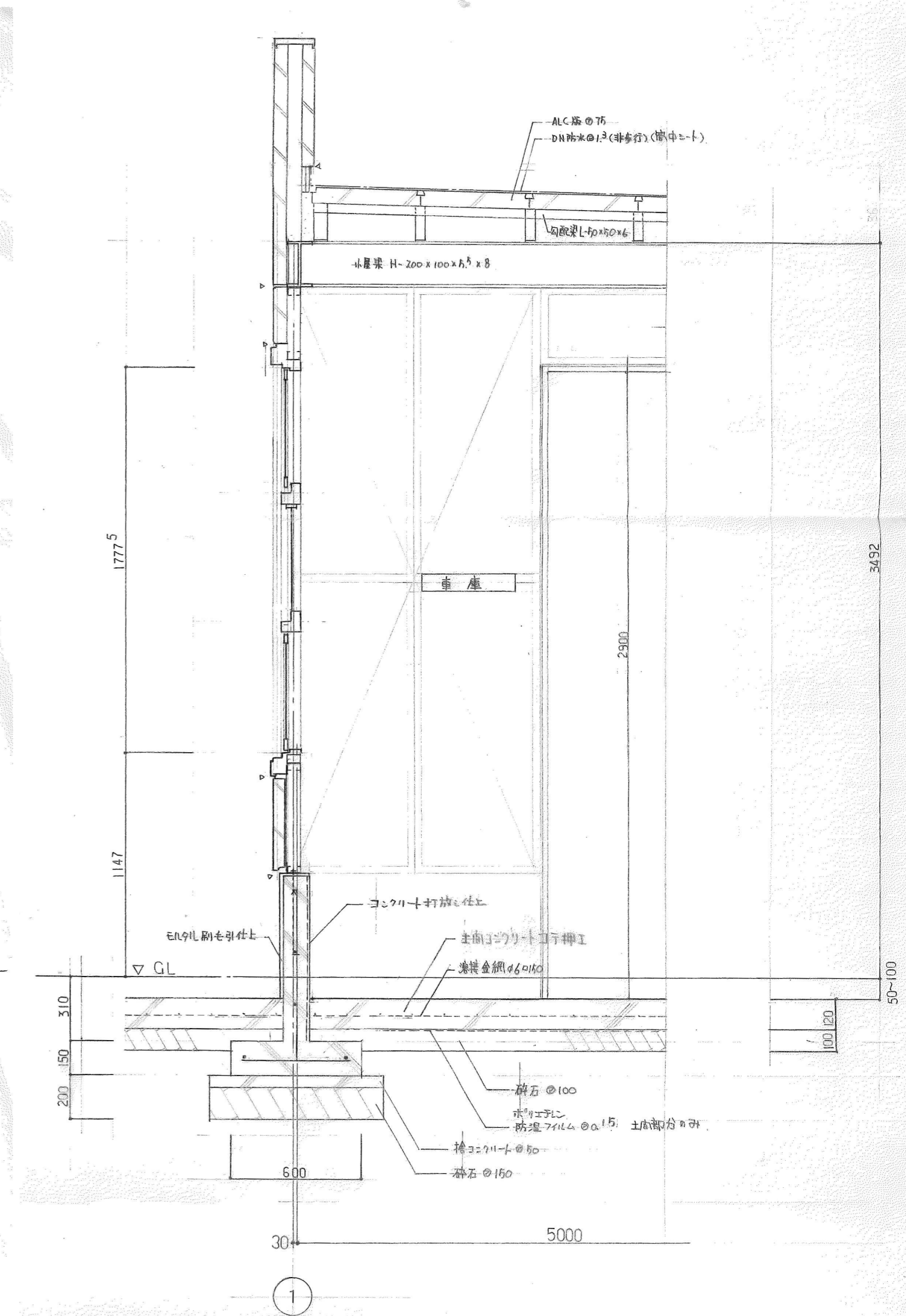
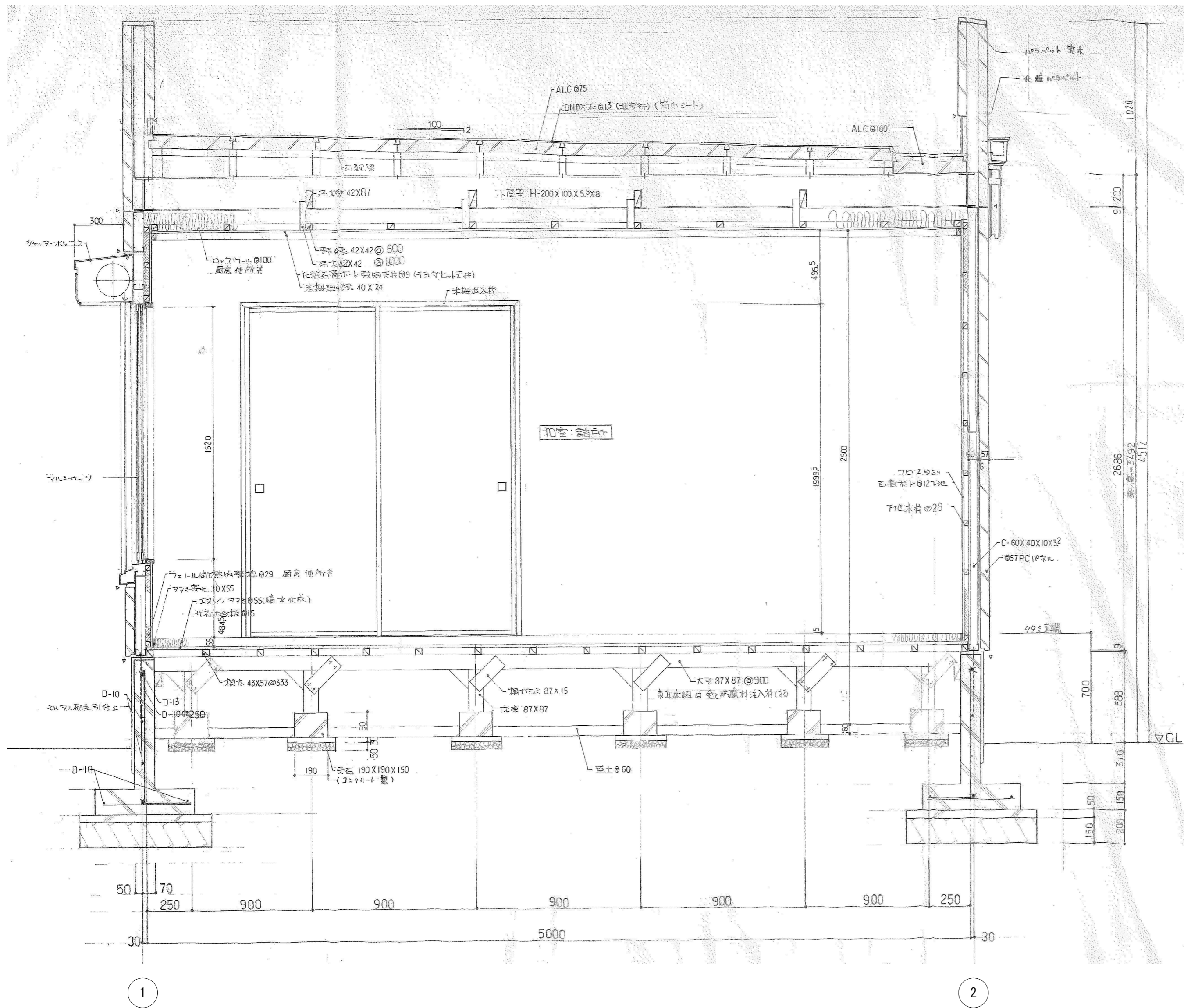
区分	階数	室名	床	巾木	腰・壁	見切	天井	備考
1F	1F	廊下	M	塩ビ化粧巾工	クロス	工製 SOP	不燃フライト=455X910	流し台 (トヨコ ビヤバク-APB-120) コンロ台 (トヨコ APP-60BG) シンク付: RHT-60 W (1.75) 18777-150 シンク(流し)
		和室	タタミ WT地	木製タタミ寄木	クロス @12PB.T地	工製素地	@9KPB(737E.1天井) W482	
2F	2F	倉庫	コンクリート 金ゴテ仕上げ	コンクリート打筋シ 金ゴテ仕上げ	仕上げ無 一部化粧板@6 (アスベスト含有)		仕上げ無	
		倉庫	モルタル モルタル地	100T	クロス @12PB.T地	工製 SOP	不燃フライト=455X910	



外部アルミサッシカラダ記号	
①	透明③MM
②	曇りガラス⑥MM
③	フロスト③MM + 曇りガラス⑥MM

☆シャッター両戸(文化シャッター)とヒコ銅板製乙種防火戸(防火第107号)

※特記無き限り全て撤去



※特記無き限り全て撤去  
ただし砕石は除く



アイ・エス建築企画

三重県知事登録(1)第1384号 一級建築士事務所 一級建築士 第227535号 生川 昌毅

Project

大矢知分団車庫改築工事

Date

2025.10.10

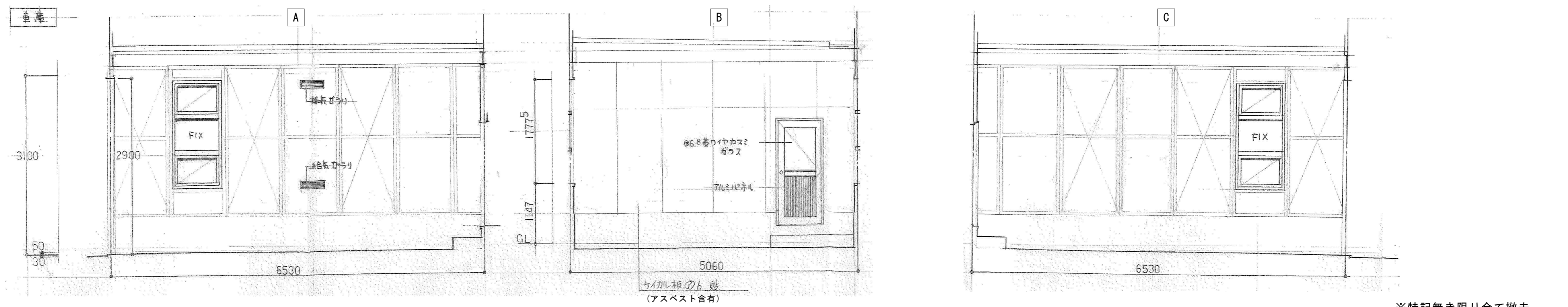
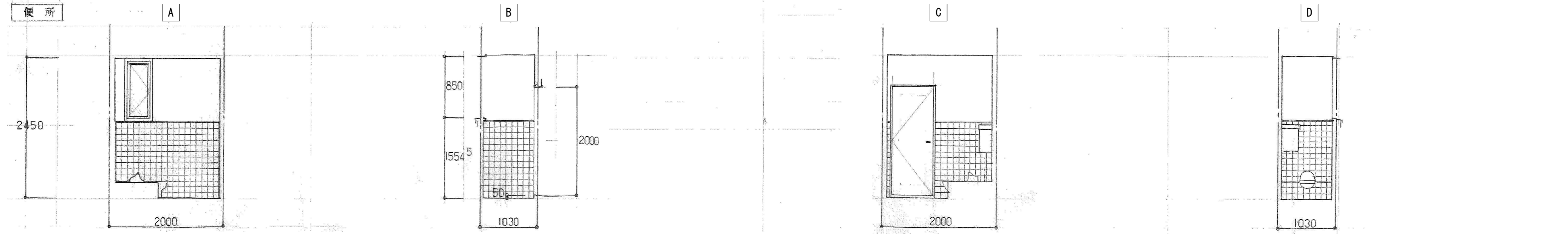
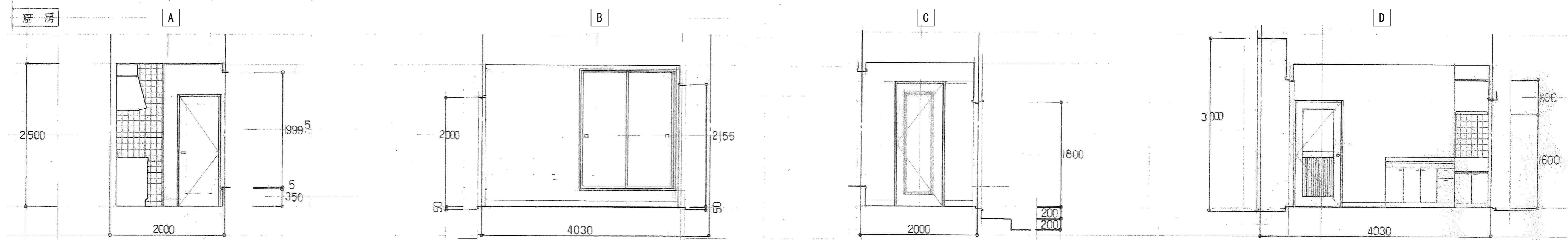
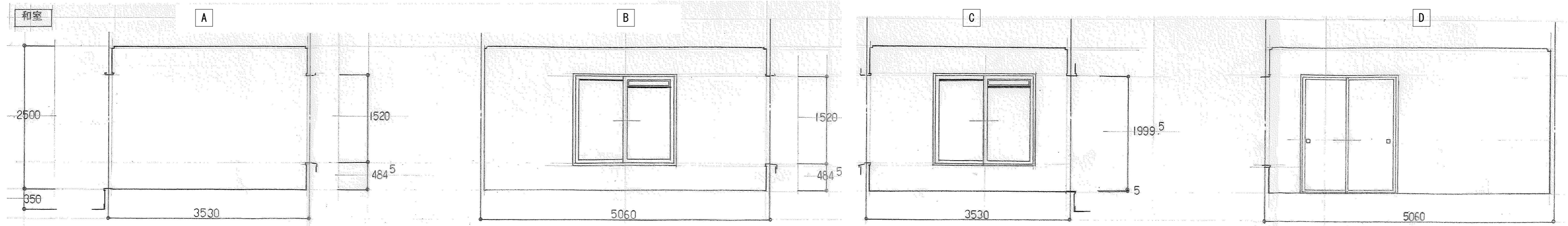
Title

Scale  
A2:1/20, A3:1/28

断面図

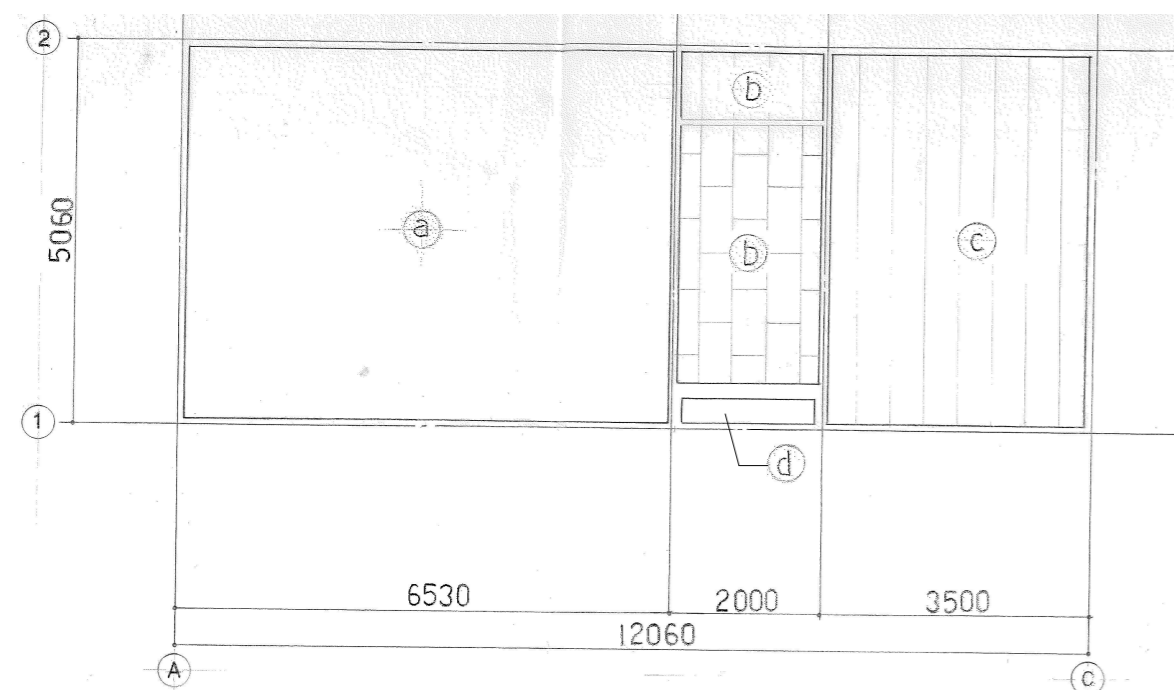
No.

K-05



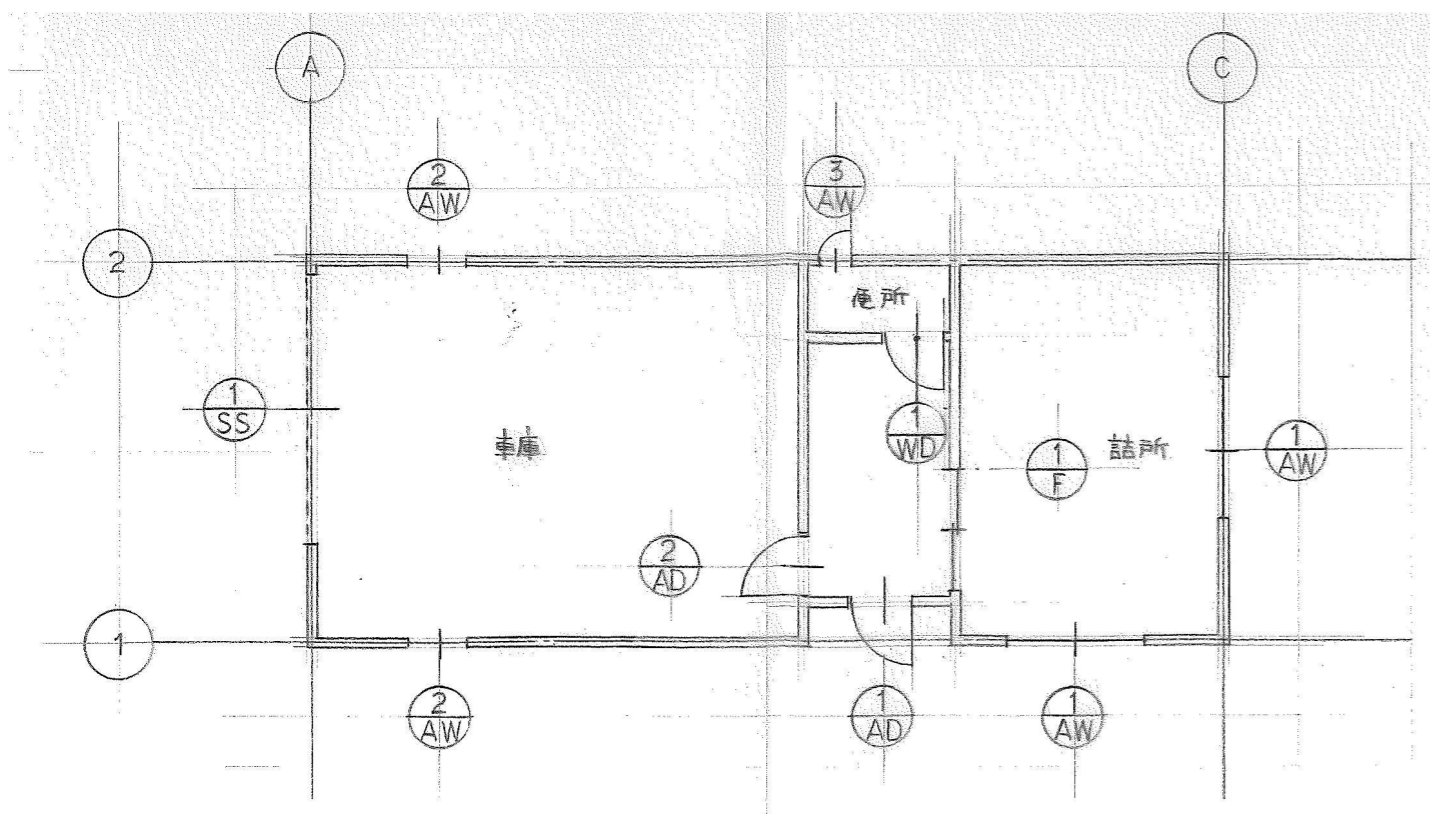
※特記無き限り全て撤去





- ① 鉄骨ALC板現シ
- ② 不燃フローリング(化粧石コウホド)φ12 4枚×910
- ③ 409E-1天井(化粧石コウホド)φ9 W 482
- ④ モニタリングφ12 セラスキン吹付

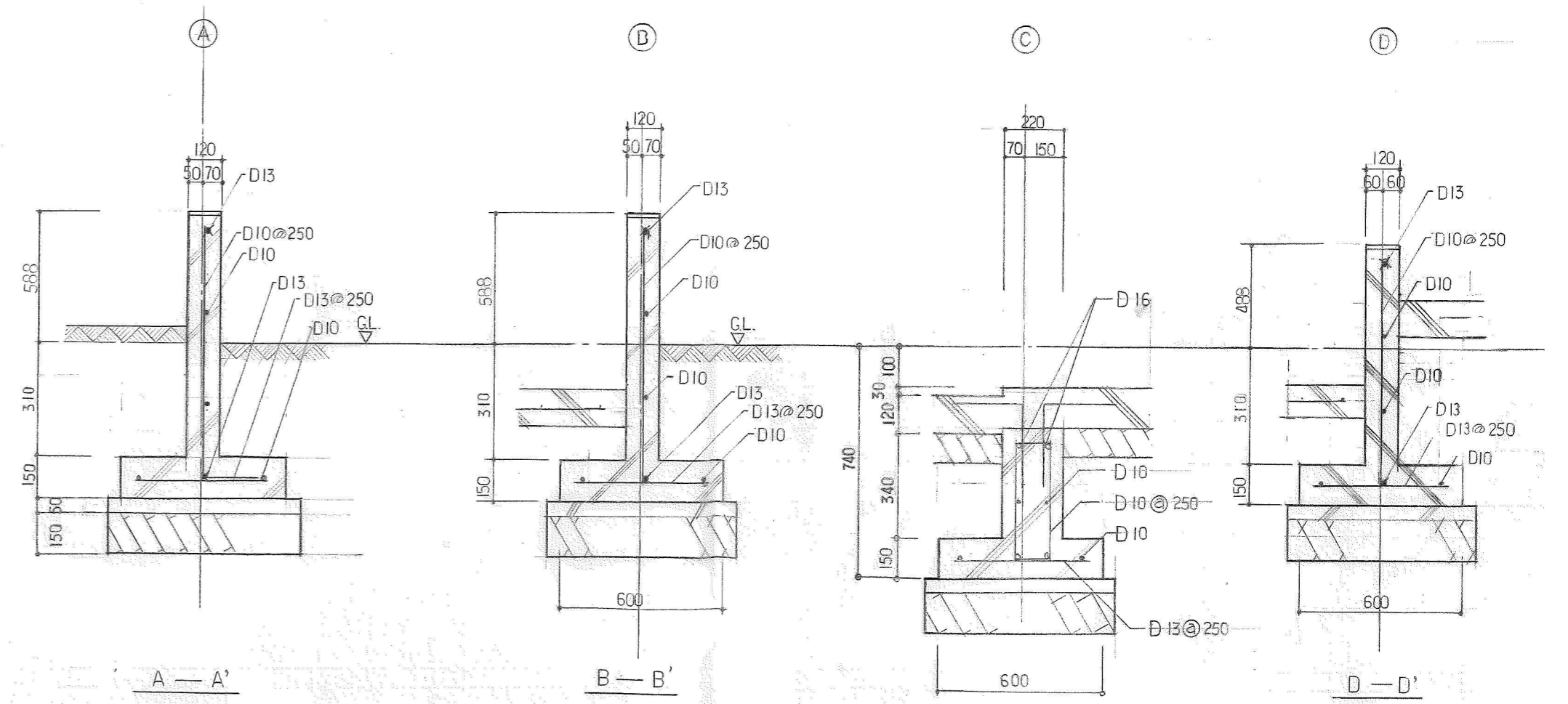
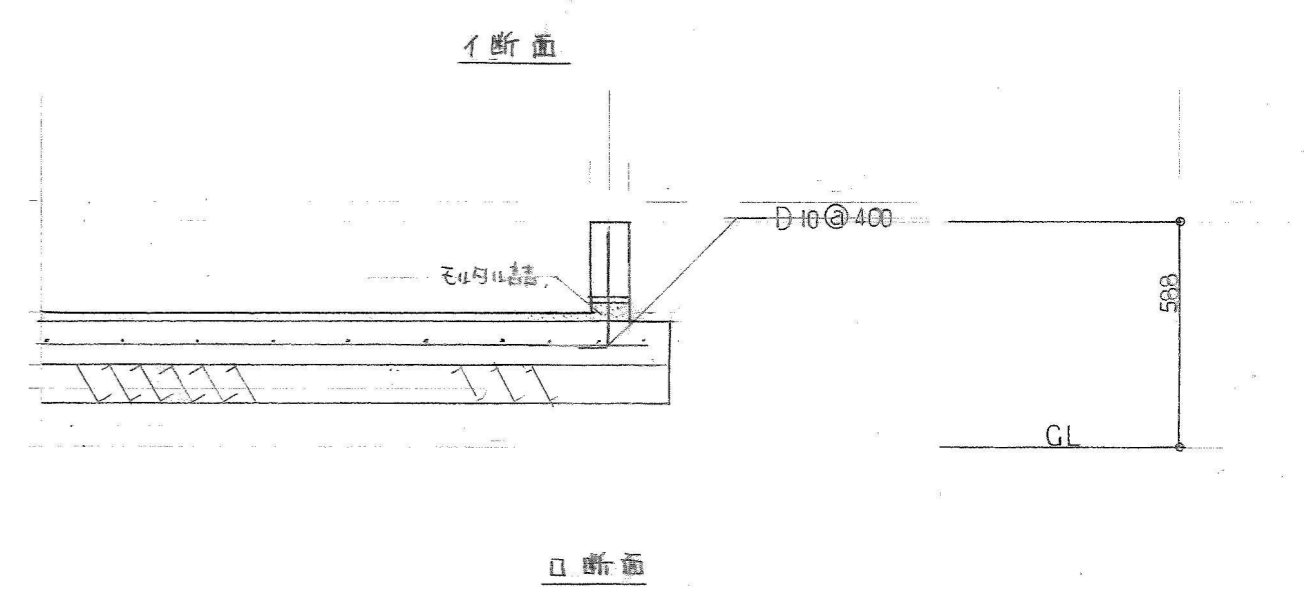
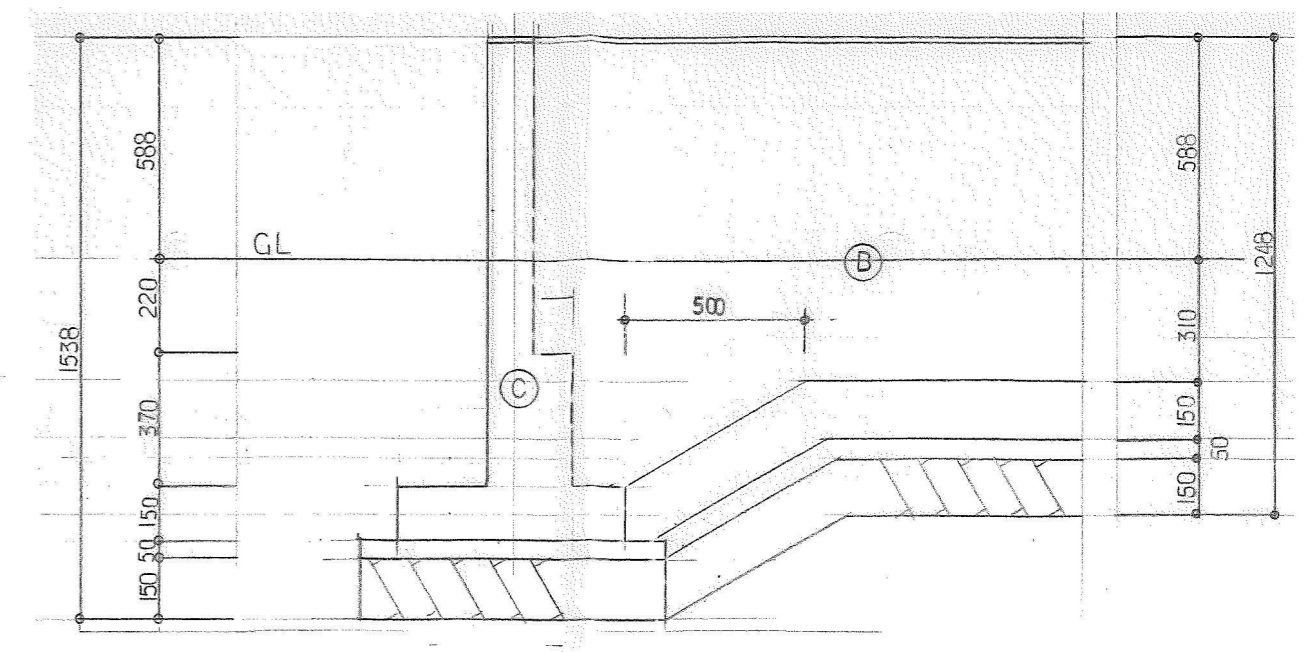
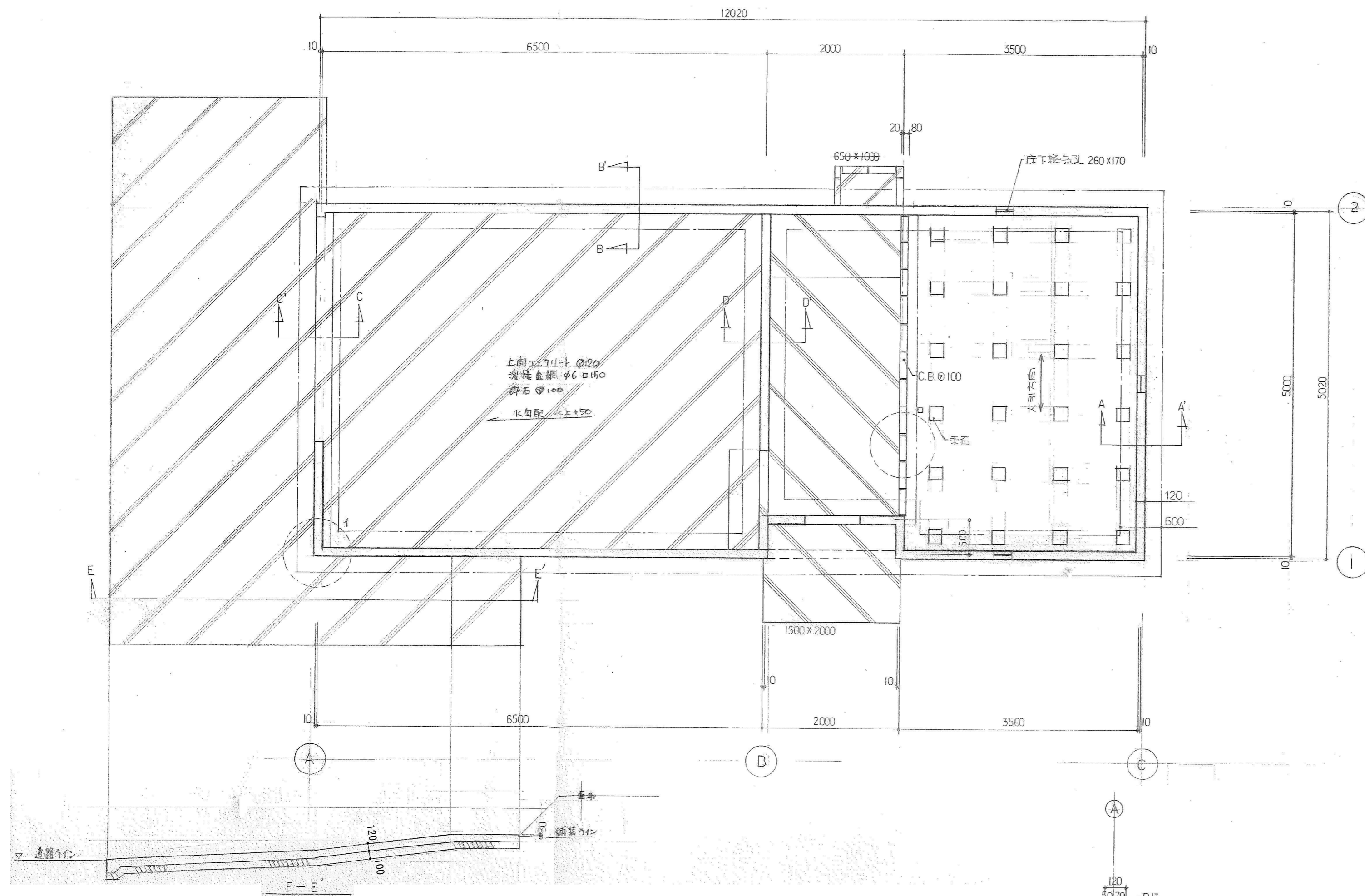
天井伏図 1/100



符号	① AW	② AW	③ AW
形状			
種別	引違いアルミ窓	引き出し窓	外開キ
寸法	1814 X 1520	752 X 1777.5	430 X 850
金物	7Lセント	アーム・ヒール・ヒンジ・カムラッチハンドル	ハンドル
硝子	S3	FW68	FW68
仕上	ホワイト	ホワイト	ホワイト
備考	防火シャッター用戸 ステンレスアシ戸		
符号	① AD	② AD	① SS
形状			
種別	化粧アルミガラス極戸	アルミガラス極戸	防火シャッター
寸法	820 X 2155	820 X 1800	3500 X 2900
金物	握り玉 シルバー鏡カムターン ドアチェック	シルバーハンドル 鏡カムターン アムストパー	シャッターボックス (カラー鉄板)
硝子	フロストガラス3 + FW68	FW68	
仕上	ホワイト	ホワイト 艶アルミパネル	
備考			スラット=0.8 (カラー鉄板)
符号	① WD	① F	
形状			
種別	片開キ戸	2本引違いフスマ	
寸法	750 X 2000 見込33	1600 X 1999.5 見込33	
金物	シルバーハンドル 内サムターン鏡	引子	
硝子			
仕上	化粧合板 フレッシュ	新島の子	
備考		ガラス貼	

- 凡例
- AW アルミ窓
  - AD アルミドア
  - SS シャッター
  - WD 木製建具
  - F フスマ
  - S フロート板ガラス
  - FW 網入りガラス

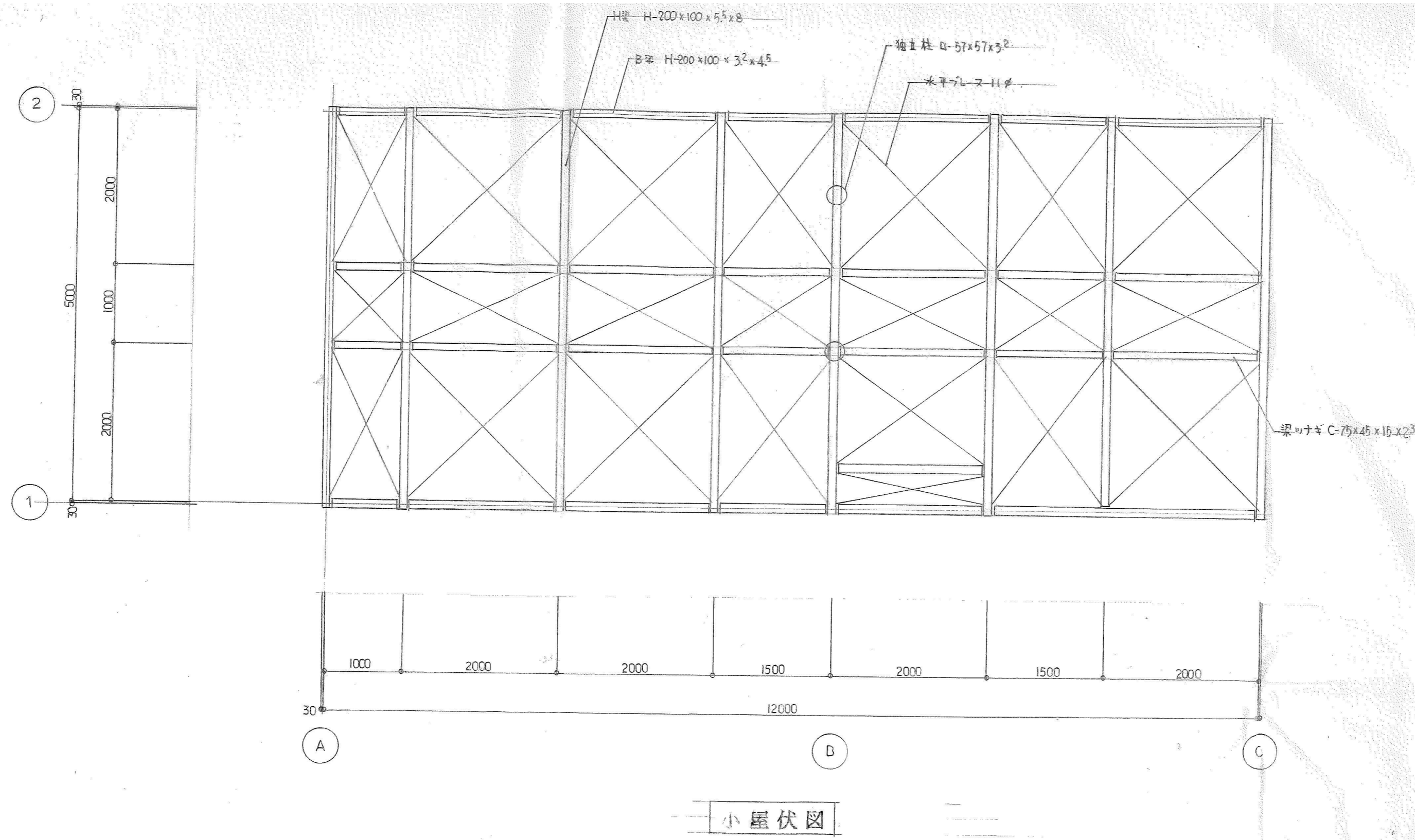
※特記無き限り全て撤去



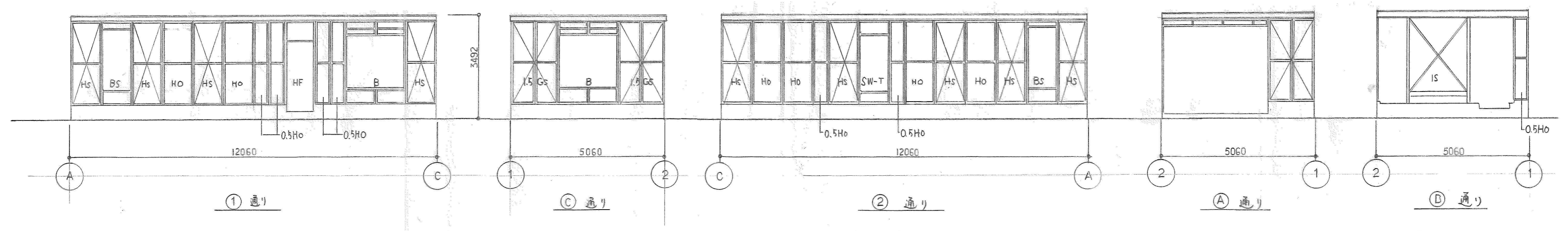
※特記無き限り全て撤去  
ただし砕石は除く

基礎断面図 S=1:20





小屋伏図

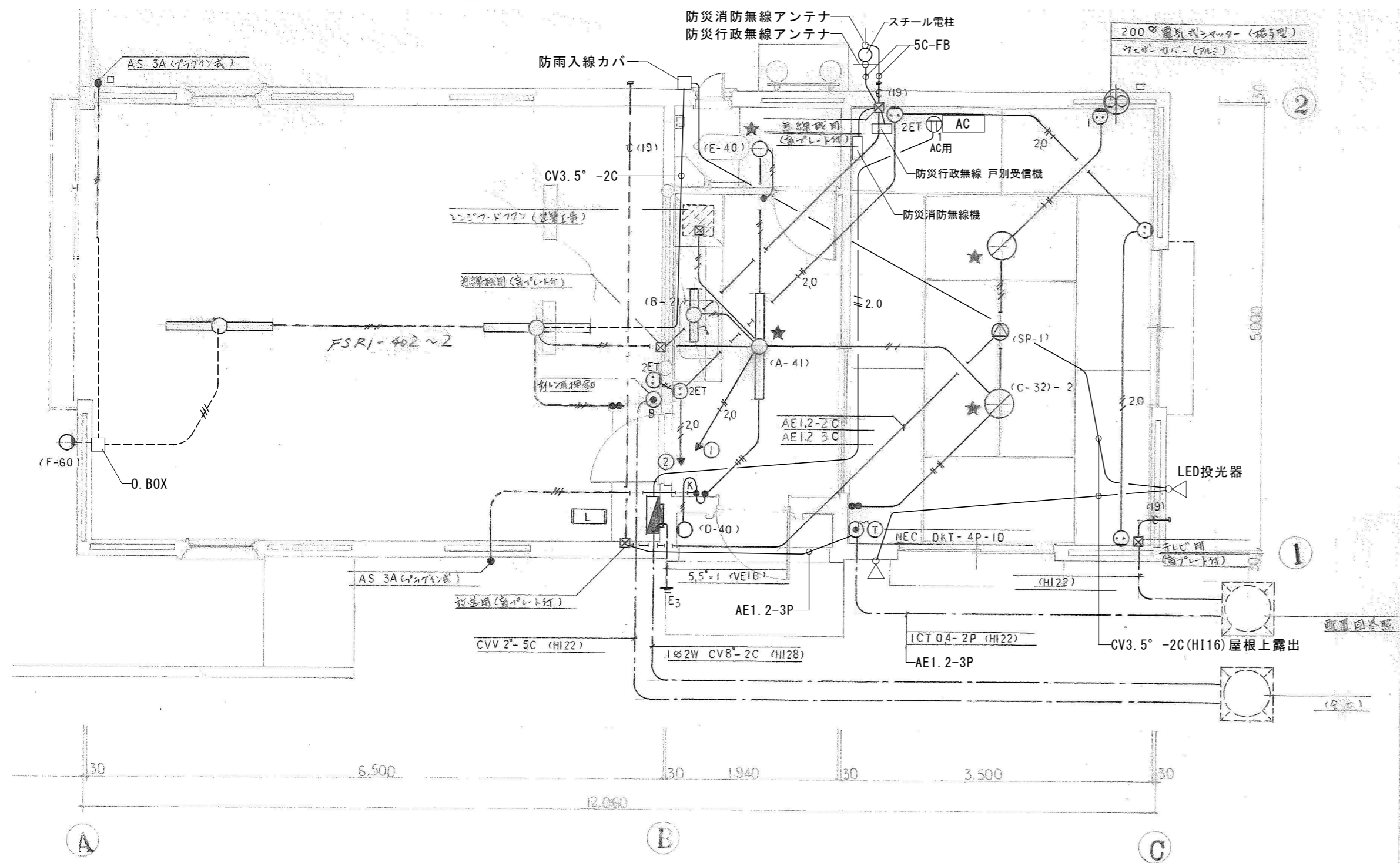


軸組図

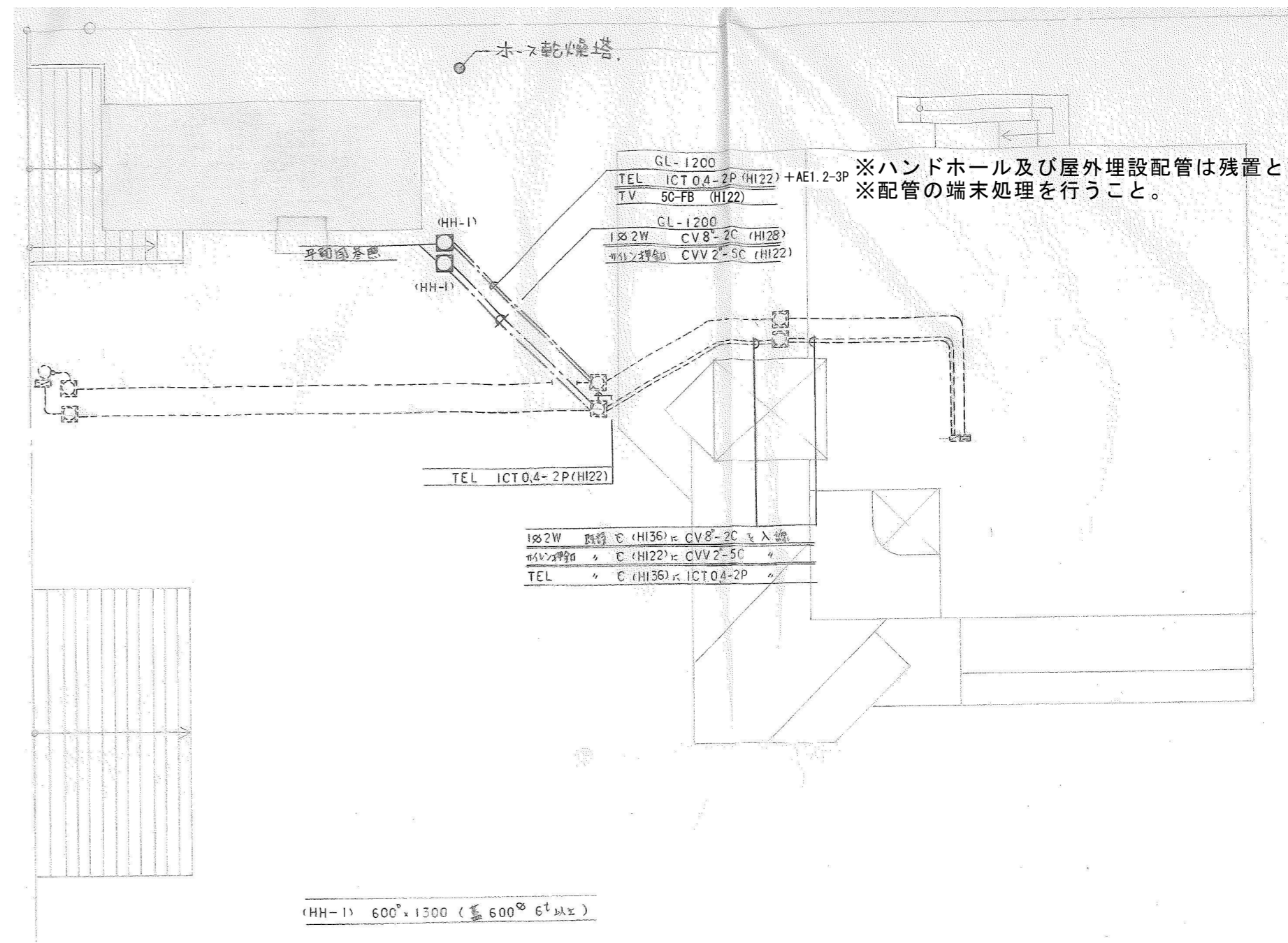
壁軸組	小屋組は全て積水仕様	Hs	筋違入 フレーム	BS	窓枠用 (貫通法による)
		Ho	無 フレーム	HF	
		Gs	入 フレーム (二枚合せ)	B	
		IS	入 フレーム (ホスパ付)	SW-T	

※特記無き限り全て撤去

A-41	B-21	C-32	D-40	E-40	F-60
FL 40W x 2 FAS4-401RH16	FL 20W x 1 FBS1-2016L16	FCL 30W x 2	IL 40W (WP)	IL 40W ISS1-40	IL 60W (WP)



1階平面図 1/50



配置図 1/200

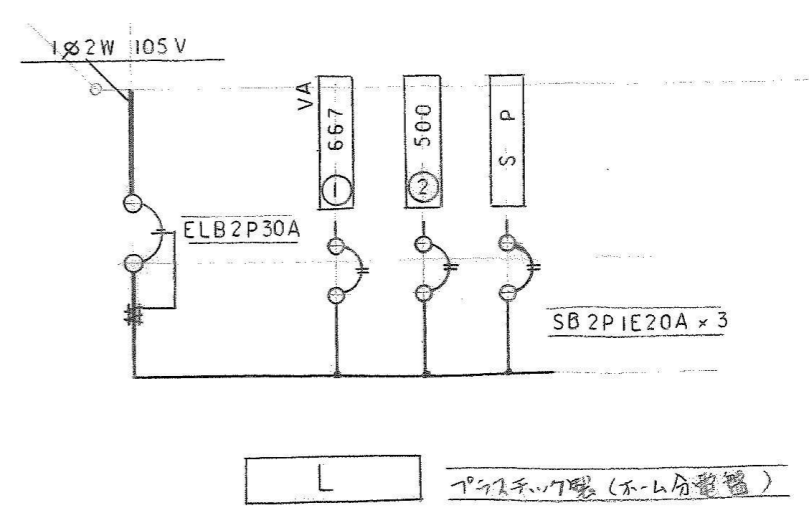
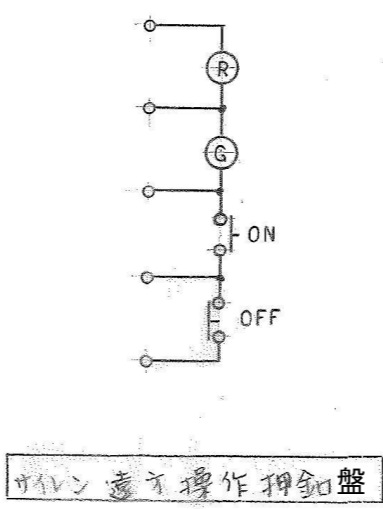
図中記入なき配線は下記とする。

- VVF1.6-3C
- 1.6-2C x 2
- 2.0-3C
- EV-1.6 x 4 L-2W1等
- VVF1.6-3C (19)

★印部分は OB 102 x 54 4角を示す。

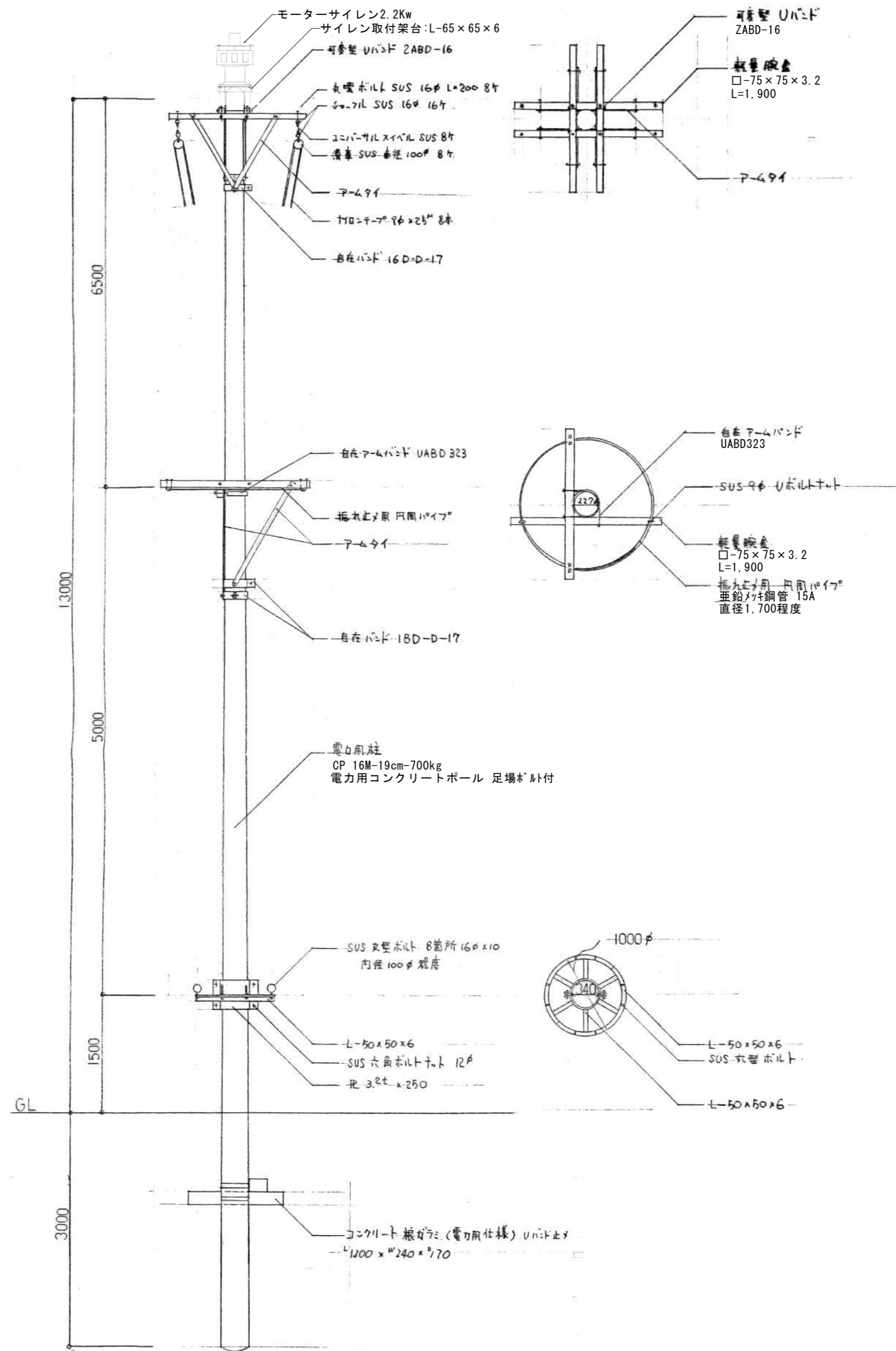
記号	名称	記号	名称
	電灯分電盤		スピーカー SC5 II-3V3-M
	蛍光灯 1 x 1個		切替スイッチ 3線型
	白熱灯 直付		電話受口
	蛍光灯 トラヤット		鉛電話機
	埋込タンブラースイッチ 片切		サイン用遠方操作押釦盤
	埋込タンブラースイッチ 片切		ハンドホール
	自動減速器		接地極
	埋込コンセント 2P15A x 1		天井内配線
	埋込コンセント 2P15A x 2		地下埋設配管
	2ET		

※無線機器、アンテナ及び電話機器は別途工事



※特記無き限り全て撤去





ホース乾燥塔

※特記無き限り全て撤去

